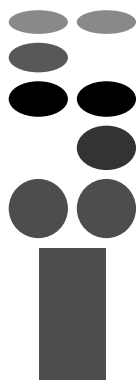


島根県立石見美術館

平成 17 [2005] 年度 年報

Iwami Art Museum

Annual Report April 2005 - March 2006



島根県芸術文化センター
SHIMANE ARTS CENTER
石見美術館
IWAMI ART MUSEUM

目次 Contents

活動方針	1
開館までの経緯 検討委員会等	2
開館までのミュージアム・トーク等	5
オープニング	7
展覧会一覧	8
コレクション展	9
企画展	21
その他の展覧会	27
教育普及活動	28
ボランティア	32
連携事業	33
所蔵作品一覧	34
受贈作品一覧	48
所蔵作品貸出実績	49
入館者数一覧・ミュージアムパスポート会員数一覧	50
予算概要	51
島根県芸術文化センター条例	52
島根県立石見美術館管理規則	57
館の概要	60
施設概要	61
面積一覧	62
運営組織体制	63
利用案内	64

活動方針

島根県芸術文化センター

島根県芸術文化センターは、「島根県立石見美術館」と「島根県立いわみ芸術劇場」の複合施設です。この施設は、石見地域の芸術文化拠点として、美術や音楽、演劇などの分野が相互に協調し、誘発し合いながら、多様で質の高い芸術文化の鑑賞機会を提供します。また、石見地域にはぐくまれてきた文化を大切にしながら、地域とともに新しい芸術文化を育むとともに、その創造をめざします。

活動方針

- 1: 芸術を身近に感じる仕組みづくり
- 2: 芸術文化を通じたネットワークの支援・育成
- 3: 非日常空間の提供
- 4: 世界に目を向けた情報発信

島根県立石見美術館

- 1: 幅広い視野で多彩な企画展を開催します。また、テーマ性をもった質の高い常設展示を行います。
- 2: 地域や分野、年代にとらわれず、優れた国内外の作品を収集します。
- 3: 美術作品の収集、および展示、保存、また教育普及に関する調査研究を行います。
- 4: 美術に関する理解を深めるための講演会やワークショップなどの教育普及活動を行います。

島根県立いわみ芸術劇場

- 1: 芸術文化を鑑賞する場として、また創造する場としての活動を行います。
- 2: 優れた芸術文化に接することができるよう充実した自主事業を行います。
- 3: 舞台芸術に関する研修機会を提供します。

開館までの経緯 検討委員会等**■開館までの経緯(概要)**

島根県芸術文化センターは、「石見に美術館を」という県民の熱い思いを受け、美術館と劇場の機能をあわせ持つ全国有数の複合施設として誕生した。
平成3年に有識者で構成する博物館整備検討委員会から石見部への美術館整備について提言を受け、平成6年に益田市に建設することが決定された。

さらに、平成11年には、県立石西県民文化会館の老朽化を踏まえて、美術館とホールの複合施設として整備することとし、あわせて、利便性や文化的環境に配慮し、現地に建設することが決定された。

施設の具体化にあたっては、優れた創造性と高度な技術力を有する設計者からの提案を求めるとし、平成13年に設計競技を実施し、内藤廣建築設計事務所の提案が選定された。

この設計においては、37,000㎡の広大な敷地を生かし、町並みとの調和やホールと美術館相互の機能連携が図られるよう、段差のないバリアフリーの平面的配置を基本とした。

施設は、広々とした中庭を中心に、4つの展示室を有する美術館や、大小2つのホールなどを配置し、芸術文化活動の拠点にふさわしい空間を創出するとともに、時々刻々と色合いが変化する石州瓦を屋根や外壁に28万枚用いるなど、地域の伝統技術を現代建築に生かした施設となった。

なお、この瓦には、5千人に及ぶ県民、そして本県知事、さらには広島県知事、山口県知事のグラントワへ夢を託す署名が寄せられ、大ホールの大屋根に葺かれている。

工事は、平成14年10月に着工し、2年11ヶ月の工事期間と総事業費168億円をもって、平成17年9月に完成をみた。

■博物館整備検討委員会

平成3年1月に「博物館整備に関する提言」を示し、石見部としては〈海に見える美術館構想〉を打ち出した。

委員：内山武夫(京都国立近代美術館学芸課長)

平野邦雄(東京女子大学教授)

前田泰生(島根大学教授)

澄川喜一(東京藝術大学教授)

並河萬里(写真家)

天津 恵(日本美術館連名会員)

山中徳次(島根洋画会常任委員長)

田部長右衛門(島根経済同友会代表幹事)

木幡修介(山陰中央新報社社長)

金織民憲(県議会総務委員長)

高橋悦郎(副知事)

■島根県立西部美術館(仮称)基本構想検討委員会

第1回島根県立西部美術館(仮称)基本構想検討委員会

実施日：平成9年7月18日

場所：島田家(益田市)

第2回島根県立西部美術館(仮称)基本構想検討委員会

実施日：平成9年9月8日

場所：サンラポー松江(松江市)

第3回島根県立西部美術館(仮称)基本構想検討委員会

実施日：平成9年12月1日

場所：サンラポー松江(松江市)

第4回島根県立西部美術館(仮称)基本構想検討委員会

実施日：平成10年3月17日

場所：サンラポー松江(松江市)

委員：秋好正也(雪舟ますだ美術大賞展実行委員長)

足立明男(山口県立萩美術館・浦上記念館館長)

大高正人(日本建築士連合会副会長)

木幡修介(山陰中央新報社代表取締役社長)

澄川喜一(東京藝術大学学長)

田部長右衛門(山陰中央テレビジョン放送代表取締役社長)

富山秀男(京都国立近代美術館館長)

八田典子(島根県立国際短期大学講師)

■県立西部美術館アドバイザー会議

第1回県立西部美術館アドバイザー会議

実施日：平成12年2月1日

場所：サンラポー松江(松江市)

内容：美術館準備状況に対するアドバイス

アドバイザー：秋好正也(雪舟ますだ美術大賞展実行委員長)

足立明男(山口県立萩美術館・浦上記念館館長)

大高正人(日本建築士連合会副会長)

木幡修介(山陰中央新報社代表取締役社長)

澄川喜一(東京藝術大学学長)

田部長右衛門(山陰中央テレビジョン放送代表取締役社長)

富山秀男(京都国立近代美術館館長)

開館までの経緯 検討委員会等

西島建男(元朝日新聞学芸部編集委員)
八田典子(島根県立国際短期大学講師)

■県民文化会館・美術館複合施設基本構想検討委員会

第1回検討委員会(全体会)

実施日:平成12年2月22日
場 所:益田

第1回専門部会

実施日:平成12年3月23日
場 所:東京

第2回専門部会

実施日:平成12年4月19日
場 所:東京

第2回検討委員会(全体会)

実施日:平成12年4月25日
場 所:松江

第3回専門部会

実施日:平成12年5月11日
場 所:東京

第4回専門部会

実施日:平成12年7月26日
場 所:東京

第3回検討委員会

実施日:平成12年8月10日
場 所:益田

検討委員会による基本構想(骨子案)検討状況説明会・意見聴取

実施日:平成12年8月10日
場所:益田

第4回検討委員会

実施日:平成12年9月11日
場所:松江

委員:(専)足立明男(山口県立萩美術館・浦上記念館館長)

(専)岩町 功(石中央文化ホール館長)

牛尾郁夫(益田市市長)平成12年8月～

田中八洲男(益田市市長)平成12年2月～8月

(専)大高正人(日本建築士会連合会常任顧問)

岡本 昇(山陰中央新報社西部本社代表)

(専)清原茂治((財)島根県文化振興財団専務理事)

(専)小谷喬之助(日本大学名誉教授)

下森華子(日原町文化協会会長)

島田雅治(島根県立国際短期大学学長)

永見勝徳(益田の文化を育てる会会長)

(専)八田典子(島根県立大学助教授)

三浦秀史(美鹿町村会会長)(柿木村村長)

三好茂子(匹見町生涯学習審議会会長)

(専)山崎篤典((有)山崎音楽事務所代表取締役)

米山道雄(島根県芸能文化協会会長)

森本直知(島根県環境生活部次長)平成12年4月～

永田伸二(島根県環境生活部次長)平成12年2月～3月

(専)・・・専門部会委員

■島根県芸術文化センター(仮称)建設設計審査委員会

委員:牛尾郁夫(益田市市長)

大高正人(日本建築士会連合会常任顧問)

香山壽夫(東京大学名誉教授)

小谷喬之助(日本大学名誉教授)

木幡修介((財)八雲本陣記念財団理事長)

篠原 修(東京大学工学部教授)

鈴木 恂(早稲田大学教授)

澄川喜一(東京藝術大学学長)

長谷川堯(武蔵野美術大学造形学部教授)

福成孝三(島根県土木部長)

三浦秀史(美鹿町村会会長)(柿木村村長)

飯塚 紀(島根県環境生活部長)

開館までの経緯 検討委員会等

設計競技参加者一覧：(株)池原義郎・建築設計事務所
(株)内井昭蔵建築設計事務所
(株)佐藤総合計画
(株)横総合計画事務所
(株)柳澤孝彦タック建築研究所
(株)内藤廣建築設計事務所
(株)新居千秋都市建築設計

島根県芸術文化センター(仮称)設計案決定

実施日：平成13年3月23日

最優秀設計者：事務所名 (株)内藤廣建築設計事務所

所在地 東京都千代田区

代表者 内藤 廣(1950年生まれ)

主な作品 牧野富太郎記念館(高知県)1998年
茨城県立天心記念五浦美術館(茨城県)1997年
海の博物館(三重県)1992年
安曇野ちひろ美術館(長野県)1996年

■島根県芸術文化センター(仮称)開設準備委員会

第1回準備委員会

実施日：平成16年7月29日

場所：石西県民文化会館・会議室

第2回準備委員会

実施日：平成16年10月22日

場所：島根県民会館・会議室

第3回準備委員会

実施日：平成17年2月18日

場所：石西県民文化会館・会議室

第4回準備委員会

実施日：平成17年5月10日

場所：島根県芸術文化センター

第5回準備委員会

実施日：平成17年8月31日

場所：島根県芸術文化センター

委員：澄川喜一(島根県芸術文化センター長)

副島三喜男(島根県立美術館館長)

山崎悠雄(島根県文化振興財団専務理事)

山崎篤典(島根県立いわみ芸術劇場館長)

岩町 功(石中央文化ホール顧問)

八田典子(島根県立大学助教授)

木幡修介(山陰中央新報社取締役相談役・島根ミュージアム協議会顧問)

下森華子(島根県立男女共同参画センター「あすてらす」館長)

高橋和男(島根県立いわみ芸術劇場副館長)

牛尾郁夫(益田市市長)

井上勝博(島根県環境生活部長)

■島根県芸術文化センター協議会

第1回島根県芸術文化センター協議会

実施日：平成18年3月17日

場所：島根県芸術文化センター

委員：秋田千鶴(島根県伝統工芸品審査委員)

磯野恭子(岩国市教育長)

大橋敏博(島根県立大学教授)

片山明子(中国新聞社文化グループ記者)

木幡修介(山陰中央新報社相談役)

酒井忠康(世田谷美術館館長)

佐藤克明(公立文化施設活性化アドバイザー)

下森華子((財)しまね女性センター理事長)

城市 創(島根県観光戦略会議委員)

高須司登(中国電力会長)

高橋一清((社)松江観光協会 観光文化プロデューサー)

太宰久夫(玉川大学芸術学部パフォーミング・アーツ学科助教授)

田中啓子(津和野町観光協会副会長)

丸 磐根(山陰合同銀行会長)

室崎富恵(島根県公安委員長)

開館までの活動 ミュージアム・トーク等

■ミュージアム・トーク

ミュージアム・トーク97 PART1

演題:美術館とは何か
講師:大島清次(世田谷美術館館長)
実施日:平成9年9月10日
会場:石川県民文化会館・小ホール

ミュージアム・トーク97 PART2

演題:学芸の現場から
講師:榎本 徹(山口県立美術館副館長)
実施日:平成9年11月10日
会場:石川県民文化会館・小ホール

ミュージアム・トーク98 PART1

演題:森鷗外と日本の画家たち
講師:山崎一穎(跡見学園女子大学学長)
実施日:平成10年6月20日
会場:益田市人権センター「あすなろ館」

ミュージアム・トーク98 PART2

演題:神戸ファッション美術館と現代
講師:三好栄三(神戸ファッション美術館学芸部長)
実施日:平成10年8月8日
会場:益田市人権センター「あすなろ館」

ミュージアム・トーク98 PART3

演題:世界のファッションと森英恵
講師:大内順子(ファッション評論家)
実施日:平成10年9月5日
会場:石川県民文化会館・大ホール

ミュージアム・トーク98 PART4

演題:島根県立美術館の展望
講師:副島三喜男(島根県立美術館館長)
実施日:平成10年10月31日
会場:益田市人権センター「あすなろ館」

ミュージアム・トーク99 PART1

演題:ミュンヘンにおける森鷗外と原田直次郎
講師:中島順一(北九州市立美術館学芸課長)
実施日:平成11年6月26日(土) 14:00~16:00
会場:森鷗外記念館

ミュージアム・トーク99 PART2

演題:私とハナエ・モリ
講師:林真理子(作家)
実施日:平成11年7月31日
会場:石川県民文化会館・大ホール

ミュージアム・トーク99 PART3

演題:恩師 杉浦非水先生
講師:神田昭夫(長岡造形大学教授・グラフィックデザイナー)
実施日:平成11年9月4日
会場:浜田市世界こども美術館・3Fホール

ミュージアム・トーク99 PART4

演題:雪舟一作品の魅力
講師:福島恒徳(山口県立美術館学芸員)
実施日:平成11年10月16日
会場:益田市人権センター「あすなろ館」

ミュージアム・トーク2000 PART1

演題:森鷗外と宮芳平
講師:堀切正人(豊科近代美術館学芸員)
実施日:平成12年6月25日
会場:森鷗外記念館

ミュージアム・トーク2000 PART2

演題:ファッション雑誌の過去・現在・未来
講師:原田 隆(雑誌「フラウ」編集長)
実施日:平成12年8月19日
会場:益田市人権センター「あすなろ館」

開館までの活動 ミュージアム・トーク等

ミュージアム・トーク2000 PART3
 演題：地方美術館の挑戦
 講師：澄川喜一（東京藝術大学大学長）
 実施日：平成12年9月10日
 会場：石川県民文化会館・小ホール

ミュージアム・トーク2000 PART4
 演題：根付の発生と展開
 講師：荒川浩和（東京国立博物館名誉館員）
 実施日：平成12年10月28日
 会場：江津商工会議所研修室

■西部美術館連続講座

第1回 西部美術館連続講座
 演題：石見の焼き物について
 講師：村上 勇（広島県立美術館主任学芸員）
 演題：石見の仏教美術について
 講師：的野克之（島根県文化課西部美術館担当主任学芸員）
 演題：江戸時代の絵画について
 講師：椋木賢治（島根県文化課西部美術館担当学芸員）
 演題：石見の近代美術について
 講師：河野克彦（島根県文化課西部美術館担当学芸員）
 実施日：平成10年11月21日～22日
 会場：益田市中央公民館

第2回 西部美術館連続講座
 演題：出雲の工芸について
 講師：藤間 寛（島根県立美術館学芸課長）
 演題：浮世絵について
 講師：西尾尚子（島根県立美術館主任学芸員）
 演題：美術館とファッションについて
 講師：南目美輝（島根県文化課西部美術館担当学芸員）
 演題：展示空間について
 講師：守田 均（大原美術館主任学芸員）
 実施日：平成11年11月20日～21日
 会場：益田市中央公民館



第1回美術館回廊シンポジウム チラシ

■美術館回廊シンポジウム

第1回美術館回廊シンポジウム
 ■基調講演
 演題：アーティストに学ぶこと
 講師：山根基世（NHKアナウンサー）
 ■パネルディスカッション
 テーマ：美術館と地域振興
 司会：岡部康幸（山陰中央新報 論説委員）
 パネラー：寺尾 堂（浜田市世界こども美術館 館長）
 広石 修（津和野町立安野光雅美術館 副館長）
 神 英雄（三隅町立石正美術館 主任学芸員）
 鈴木浩平（山口県立萩美術館・浦上記念館 学芸主査）
 的野克之（島根県文化振興課芸術文化センター建設室 主任学芸員）
 実施日：平成15年1月26日
 会場：石川県民文化会館・大ホール

第2回美術館回廊シンポジウム
 ■基調講演
 演題：地域社会とアート
 講師：秋元雄史（直島コンテンポラリーアートミュージアム チーフキュレーター）
 ■パネルディスカッション
 テーマ：美術館で地域を元気にします。
 司会：橋本辰生（島根県立美術館副館長）
 永田生慈（葛飾北斎美術館館長）
 吉崎佳慶（益田市立雪舟の郷記念館館長）
 神 英雄（三隅町立石正美術館主任学芸員）
 南目美輝（島根県文化振興課芸術文化センター建設室主任学芸員）
 アドバイザー：秋元雄史
 （直島コンテンポラリーアートミュージアム チーフキュレーター）
 実施日：平成16年2月28日
 会場：石川県民文化会館・小ホール



第2回美術館回廊シンポジウム チラシ

オープニング



開館告知ポスター



美術館テープカット



オープニングセレモニー

■定礎式

日時:平成17年10月7日(金) 13:30～

場所:正面エントランス

出席者:島根県知事 澄田信義

島根県議会議長 倉井 毅

総務部長 浜田省司

益田土木建築事務所長 伊藤康幸

島根県芸術文化センター長 澄川喜一

島根県立石見美術館副館長 藤間 寛

内藤廣建築設計事務所 内藤 廣

大成建設副社長 早川正一 他

■モニュメント除幕式

日時:平成17年10月7日(金) 14:00～

場所:前庭

出席者:島根県知事 澄田信義

島根県議会議長 倉井 毅

島根県芸術文化センター長 澄川喜一

益田市市長 牛尾郁夫

モニュメント制作協力者 柳井忠春

益田幼稚園児 他

■開館記念式典

日時:平成17年10月7日(金) 14:30～

場所:大ホール

出席者:三笠宮殿下

三笠宮妃殿下

衆議院議員 竹下 亘

衆議院議員 亀井久興

島根県知事 澄田信義

島根県議会議長 倉井 毅

益田市市長 牛尾郁夫

総務部長 浜田省司

環境生活部長 井上勝博

島根県芸術文化センター長 澄川喜一 他

■美術館テープカット

日時:平成17年10月7日(金) 15:28～

場所:美術館ロビー

出席者:三笠宮殿下

三笠宮妃殿下

衆議院議員 竹下 亘

衆議院議員 亀井久興

島根県知事 澄田信義

エルミタージュ美術館 学芸員

島根県議会議長 倉井 毅

益田市市長 牛尾郁夫

島根県教育委員長 中村俊郎

島根県芸術文化センター長 澄川喜一

美術館ボランティア 他

■オープニングセレモニー

日時:平成17年10月8日(土) 8:45～

場所:正面エントランス

出席者:三笠宮殿下

三笠宮妃殿下

衆議院議員 竹下 亘

衆議院議員 亀井久興

山口県知事 仁井関成

島根県知事 澄田信義

島根県議会議長 倉井 毅

島根県議会議員 宮隅 啓

島根県議会議員 田原正居

島根県議会議員 中村芳信

島根県議会議員 田中八州男

益田市市長 牛尾郁夫

益田市議会議長 大畑茂三郎

島根ミュージアム協議会会長 木幡修介

島根県文化団体連合会会長 丸 磐根

内藤廣設計事務所 内藤 廣

島根県芸術文化センター長 澄川喜一

美術館ボランティア

ホールボランティア

地元小学生

新郎新婦 他

展覧会一覧

1. コレクション展

展示室	展覧会名	会期
展示室A	森鷗外と交友の画家たち	平成17年10月8日～12月26日
展示室A	水絵の福音者 大下藤次郎展	平成17年12月28日～平成18年3月21日
展示室A	描かれた女性たち	平成18年3月23日～6月12日
展示室B	山口県立萩美術館・浦上記念館所蔵浮世絵展	平成17年10月8日～10月31日
展示室B	舞踊図屏風 飾りと装い	平成17年11月2日～11月28日
展示室B	重要文化財 益田元祥像 特別公開	平成17年11月30日～12月26日
展示室B	水絵の福音者 大下藤次郎展	平成17年12月28日～平成18年3月21日
展示室B	山本容子一版画の魅力	平成18年3月29日～6月12日
展示室C	ファッションの20世紀	平成17年10月8日～平成18年1月29日
展示室C	草間彌生展	平成18年2月4日～5月8日

2. 企画展

展示室	展覧会名	会期
展示室D	華やぐ女たち エルミターージュ美術館展 ルネサンスから新古典まで	平成17年10月8日～11月23日
展示室D	江戸の奇才 北斎展一葛飾北斎とその弟子たち	平成17年12月23日～平成18年1月23日
展示室D	ウィーン展 華麗なる美術と音楽のしらべ	平成18年3月3日～6月5日

3. その他

展示室	展覧会名	会期
多目的ギャラリー	内藤廣一the GENBA	平成17年10月8日～10月31日
展示室D	第38回島根県総合美術展(県展) 移動展・中四国県展優秀作品展	平成17年11月30日～12月4日
展示室D	雪舟益田没後500年記念 絵画・書道・写真・工芸展	平成17年12月9日～12月11日
展示室D	雪舟益田没後500年記念 益田市・寧波市児童生徒作品展	平成17年12月16日～12月18日

展示室A

森鷗外と交友の画家たち

会期:平成17年10月8日(土)~12月26日(月)

内容:津和野町に生まれた森鷗外は、小説家あるいは軍医として有名であるが、美術にも関わりがあったことは、あまり知られていない。鷗外は画家を主人公とした小説や、美術評論を多く執筆したのみならず、東京美術学校(今の東京芸術大学)の講師や、文部省美術展覧会(文展)の審査員、帝国美術院の初代院長などを歴任し、明治・大正の美術界に深く関与した人物でもあった。島根県立石見美術館では、「石見人森林太郎シテ死セント欲ス」の遺言をのこした鷗外に注目し、作品収集方針のひとつに「森鷗外ゆかりの美術家の作品」を掲げている。この展示では鷗外と交友のあった、明治中期から昭和初期の日本の美術界をいろどった洋画家・彫刻家たちの作品を紹介した。

出品リスト

作家名	作品名	制作年	材質・技法	所蔵
1 黒田 清輝	裸体	1889年	油彩、キャンバス	当館
2 黒田 清輝	ポプラの黄葉	1891年	油彩、キャンバス	当館
3 中村 不折	裸体	1903-1905頃	油彩、キャンバス	当館
4 中村 不折	裸婦	明治末~大正頃	油彩、キャンバス	当館
5 岡田 三郎助	黒き帯	1915	油彩、キャンバス	当館
6 ラファエル・コラン	若い女性の肖像	1889	油彩、キャンバス	当館
7 ラファエル・コラン	エリーズ嬢の肖像	1885	油彩、キャンバス	当館
8 ガブリエル・フォン・マックス	煙を出す壺を抱く女性	不詳	油彩、キャンバス	当館
9 石橋 和訓	美人読詩	1906	油彩、キャンバス	島根県立美術館
10 和田 英作	風景	1914	油彩、キャンバス	当館
11 満谷 国四郎	雑木林	1922	油彩、キャンバス	当館
12 満谷 国四郎	風景	大正時代	油彩、キャンバス	当館
13 宮 芳平	自画像	1920	油彩、キャンバス	当館
14 小堀 四郎	ブルターニュの男	1930	油彩、キャンバス	当館
15 藤島 武二	西洋婦人像	1908~1909頃	油彩、キャンバス	当館
16 中川 八郎	初秋の夕	1919	油彩、キャンバス	当館
17 鹿子木 孟郎	加茂ノ森	1923	油彩、キャンバス	当館
18 藤田 嗣治	婦人像	1939	油彩、キャンバス	当館
19 藤田 嗣治	アントワープ港の眺め	1923	油彩、キャンバス	当館
20 吉田 博	風景	大正初期	油彩、キャンバス	当館
21 大下 藤次郎	多摩川上流	1896	水彩、紙	当館 (前期)
22 大下 藤次郎	猪苗代	1907頃	水彩、紙	当館 (前期)
23 大下 藤次郎	城跡	1903	水彩、紙	当館 (後期)
24 大下 藤次郎	湖水を望む	1907頃	水彩、紙	当館 (後期)
25 川村 清雄	緑陰牧牛図	大正~昭和初期	油彩、絹	当館
26 高村 光雲	聖徳太子像	1932	木彫	島根県立美術館
27 米原 雲海	仙丹	1910	木彫	当館
28 高村 光太郎	手	1918	ブロンズ	島根県立美術館

ギャラリートーク

講師 川西由里(当館学芸員)

日時 平成17年10月15日(土)14:00~、12月17日(土)15:00~

コレクション展

展示室A

水彩画のスター 大下藤次郎展

会期:平成17年12月28日～平成18年3月21日

内容:わたしたちにとって身近な水彩画を明治時代に普及させたのが、大下藤次郎であった。当館は、森鷗外と親交のあった大下藤次郎の水彩画作品を190点収蔵している。この日本最大の大下コレクションより、初期から晩年にいたる水彩画87点のほか、油彩画、スケッチブック、絵葉書などを展示し、大下の幅広い活動を紹介した。

出品リスト

前期(平成17年12月28日～平成18年2月13日)

作家名	作品名	制作年(和暦)	制作年(西暦)	材質・技法	所蔵
I 水彩画との出会い					
1 大下藤次郎	野の道	明治25～30頃	1892～97頃	油彩、カンヴァス	当館
2 大下藤次郎	貸家の裏口	明治27	1892	水彩、紙	当館
3 大下藤次郎	下駄屋の店先	明治25	1892	水彩、紙	当館
4 大下藤次郎	日暮里	明治29	1896	水彩、紙	当館
5 大下藤次郎	鶯鳴の牛小屋	明治30	1897	水彩、紙	当館
6 大下藤次郎	富士を望む	明治30	1897	水彩、紙	当館
7 大下藤次郎	日光	明治30	1897	水彩、紙	当館
8 大下藤次郎	仁和寺五重塔	明治29	1896	水彩、紙	当館
9 大下藤次郎	京都粟田	明治30	1897	水彩、紙	当館
10 大下藤次郎	清水寺	明治29	1896	水彩、紙	当館
11 大下藤次郎	仁和寺山門	明治29	1896	水彩、紙	当館
II オーストラリア航海 空と水のきらめき					
12 大下藤次郎	金剛甲板にて	明治31	1898	水彩、紙	当館
13 大下藤次郎	軍艦金剛にて	明治31	1898	水彩、紙	当館
14 大下藤次郎	サンドゲート、クイーンズランド	明治31	1898	水彩、紙	当館
15 大下藤次郎	シドニー南端	明治31	1898	水彩、紙	当館
16 大下藤次郎	シドニー湾	明治31	1898	水彩、紙	当館
17 大下藤次郎	ブリスバーン河	明治31	1898	水彩、紙	当館
18 大下藤次郎	ロイヤルパーク、メルボルン	明治31	1898	水彩、紙	当館
19 大下藤次郎	モートン岬、クイーンズランド	明治31	1898	水彩、紙	当館
20 大下藤次郎	宮の下	明治31	1898	水彩、紙	当館
III 親密な風景					
21 大下藤次郎	青梅	明治37	1904	水彩、紙	当館
22 大下藤次郎	宿場	明治28頃	1895頃	水彩、紙	当館
23 大下藤次郎	寄居	明治37	1904	水彩、紙	当館
24 大下藤次郎	林間			水彩、紙	当館
25 大下藤次郎	秋谷の漁村	明治38	1905	水彩、紙	当館
26 大下藤次郎	秋の雲	明治37	1904	水彩、紙	当館
27 大下藤次郎	村の寺	明治37	1904	水彩、紙	当館
28 大下藤次郎	雲の観察 明治32年9月13日正午南	明治32	1899	水彩、紙	当館
29 大下藤次郎	雲の観察 明治32年9月下旬西方午後5時	明治32	1899	水彩、紙	当館
30 大下藤次郎	雲の観察 明治33年11月21日朝 東	明治33	1900	水彩、紙	当館
31 大下藤次郎	雲の観察 明治33年12月5日 西南方	明治33	1900	水彩、紙	当館
32 大下藤次郎	浜辺の松	明治36～44頃	1903～1911頃	水彩、紙	当館
33 大下藤次郎	興津	明治40頃	1907頃	水彩、紙	当館
34 大下藤次郎	夕日	明治36～44頃	1903～1911頃	水彩、紙	当館
35 大下藤次郎	浪	明治38	1905	水彩、紙	当館
36 大下藤次郎	帆船				
IV 清々しき山々、清々しき心					
37 大下藤次郎	磐梯山噴火口	明治39	1906	水彩、紙	当館
38 大下藤次郎	磐梯噴火口	明治40	1907	水彩、紙	当館
39 大下藤次郎	多摩川畔	明治40	1907	水彩、紙	当館
40 大下藤次郎	甲州駒ヶ岳	明治40	1907	水彩、紙	当館
41 大下藤次郎	残雪	明治41	1908	水彩、紙	当館
42 大下藤次郎	秋の夕	明治40～44	1907～11頃	水彩、紙	当館
43 大下藤次郎	飯坂	明治40頃	1907頃	水彩、紙	当館
44 大下藤次郎	西山峠	明治42	1909	水彩、紙	当館
45 大下藤次郎	初夏	明治43頃	1910頃	水彩、紙	当館
46 大下藤次郎	猪苗代	明治40	1907	水彩、紙	当館
47 大下藤次郎	湖上の雲	明治40頃	1907頃	水彩、紙	当館

コレクション展

後期(平成18年2月15日～3月21日)

作家名	作品名	制作年(和暦)	制作年(西暦)	材質・技法	所蔵
I 水彩画との出会い					
1 大下藤次郎	野の道	明治25～30頃	1892～97頃	油彩、カンヴァス	当館
2 大下藤次郎	小丹波	明治29	1896	水彩、紙	当館
3 大下藤次郎	巢鴨	明治30	1897	水彩、紙	当館
4 大下藤次郎	綾瀬	明治30	1897	水彩、紙	当館
5 大下藤次郎	越ヶ谷	明治30	1897	水彩、紙	当館
6 大下藤次郎	興津	明治30	1897	水彩、紙	当館
7 大下藤次郎	館山	明治29	1896	水彩、紙	当館
8 大下藤次郎	白丸	明治29	1896	水彩、紙	当館
9 大下藤次郎	修善寺	明治29	1896	水彩、紙	当館
10 大下藤次郎	相模秋谷	明治30	1897	水彩、紙	当館
11 大下藤次郎	裸婦	明治30	1897	水彩、紙	当館
12 大下藤次郎	裸婦	明治30	1897	水彩、紙	当館
II オーストラリア航海 空と水のきらめき					
13 大下藤次郎	軍艦金剛にて 1	明治31	1898	水彩、紙	当館
14 大下藤次郎	軍艦金剛にて 2	明治31	1898	水彩、紙	当館
15 大下藤次郎	赤道直下にて	明治31	1898	水彩、紙	当館
16 大下藤次郎	シドニー	明治31	1898	水彩、紙	当館
17 大下藤次郎	シドニー、ニュー・サウス・ウェールズ	明治31	1898	水彩、紙	当館
18 大下藤次郎	メルボルン港	明治31	1898	水彩、紙	当館
III 親密な風景					
19 大下藤次郎	坂本	明治31	1898	水彩、紙	当館
20 大下藤次郎	夏	明治32	1899	水彩、紙	当館
21 大下藤次郎	峠の木	明治32	1899	水彩、紙	当館
22 大下藤次郎	つつじ	明治32	1899	水彩、紙	当館
23 大下藤次郎	河原	明治37	1904	水彩、紙	当館
24 大下藤次郎	早春	明治37	1904	水彩、紙	当館
25 大下藤次郎	青梅	明治37	1904	水彩、紙	当館
26 大下藤次郎	桜			水彩、紙	当館
27 大下藤次郎	暮景	明治36～44頃	1903～1911頃	水彩、紙	当館
28 大下藤次郎	ポピー	明治36～44頃	1903～1911頃	水彩、紙	当館
29 大下藤次郎	静物・林檎	明治42	1909	水彩、紙	当館
30 大下藤次郎	波の音	明治40	1908	水彩、紙	当館
31 大下藤次郎	興津海岸	明治36頃	1903頃	水彩、紙	当館
32 大下藤次郎	舟のある風景	明治39	1906	水彩、紙	当館
33 大下藤次郎	波	明治40	1907	水彩、紙	当館
IV 清々しき山々、清々しき心					
34 大下藤次郎	徳本小屋のほとり	明治40頃	1907頃	水彩、紙	当館
35 大下藤次郎	穂高山の残雪	明治40	1907	水彩、紙	当館
36 大下藤次郎	高原	明治43頃	1910頃	水彩、紙	当館
37 大下藤次郎	山あいの道	明治40頃	1907頃	水彩、紙	当館
38 大下藤次郎	水芭蕉	明治41	1908	水彩、紙	当館
39 大下藤次郎	尾瀬沼の雨		制作年不明	水彩、紙	当館
40 大下藤次郎	雪の山		制作年不明	水彩、紙	当館
41 大下藤次郎	雪の山		制作年不明	水彩、紙	当館
42 大下藤次郎	桧原湖の秋	明治40	1907	水彩、紙	当館
前期、後期とも展示 大下藤次郎関係資料					
1 大下藤次郎	『水彩画の朶』	明治34	1901		当館
2 森鷗外	『水彩画の朶』題言	明治34	1901		当館
3 大下藤次郎	手記「ぬれきぬ」				当館
4 大下藤次郎	オーストラリアスケッチブック	明治31	1898		当館
5 大下藤次郎	「曙日記」	明治32	1899		当館
6	『大下藤次郎遺作集』	大正1	1912		当館
7 大下藤次郎	水彩絵葉書	明治30～40年代			当館

コレクション展

ギャラリートーク
 講師 川西由里学芸員
 日時 平成18年1月3日(土)、1月21日(土)、2月25日(土)15:00～

展示室A

描かれた女性たち

会期:平成18年3月23日(水)～6月12日(月)

内容:大正時代末から昭和初期にかけての、女性を描いた日本画を展示した。様々な装いの女性たちの姿には、描かれた当時のファッションやライフスタイルが反映されていると同時に、画家の女性観を読み取ることもできる。会場には作品解説のほか、手に持って回ることができる学芸員による「コラム」を設置した。

出品リスト

作家名	作品名	制作年	材質・技法	所蔵
1 北野 恒富	むすめ	大正14(1925)	紙本着色	当館
2 北野 以悦	春	昭和6(1931)	絹本着色	当館
3 山田 喜作	真夏の港	昭和7(1932)	絹本着色	当館
4 山田 喜作	湘南初夏	昭和6(1931)	絹本着色	当館
5 榎本 千花俊	池畔春興	昭和7(1932)	絹本着色	当館
6 武藤 嘉門	ショーウインドウ	昭和12(1937)	紙本着色	当館
7 小早川 清	宵	昭和11(1936)	絹本着色	当館
8 橋本 明治	荘園	昭和9(1934)	絹本着色	当館
9 広田 多津	ふたり	昭和13(1938)	紙本着色	当館
10 北野 恒富	狂女	大正時代	絹本着色	当館
11 島崎 柳塲	汐風	明治時代後期	絹本着色	当館
12 池田 蕉園	小松引		絹本着色	当館
13 箇木 清方	花見幕	昭和初期	絹本着色	当館
14 伊藤 小坡	舟中納涼之図	昭和初期頃	絹本着色	当館
15 榎本 千花俊	口紅を描く	昭和10(1935)	絹本着色	当館
16 榎本 千花俊	春雪	昭和初期頃	絹本着色	当館
17	『婦人グラフ』		雑誌	当館
18	『アール・グー・ポータ』		雑誌	当館

ギャラリートーク
 講師 川西由里(当館学芸員)
 日時 平成18年4月8日(土)、4月29日(土)、5月27日(土)15:00～

展示室B

山口県立萩美術館・浦上記念館所蔵 浮世絵展

会期:平成17年10月8日(土)～10月31日(月)

内容:島根県と山口県は平成5年から両県知事対談を開催している。この対談の中で両県にまたがる「美術館回廊構想」が議論されてきた。島根県立石見美術館の開館で気軽に往き来できる範囲内に両県の県立美術館が揃い、「美術館回廊構想」がいよいよ現実のものとなった。そこで、石見美術館と山口県立萩美術館・浦上記念館は、両館で相互割引制度を導入した。また、コレクションの相互貸し出しについても協議し、石見美術館の開館を記念して、山口県立萩美術館・浦上記念館の館蔵品の浮世絵40点を拝借することとなった。今回展示した浮世絵は、全て名所を描いた作品である。日本人は、古くから美しい風景や珍しい風景を名所として愛し訪れてきた。有名な名所は美術や文学、芸能、音楽に繰り返し登場し、実際に訪れたことがあるのに係わらず人々の記憶に留められた。江戸時代に入り浮世絵が盛んに作られるようになると、美人や役者同様に名所が浮世絵の題材として描かれるようになった。実際名所に出かけられない庶民も浮世絵を見ることによって思いを馳せることができた。

出品リスト

作家名	作品名	判型	形態	制作年	西暦	所蔵
1 二代歌川広重	諸国名所百景 奥州そとヶ浜	大判	錦絵	安政6年	1859	山口県立萩美術館・浦上記念館
2 小林清親	日本名勝図絵 松島	大判	錦絵	明治29年	1896	山口県立萩美術館・浦上記念館
3 小林清親	日本名所図絵 常陸桜川より筑波山を眺む	大判	錦絵	明治30年	1897	山口県立萩美術館・浦上記念館
4 溪斎英泉	日光山名所之内 寂光布引瀧	大判	錦絵	弘化期	1844～1847	山口県立萩美術館・浦上記念館
5 小林清親	日光山名所之内 華厳之瀧 三瀧之其一景	大判	錦絵	弘化期	1844～1848	山口県立萩美術館・浦上記念館
6 小林清親	日本名勝図絵 神橋	大判	錦絵	明治30年	1897	山口県立萩美術館・浦上記念館
7 歌川広重	本朝名所 相州江ノ嶋岩屋之図	横大判	錦絵	天保3年	1832	山口県立萩美術館・浦上記念館
8 歌川国芳	相州大山道田村渡の景	横大判	錦絵	天保10年頃	1839	山口県立萩美術館・浦上記念館
9 歌川広重	本朝名所 箱根湯治場之図	横大判	錦絵	天保8～10年頃	1837～1839	山口県立萩美術館・浦上記念館
10 歌川広重	箱根七湯図会 湯もと	横大判	錦絵	嘉永5年	1852	山口県立萩美術館・浦上記念館
11 歌川広重	山海見立相撲 越後新潟	横大判	錦絵	安政5年	1858	山口県立萩美術館・浦上記念館
12 歌川広重	本朝名所 信州更科田毎之月	横大判	錦絵	天保8～10年頃	1837～1839	山口県立萩美術館・浦上記念館

コレクション展

作家名	作品名	判型	形態	制作年	西暦	所蔵
13 歌川広重	木曾路之山川	大判	錦絵3枚続	安政4年	1857	山口県立萩美術館・浦上記念館
14 歌川広重	甲陽猿橋之図	大判	錦絵2枚続	天保13年頃	1842	山口県立萩美術館・浦上記念館
15 小林清親	日本名勝図会 猿橋	大判	錦絵	明治29年	1896	山口県立萩美術館・浦上記念館
16 歌川広重	本朝名所 薩多富士	横大判	錦絵	天保8～10年頃	1837～1839	山口県立萩美術館・浦上記念館
17 歌川広重	本朝名所 駿州清見ヶ関	横大判	錦絵	天保8～10年頃	1837～1839	山口県立萩美術館・浦上記念館
18 小林清親	日本名勝図会 清見潟	大判	錦絵	明治29年	1896	山口県立萩美術館・浦上記念館
19 小林清親	日本名勝図会 田子の浦	大判	錦絵	明治30年	1897	山口県立萩美術館・浦上記念館
20 二代歌川広重	諸国名所百景 近江磨針嶺	大判	錦絵	文久元年	1861	山口県立萩美術館・浦上記念館
21 小林清親	日本名勝図会 嵐山	大判	錦絵	明治30年	1897	山口県立萩美術館・浦上記念館
22 小林清親	日本名勝図会 通天橋	大判	錦絵	明治29年	1896	山口県立萩美術館・浦上記念館
23 小林清親	日本名勝図会 月ヶ瀬奥の谷	大判	錦絵	明治30年	1897	山口県立萩美術館・浦上記念館
24 歌川広重	本朝名所 摂州住吉出見之浜	横大判	錦絵	天保8～10年頃	1837～1839	山口県立萩美術館・浦上記念館
25 歌川広重	六十余州名所図会 河内 牧方男山	大判	錦絵	嘉永6年	1853	山口県立萩美術館・浦上記念館
26 歌川広重	六十余州名所図会 伯耆 大野大山遠望	大判	錦絵	嘉永6年	1853	山口県立萩美術館・浦上記念館
27 歌川広重	六十余州名所図会 隠岐 焚火の社	大判	錦絵	嘉永6年	1853	山口県立萩美術館・浦上記念館
28 二代歌川広重	諸国名所百景 隠岐焚火の社	大判	錦絵	文久元年	1861	山口県立萩美術館・浦上記念館
29 歌川広重	山海見立相撲 備前備前山	横大判	錦絵	安政5年	1858	山口県立萩美術館・浦上記念館
30 歌川広重	六十余州名所図会 備後 阿武門観音堂	横大判	錦絵	嘉永6年	1853	山口県立萩美術館・浦上記念館
31 二代歌川広重	諸国名所百景 安芸宮島汐干	大判	錦絵	安政6年	1859	山口県立萩美術館・浦上記念館
32 小林清親	日本名勝図会 巖島	大判	錦絵	明治29年	1896	山口県立萩美術館・浦上記念館
33 歌川広重	六十余州名所図会 周防 岩国錦帯橋	大判	錦絵	嘉永6年	1853	山口県立萩美術館・浦上記念館
34 歌川広重	六十余州名所図会 讃岐 象頭山遠望	大判	錦絵	安政2年	1855	山口県立萩美術館・浦上記念館
35 二代歌川広重	諸国名所百景 伊予峯越鬼坂綱	大判	錦絵	文久元年	1861	山口県立萩美術館・浦上記念館
36 歌川広重	六十余州名所図会 土佐 海上松魚釣	大判	錦絵	安政2年	1855	山口県立萩美術館・浦上記念館
37 歌川広重	六十余州名所図会 豊前 羅漢寺下道	大判	錦絵	安政2年	1855	山口県立萩美術館・浦上記念館
38 小林清親	日本名勝図会 豊後耶馬溪古羅漢寺	大判	錦絵	明治30年	1897	山口県立萩美術館・浦上記念館
39 二代歌川広重	諸国名所百景 肥前長崎唐船入津	大判	錦絵	安政6年	1859	山口県立萩美術館・浦上記念館
40 二代歌川広重	諸国名所百景 薩州枕崎海門ヶ嶽寿星踊	大判	錦絵	安政6年	1859	山口県立萩美術館・浦上記念館

コレクション展

ギャラリートーク

講師 的野克之(当館学芸グループ課長)

日時 平成17年10月29日(土)15:00～

展示室B

舞踊図屏風 飾りと装い

会期:平成17年11月2日(水)～11月28日(月)

内容:坂東玉三郎舞踊公演を記念し、江戸時代初期の舞踊の様子を描いた《舞踊図屏風》(重要美術品)を展示。あわせて江戸時代初期の美人図や、男性の装身具である根付も展示した。男性も女性も自分を飾り、人の目を楽しませる装いを楽しんだ、江戸時代の「おしゃれ感覚」を紹介した。

出品リスト

	作家名	作品名	制作年代	材質・技法	所蔵
1	不詳	舞踊図屏風	江戸時代初期	紙本着色	当館
2	不詳	遊楽美人図	江戸時代初期	紙本着色	当館
3	不詳	寛文美人図	江戸時代初期	絹本着色	島根県立美術館
4	不詳	踊舞台図	江戸時代初期	紙本着色	島根県立美術館
5	巖水	根付 扇面草図	江戸時代後期	象牙	当館
6	龍水	根付 牛	江戸時代後期	木	当館
7	富永	根付 蜘蛛	江戸時代後期	猪の牙	当館
8	不詳	根付 蜘蛛	江戸時代後期	猪の牙	当館
9	富春	根付 亀	江戸時代後期	木	当館
10	富春	根付 蓮葉に蓑亀	江戸時代後期	鯨の歯	当館
11	中村 松間斎	高蒔絵印籠 猛禽図	江戸時代後期	高蒔絵	当館

コレクション展

展示室B

重要文化財 益田元祥像 特別公開

会期:平成17年11月30日(水)~12月26日(月)

内容:益田家第20代当主で、関ヶ原の合戦で活躍した益田元祥の肖像画(国の重要文化財)を特別公開。あわせて、江戸時代初期の雲谷派の水墨画や石見根付を展示した。

出品リスト

作家名	作品名	制作年代	材質・技法	所蔵
1 狩野松栄	益田元祥像	桃山時代	絹本着色	当館
2 曾我二直菴	鷲図、鷹図	江戸時代初期	紙本墨画	当館
3 斎藤 等室	山水図	江戸時代初期	紙本墨画	当館
4 雲谷 等的	山水図	江戸時代初期	紙本墨画	当館
5 巖水	根付 扇面草図	江戸時代後期	象牙	当館
6 龍水	根付 牛	江戸時代後期	木	当館
7 富永	根付 蜘蛛	江戸時代後期	猪の牙	当館
8 不詳	根付 蜘蛛	江戸時代後期	猪の牙	当館
9 富春	根付 亀	江戸時代後期	木	当館
10 富春	根付 蓮葉に蓑亀	江戸時代後期	鯨の歯	当館
11 中村 松間斎	高時絵印籠 猛禽図	江戸時代後期	高時絵	当館

展示室B

大下藤次郎と画友たち 明治洋画のネットワーク

会期:平成17年12月28日~平成18年3月21日

内容:大下藤次郎展にあわせ、大下と共に写生旅行をした吉田博、満谷国四郎らの風景画や、彼らが共同で出版した紀行画文集を展示し、その交友の跡をたどった。あわせて大下に影響を与えた三宅克己や五百城文哉といった先達たちの作品や、大下作品の模写を行った岸田劉生、1911年に松江で開催された大下最後の水彩画講習会に参加した島根県出身の画家、草光信成の作品も展示し、明治時代の洋画家たちのつながり=ネットワークを紹介した。

出品リスト

前期(平成17年12月28日~平成18年2月20日)

作者名	作品名	制作年(和暦)	制作年(西暦)	材質・技法	所蔵
1 三宅克己	農村風景	明治29	1896	水彩・紙	当館
2 三宅克己	オランダ	不詳		コンテ・紙	当館
3 満谷国四郎	風景	大正時代		油彩・カンヴァス	当館
4 石井柏亭	芙蓉湖	昭和25	1950	油彩・カンヴァス	当館
5 鹿子木孟郎	舞子の浜	大正3	1914	油彩・カンヴァス	当館
6 吉田博	黒部川の吊橋	大正7	1918	油彩・カンヴァス	当館
7 大下藤次郎	アトリエの画家	明治31	1898	水彩・紙	当館
8 大下藤次郎	今治の城址	明治43	1910	水彩・紙	当館
9 大下藤次郎	小豆島	明治43	1910	水彩・紙	当館
10 大下藤次郎	帆船	不詳		水彩・紙	当館
11 大下藤次郎	宍道湖の黄昏	明治44	1911	水彩・紙	当館
12 草光信成	三日月	不詳		油彩・カンヴァス	島根県立美術館
13 草光信成	湖畔	不詳		油彩・カンヴァス	島根県立美術館
14 草光信成	京橋川畔	大正5	1916	水彩・紙	島根県立美術館
15 草光信成	水辺の家	大正4	1915	水彩・紙	島根県立美術館
16 草光信成	水田の月	不詳		水彩・紙	島根県立美術館
17 岸田劉生	自画像	大正3	1914	油彩・カンヴァス	島根県立美術館
18 岸田劉生	静物	大正10	1921	油彩・カンヴァス	当館

後期(平成18年2月22日~3月21日)

作者名	作品名	制作年(和暦)	制作年(西暦)	材質・技法	所蔵
1 三宅克己	伊豆風景	昭和初期	1926~1945頃	水彩・紙	当館
2 満谷国四郎	風景	大正時代		油彩・カンヴァス	当館
3 石井柏亭	芙蓉湖	昭和25	1950	油彩・カンヴァス	当館
4 鹿子木孟郎	舞子の浜	大正3	1914	油彩・カンヴァス	当館
5 五百城文哉	富士図	明治26~39頃	1893~1906頃	水彩・紙	当館
6 大下藤次郎	小豆島塩浜の家	明治43	1910	水彩・紙	当館
7 大下藤次郎	松	明治41	1908	水彩・紙	当館
8 後藤工志	不忍池	大正~昭和初期	1912~29頃	水彩・紙	当館
9 草光信成	三日月	不詳		油彩・カンヴァス	島根県立美術館
10 草光信成	湖畔	不詳		油彩・カンヴァス	島根県立美術館

コレクション展

作者名	作品名	制作年(和暦)	制作年(西暦)	材質・技法	所蔵
11 草光信成	大橋川1	不詳		水彩・紙	島根県立美術館
12 草光信成	大橋川2	不詳		水彩・紙	島根県立美術館
13 草光信成	船着き場	不詳		水彩・紙	島根県立美術館
14 岸田劉生	内藤夫人の像	大正8	1919	木炭・パステル・紙	当館
15 岸田劉生	静物	大正10	1921	油彩・カンヴァス	当館

前期、後期とも展示

1 大下藤次郎	絵日記	明治40~42	1907~09	鉛筆・紙	当館
2 大下藤次郎	スケッチブック(山陰風景)	明治44	1911	鉛筆・紙	当館
3 大下藤次郎	息子・正男宛の葉書				当館
4	『十人写生旅行』	明治44	1911		当館
5	『瀬戸内海写生一週』	明治44	1911		当館
6	水彩画講習所設立パンフレット	明治39	1906		当館
7	雑誌『みづゑ』	明治38	1905		当館
8	松江水彩画講習会会員名簿	明治44	1911		当館

展示室B

山本容子ー版画の魅力

会期:平成18年3月29日(水)~6月12日(月)

内容:島根県では、山本容子のデビュー直後の銅版画と水彩画、あわせて31点を所蔵している。本展では、版画界に新風を吹き込んだこの時期の山本容子の代表的な作品を前期・後期に分けて展示した。

作品名	シリーズ名	制作年	技法・素材	所蔵
1 Papa's	JUNE BRAND '75	1975(昭和50)	エッチング・紙	島根県立美術館
2 John's Sons	JUNE BRAND '75	1975(昭和50)	エッチング・紙	島根県立美術館
3 Papa Aid	JUNE BRAND '75	1975(昭和50)	エッチング・紙	島根県立美術館
4 A Birth	JUNE BRAND '75	1975(昭和50)	エッチング・紙	島根県立美術館
5 Papa Land	JUNE BRAND '75	1975(昭和50)	エッチング・紙	島根県立美術館
6 Cock Jonathan	JUNE BRAND '75	1975(昭和50)	エッチング・紙	島根県立美術館
7 Short speech	FEBRUARY BRAND '76	1976(昭和51)	エッチング・紙	島根県立美術館
8 Tweety Tweezers	FEBRUARY BRAND '76	1976(昭和51)	エッチング・紙	島根県立美術館
9 Jam Jaw	FEBRUARY BRAND '76	1976(昭和51)	エッチング・紙	島根県立美術館
10 Pink	FEBRUARY BRAND '76	1976(昭和51)	エッチング・紙	島根県立美術館
11 Asparagus Paradise	JUNE BRAND '77	1977(昭和52)	エッチング、アクアチント・紙	島根県立美術館
12 Asparagus Guy	JUNE BRAND '77	1977(昭和52)	エッチング、アクアチント・紙	島根県立美術館
13 Hill Top Corns	JUNE BRAND '77	1977(昭和52)	エッチング、アクアチント・紙	島根県立美術館
14 Sausage Age	JUNE BRAND '77	1977(昭和52)	エッチング、アクアチント・紙	島根県立美術館
15 Hill Top Corn Pipe	JUNE BRAND '77	1977(昭和52)	エッチング、アクアチント・紙	島根県立美術館
16 Joke Juice Journey	JUNE BRAND '77	1977(昭和52)	エッチング、アクアチント・紙	島根県立美術館
17 Corn Pipe	JUNE BRAND '77	1977(昭和52)	エッチング、アクアチント・紙	島根県立美術館
18 Super Plant	JUNE BRAND '77	1977(昭和52)	エッチング、アクアチント・紙	島根県立美術館
19 Fresh Fishing	JOURNEY	1977(昭和52)	エッチング、アクアチント・紙	島根県立美術館
20 Summer Shower Show	JOURNEY	1977(昭和52)	エッチング、アクアチント・紙	島根県立美術館
21 To the Park	JOURNEY	1978(昭和53)	エッチング、アクアチント・紙	島根県立美術館
22 Everyday Everywhere	JOURNEY	1978(昭和53)	エッチング、アクアチント・紙	島根県立美術館
23 The Museum	JOURNEY	1978(昭和53)	エッチング、アクアチント・紙	島根県立美術館
24 Fur Fur	LADIES and GENTLEMAN	1980(昭和55)	エッチング、アクアチント・紙	島根県立美術館
25 For Men	LADIES and GENTLEMAN	1980(昭和55)	エッチング、アクアチント・紙	島根県立美術館
26 Fish and Chips	-	1980(昭和55)	エッチング、アクアチント・紙	島根県立美術館
27 An Artist and His Dog Mr. W	Portrait	1981(昭和56)	ソフトグラウンドエッチング・紙	島根県立美術館
28 John's Judge	Portrait	1982(昭和57)	ソフトグラウンドエッチング・紙	島根県立美術館
29 Hotel Paris	-	1978(昭和53)	水彩・紙	島根県立美術館
30 BAAAAAAD	-	1978(昭和53)	水彩・紙	島根県立美術館

コレクション展

展示室C

ファッションの20世紀

会期:平成17年10月8日(土)~平成18年1月29日(日)

内容:当館のコレクションの柱のひとつである「ファッション」。開館を記念し、20世紀の西洋ファッションの変遷を、ポワレ、シャネル、サンローラン、そして森英恵などの衣装によりたどる内容。

出品リスト

作家名	作品名	制作年	材質	所蔵
1 シャルル=フレデリック・ウォルト	ポールガウン	1897	アイボリーの絹サテン、ジゴ袖のツーピース・ドレス。金糸で刺繍の施されたペーージュのラメ、ボティスとスカートに稲妻と雲のデザイン。雲のデザインの薄い青色のトレーン。	当館
2 ポール・ポワレ	ガーデン・パーティ・ドレス	1911	アイボリー色のオーガンジーのワンピース・ドレス。ボティスとスカート裾の部分に花卉の形のアプリケ、中央のバラはステンシルによるペイント。裏地の裾に黒のベルベット。	当館
3 ポール・ポワレ	ドレス	1913	黄色の絹ゴーズとブリーツのあるグリーン地のシフォン。銀ブレードの縁飾り、バンド部分にペイズリー模様を銀糸やスパンゲルで刺繍。裏地はライム・グリーン地のシフォン。	当館
4 マリアノ・フォルチュニ	デルフォス	1910年代	白の絹サテンのワンピース・ドレス。不規則な細かいブリーツ。アーム・ホール、脇にトンボ玉付き。ペーージュと赤銅色の飾りヒモ付き。	当館
5 マリアノ・フォルチュニ	ブリーツ・ドレス「デルフォス」	1910年代	赤の絹サテンのワンピース・ドレス。不規則な細かいブリーツ。アーム・ホール、脇にトンボ玉付き。	当館
6 ガブリエル・シャネル	イヴニング・ドレス	1920年代後半	黒い絹クレープ・デ・シンにシャンティイレース地を重ねたワンピース・ドレス。サテン地のリボン。	当館
7 ガブリエル・シャネル	イヴニング・ドレス	1927年頃	黒の絹シフォンのワンピース・ドレス。バイアスカット。黒の絹のスリッパ。	当館
8 ジャンヌ・ランバン	ドレス	1936	黒の絹クレープのワンピース・ドレス。袖に白いフェルト地のアプリケワーク。バイアスカット。	当館
9 エルザ・スキャパレリ	イヴニング・ドレス	1938	ショッキングピンク地にプリントを施した絹シフォンのワンピース・ドレス。ショッキングピンクのアンダードレス。	当館
10 マドレーヌ・ヴィオネ	イヴニング・ドレス、スリッパ、ストール	1938	黒いチュール地に金色のぶどうのモチーフのワンピース・ドレス。サーキュラー・スカート。ホルター・ネック。黒い絹サテンのアンダー・ドレス付。ストールは黒いチュール。	当館
11 クリストバル・バレンシアガ	ドレス	1949	黒のウールに緑の絹タフタのワンピース・ドレス。	当館
12 クリスチャン・ディオール	ディナー・ドレス「カラカス」	1953	バラのプリント地の絹シフォンのツーピース・ドレス。裏地はピンクの絹オガンザ。内側にはボーンの入ったチュール地とシフォンのコルセット。巻きスカート、シース型のアンダースカート付。	当館
13 イブ・サンローラン	ディナー・ドレス「Musique de Nuit」	1956	ダーク・グレーのシルク・グログラン地。Vネックライン、七分丈のラグランズリーブス、トラペーズラインのスカート、4重に重ねたベチコートには、ホース・ヘアー・バンド。	当館
14 クリスチャン・ディオール / イブ・サンローラン	ディナー・ドレス	1958	銀の絹サテン、裏地は絹ゴーズ。七分丈のラグランズリーブス。幅広の帯風のベルト。ボティスの内側にはチュール地のボーン入りコルセットとガーター。スカートにはチュール地の3段のベチコート。	当館
15 森 英恵	イヴニング・コート、ショートドレス	1964	純金帯地(西陣織)のコート。ドレスは、帯地と絹サテン。	当館
16 パコ・ラバンヌ	イヴニング・ドレス	1966	銀色のアルミニウム板を真鍮の金具でつなぎ合わせたミニ・ドレス。	当館
17 森 英恵	ジャンプスーツ、カフタン	1966	菊を同柄でプリントした綾絹と絹シフォンのジャンプスーツとカフタン。絹サテンのベルト。	当館
18 イブ・サンローラン	カクテル・ドレス、ケープ	1967-68	カクテルドレスとケープのアンサンブル。ボティスは黄色の絹オーガンザ、ピンク、黄色のパイエット飾り等で刺繍。スカート、ケープには黄色のオストリッチ・フェザー。	当館
19 アンドレ・クレージュ	イヴニング・ドレス	1970年頃	白いウール地のワンピース・ドレス。裏地は白い絹。	当館
20 森 英恵	イヴニング・ドレス「北斎の版画のように、山の風景を染めた絹のドレス」	1996	墨絵風の柄をプリントした絹シフォン、絹サテンのワンピース・ドレス。	当館

ギャラリートーク

講師 南目美輝(当館主任学芸員)

日時 平成17年10月26日(土)、12月10日(土) 15:00~

コレクション展

展示室C

草間彌生

会期:平成18年2月4日(土)~5月8日(月)

内容:日本を代表する美術家、草間彌生。今回の展示では、当館の収蔵品に加え、作家や個人コレクターより作品を借用し、紹介した。
併せて、草間によるハブニング/ファッションショーの映像も上映した。

出品リスト

	作家名	作品名	制作年	材質	寸法	所蔵
1	草間彌生	The Heat	1952	グアッシュ、パステル、紙	29.8×24.8	当館
2	草間彌生	HORIZONTAL-B	1953	グアッシュ、パステル、紙	28.0×28.0	当館
3	草間彌生	No.235.Q.2	1953	グアッシュ、パステル、紙	32.5×30.7	当館
4	草間彌生	(18J)	1954	グアッシュ、パステル、紙	61.0×45.7	当館
5	草間彌生	(18D)	1956	グアッシュ、パステル、紙	58.4×43.3	当館
6	草間彌生	(18Q)	1956	グアッシュ、パステル、紙	61.0×45.7	当館
7	草間彌生	帽子	1975	フォトコラージュ、水彩、パステル・紙	39.5×54.5	当館
8	草間彌生	ジェネシス 創世記	1993-1994	詰物入り縫製布、木、彩色	299.7×480.1×30.0	当館
9	草間彌生	南瓜	1998	F. R. P.、塩ビ系塗装	200.0×250.0×250.0	当館
10	草間彌生	ドレス	1976	ドレス、詰め物をした縫製布、ハンガー、彩色	102.0×52.0×20.0	当館
11	草間彌生	「銀色の希死」より	1976	靴、詰め物をした縫製布、彩色	W23.0×H19.0×D8.6	当館
12	草間彌生	シルバースューズ	1976	靴、詰め物をした縫製布、彩色	W23.0×H19.0×D8.6	当館
13	草間彌生	ドレス 10点	1968年/ 1998年再制作	ドレス(プリント、彩色)		当館
14	草間彌生	死の海を行く	1981	詰物入り縫製布、木製ボート、彩色	58.0×256.0×158.0cm	作家
15	草間彌生	雲	1984	詰物入り縫製布、彩色、100ピース	サイズ可変	作家
16	草間彌生	ドレス	1966	ドレス、詰物入り縫製布、彩色		作家
17	草間彌生	Infinity Nets	2006	油彩、キャンバス		作家
18	草間彌生	シルバールーを食べて	2006	ミクストメディア		作家
19	草間彌生	月の夜	1985	ミクストメディア	212.7×156.8×90.2	作家
20	草間彌生	幻影の愛	1988	ミクストメディア		作家
21	草間彌生	地上の銀	1990	詰物入り縫製布、木、彩色	180.0×180.0×12.0	個人
22	草間彌生	自己消滅1	1960-74	マネキン、テーブル、彩色	168×400×300	個人

展示室D

パリの粋 ファッション・プレート(版画)の世界

会期:平成18年1月28日(土)~2月20日(月)

内容:20世紀初頭、パリは最新のファッションの発信地だった。おしゃれな女性達の姿、彼女たちのモダンな生活を、ファッション・プレートとよばれる繊細、優美な版画と、同時代のドレスでたどる。

出品リスト

	作家名	作品名	制作年	材質	寸法	所蔵		
1	版画	ルイ・ビュロー	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より	ジャンヌ・ランバンのオーガンジーのドレスと子供用コート	1920年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
2	版画	アンドレ・マルティ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より	アンナン人(ヴェトナム中部地方の)女中ドゥイエの夜会服とリボン	1920年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
3	版画	フランシスコ・バビエル・ゴゼ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より	芝居 パキャンのコート	1912年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
4	版画	アンドレ・マルティ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より	助言者 ポール・ボワレの夜会服	1924-1925年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
5	版画	エルネスト・タヤート	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より	マドレーヌ・ヴィオネのケープ	1922年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
6	版画	アンドレ・マルティ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より	12月の公園 ドゥイエのテーラードスーツ	1921年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
7	版画	ジョルジュ・ルパーブ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より	3つのドレス	1913年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
8	版画	ジョルジュ・ルパーブ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より	ああ!寒い ボワレの冬用マント	1913年	ステンシル、紙	26.0×20.0	当館
9	版画	アンドレ・マルティ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より	かわいい顔 子どもと若い女性のための・ランバンのドレス	1923年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
10	版画	アンドレ・マルティ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より	漆の整理ダンス ウォルトの夜会服	1914年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
11	版画	ジョルジュ・バルビエ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より	静かにして パキャンのデイドレス	1913年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
12	版画	シャルル・マルタン	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より	鳥小屋 パキャンの空想の衣装	1913年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館

コレクション展

コレクション展

	作家名	作品名	制作年	材質	寸法	所蔵
13 版画	ジョルジュ・ルパープ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より あまりに暑い ポワレの夏用帽子	1913年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
14 版画	ジョルジュ・バルビエ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より ヴィシー	1915年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
15 版画	ジョルジュ・ルパープ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より ヴェルサイユ の庭園 ルイ14世様式のポワレの衣装	1913年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
16 版画	アンドレ・マルティ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より オアシス または丸天井の気体 ポワレの夜会服	1921年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
17 版画	アンドレ・マルティ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より クークー! ポワレのドレス	1924- 1925年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
18 版画	アンドレ・マルティ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より シンデレラ ドウイエの夜会服	1920年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
19 版画	ジョルジュ・バルビエ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より スモモの季節 レドファンのディ・ドレス	1914年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
20 版画	エルネスト・タヤート	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より たばこ ヴィオネのドレス	1922年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
21 版画	アンドレ・マルティ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より タンジール あるいは遠く離れた場所への逃避の魅力 ポワレのディドレスとコート	1920年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
22 版画	ジョルジュ・ルパープ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より どっちにしよう? ポワレの夜会服	1913年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
23 版画	アンドレ・マルティ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より バラの香り コローの帽子	1924年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
24 版画	ロベール・ダミー	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より バラ色の服 ドゥッセのガーデン・パーティドレス	1913年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
25 版画	ジョルジュ・バルビエ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より ヘスベリデス の園 パキャンのテラードスーツ	1913年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
26 版画	アンドレ・マルティ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より ベルクソン夫人 は行くと約束した。ウォルトのディナードレス	1914年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
27 版画	シャルル・マルタン	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より モントマルトル に散歩 ベアーのアンサンブル	1920年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
28 版画	ジョルジュ・ルパープ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より リボン	1913年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
29 版画	アンドレ・マルティ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より 煙草の灰 ポールポワレの夜会服	1922年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
30 版画	ジョルジュ・ルパープ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より 休息 屋外用の仕事着	1914年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
31 版画	アンドレ・マルティ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より 胸がいっぱい ポワレの夜会服	1922年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
32 版画	ジョルジュ・ルパープ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より 月あかり ポワレのコート	1913年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
33 版画	ジョルジュ・ルパープ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より 幻想 ジャンヌ・ランバンのドレス	1924- 1925年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
34 版画	フランシスコ・ ハビエル・ゴゼ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より 最後のバラ レドファンのディドレス	1913年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
35 版画	ルイ・ビュロー	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より 祭りが 終わった ランバンのオーガンジーの ドレスと子ども服	1920年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
36 版画	ジョルジュ・ルパープ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より 傘	1913年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
37 版画	アンドレ・マルティ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より 私は赤い 顔でいらだつ また、不幸はすぐに報われる ウォルトのドレス	1920年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
38 版画	ジョルジュ・ルパープ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より 嫉妬 ポワレの夜会服	1913年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
39 版画	ジョルジュ・バルビエ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より 秋のシン フォニー ウォルトのコートとディドレス	1922年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
40 版画	シャルル・マルタン	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より 女性と犬 朝の間	1913年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
41 版画	ジョルジュ・バルビエ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より 少しだけ パキャンのドレス	1913年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
42 版画	ジョルジュ・ルパープ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より 晴れた日のために 帽子、日傘、手袋	1914年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
43 版画	ジョルジュ・ルパープ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より 早すぎたかしら? ポール・ポワレのコート	1912年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
44 版画	ジョルジュ・ルパープ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より 凧(たこ) 夏用の作業着	1914年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
45 版画	ジョルジュ・ルパープ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より 虫 屋外で遊ぶための子ども服	1914年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館

コレクション展

	作家名	作品名	制作年	材質	寸法	所蔵
46 版画	アンドレ・マルティ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より 庭で咲いた最初の花 ドウイエの春用のドレス	1914年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
47 版画	ウルンガー	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より 難しい選択 「ペルージャ」のハイヒール	1924- 1925年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
48 版画	アンドレ・マルティ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より 巴里での 困惑 ドウイエのコート	1920年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
49 版画	ジョルジュ・バルビエ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より 美しい女性 パキャンの訪問着	1912年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
50 版画	ジョルジュ・バルビエ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より 魔法 ペアーの夜会服	1922年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
51 版画	ジョルジュ・ルパーブ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より 未来の父親 部屋着	1914年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
52 版画	ジョルジュ・ルパーブ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より 木馬 ジャンヌ・ランパンのディ・ドレス と子供用ドレス	1924年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
53 版画	アンドレ・マルティ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より 戻ろう。ひんやりとした墓地 ドウイエの夜会服	1914年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
54 版画	ジョルジュ・バルビエ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より 夜のドレス ウォルトの夜会服	1921年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
55 版画	エルネスト・タヤート	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より マドレーヌヴィオネのドレス	1922年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
56 版画	アンドレ・マルティ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より 大きな悲しみ または浮気 デイドレスと チリメン織りとウール地とジャケットとズボンとベスト	1922年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
57 版画	ジョルジュ・ルパーブ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より 無気力 ボールポワレのドレス	1912年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
58 版画	ジョルジュ・バルビエ	『ガゼット・デュ・ボン・トン』より輪投げ遊び パキャンのデイドレス	1913年	ステンシル・紙	26.0×20.0	当館
59 版画		『フェミナ』	1900~ 1920年代		34.0×25.5	当館
60 版画	ポール・イリーブ	『ポール・ポワレのドレス』	1908年	ステンシル・紙	32.5×30.3	当館
61 版画	ジョルジュ・ルパーブ	『ポール・ポワレの作品』	1911年	ステンシル・局紙 (和紙)と洋紙の併用	33.5×30.5	当館
62 版画	ソニア・ドローネー	『絵画・オブジェ・同時的テキスタイル・モード』 表紙	1925年		57.0×38.5	当館
63 版画	ソニア・ドローネー	『絵画・オブジェ・同時的テキスタイル・モード』 12. ジレのためのデザイン	1923年	ステンシル・紙	57.0×38.5	当館
64 版画	ソニア・ドローネー	『絵画・オブジェ・同時的テキスタイル・モード』 13. 衣装のモデル	1924-25年	ステンシル・紙	57.0×38.5	当館
65 版画	ソニア・ドローネー	『絵画・オブジェ・同時的テキスタイル・モード』 15.	1924年	ステンシル・紙	57.0×38.5	当館
66 版画	ソニア・ドローネー	『絵画・オブジェ・同時的テキスタイル・モード』 16.	1923年	ステンシル・紙	57.0×38.5	当館
67 版画	ソニア・ドローネー	『絵画・オブジェ・同時的テキスタイル・モード』 2. コスチューム・デザイン	1925年	ステンシル・紙	57.0×38.5	当館
68 版画	ソニア・ドローネー	『絵画・オブジェ・同時的テキスタイル・モード』 20. 5人の女性	1924年	ステンシル・紙	57.0×38.5	当館
69 版画	ソニア・ドローネー	『絵画・オブジェ・同時的テキスタイル・モード』 3. 1923-1924年 トリスタン・ツアラ「ガスで動く 心臓」より	1925年	ステンシル・紙	57.0×38.5	当館
70 版画	ソニア・ドローネー	『絵画・オブジェ・同時的テキスタイル・モード』 5. 帽子とマフラーのデザイン	1922- 1923年	ステンシル・紙	57.0×38.5	当館
71 版画	ソニア・ドローネー	『絵画・オブジェ・同時的テキスタイル・モード』 6. 子供服のデザイン	1920年	ステンシル・紙	57.0×38.5	当館
72 版画	ソニア・ドローネー	『絵画・オブジェ・同時的テキスタイル・モード』 9. ディスクのスカーフ	1923年	ステンシル・紙	57.0×38.5	当館
74 版画	アンドレ・マルティ	『今日の流行とおしゃれ』より アンティークショップ	1919年	ステンシル・紙	27.5×18.0	当館
75 版画	ジョルジュ・ルパーブ	『今日の流行とおしゃれ』より クッション	1912年	ステンシル・紙	27.5×18.0	当館
76 版画	シャルル・マルタン	『今日の流行とおしゃれ』より 音楽	1913年	ステンシル・紙	27.5×18.0	当館
77 版画	ジョルジュ・ルパーブ	『今日の流行とおしゃれ』より 仮装	1912年	ステンシル・紙	27.5×18.0	当館
78 版画	ジョルジュ・ルパーブ	『今日の流行とおしゃれ』より 休暇中の軍人	1915年	ステンシル・紙	27.5×18.0	当館
79 版画	ジョルジュ・ルパーブ	『今日の流行とおしゃれ』より 警報	1918年	ステンシル・紙	27.5×18.0	当館
80 版画	ジョルジュ・ルパーブ	『今日の流行とおしゃれ』より 勝利	1919年	ステンシル・紙	27.5×18.0	当館
81 版画	ジョルジュ・ルパーブ	『今日の流行とおしゃれ』より 病院	1914年	ステンシル・紙	27.5×18.0	当館
82 版画	アンドレ・マルティ	『今日の流行とおしゃれ』より 舞台稽古	1919年	ステンシル・紙	27.5×18.0	当館
83 版画	アンドレ・マルティ	『今日の流行とおしゃれ』より 復員	1919年	ステンシル・紙	27.5×18.0	当館

コレクション展

コレクション展

	作家名	作品名	制作年	材質	寸法	所蔵
84	版画	シャルル・マルタン	『今日の流行とおしゃれ』より 歩道橋	1913年	ステンシル・紙	27.5×18.0 当館
85	服飾	エルザ・スキヤパレリ	イブニング・ドレス	1939年	クリーム色のサテン・シルク。衿はフェイク(衿の形をしたアップリケ・ワーク)。肩にプラスチック・ジップ。	当館
86	服飾	ジャンヌ・ランヴァン	イブニング・ドレス	1928年	黒の絹チュールのワンピースドレス。ボディスとスカート上部に金銀のスパンコールなどによる刺繍。	当館
87	服飾	スザンヌ・タルボット	イブニング・コート	1925年頃	黒い絹の筒型コート。椰子の葉と花々を刺繍したテキスタイル。黒の毛皮のトリミング。裏地は黒のベルベット。	当館
88	服飾	ジャン=フィリップ・ウォルト	ウェディング・ドレス	1916年	さまざまな種類のブリュッセルレースを組み合わせたワンピース・ドレス	当館
89	服飾	ポール・ボワレ	ドレス	1920年代後半	シュミーズ風赤紫色の絹クレープ・デ・シンのワンピース・ドレスに、藤色と紫色のプリーツのあるオーバードレス。前身頃とウエストに、金色とピンク色のオリエンタル風モチーフを刺繍。	当館
90	服飾	作者不詳	ビーチ・ウェア	1910—20年代	白色のシルクポンジー。袖無し。ボディス、パンツ。	当館

ギャラリートーク

講師 南目美輝(当館主任学芸員)

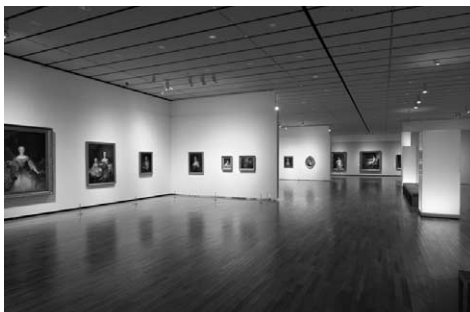
日時 平成18年1月29日(日)14:00~



チラシ



会場



会場

企画展

展覧会名 華やぐ女たち エルミターージュ美術館展 ルネサンスから新古典まで

会 期 平成17年10月8日(土)～11月23日(水・祝)

休 館 日 火曜日

開館時間 10:00～18:30(展示室への入場は18:00まで)

観 覧 料 一 般/当日券 企画展1,000(800)円、企画・常設展セット1,150(920)円
前売券 企画・常設展セット900円
大学生/当日券 企画展600(450)円、企画・常設展セット700(530)円
小中高生/当日券 企画展300(250)円、企画・常設展セット300(250)円
※()内は20名以上の団体料金。

主 催 島根県立石見美術館、島根県、島根県教育委員会

後 援 朝日新聞松江総局、毎日新聞松江支局、読売新聞松江支局、産経新聞松江支局
日本経済新聞社松江支局、中国新聞社、新日本海新聞社松江支局
島根日日新聞社、共同通信社松江支局、時事通信社松江支局
NHK松江放送局、山陰中央テレビ、山陰放送、日本海テレビ
エフエム山陰、石見ケーブルビジョン株式会社、サンネットにはら

協 賛 SG信託銀行

協 力 (財)日動美術財団、全日本空輸株式会社、日本貨物航空株式会社、
ルフトハンザドイツ航空会社、ルフトハンザカーゴAG、ヤマトロジスティクス株式会社

内 容 本展は、当館の開館記念展として開催された展覧会である。ロシア国立エルミターージュ美術館のコレクションから、女性の肖像画に焦点をあて、16世紀初頭から19世紀末にいたる絵画55点を紹介した。
女性美の表現は、いかなる時代においても芸術家にとって最も重要なテーマの一つであり、彼らはその魅力の表現に腐心してきた。今回の展示では、クラナッハ、ティツィアーノ、ゴヤ、カロリュス＝デュラン等による、ルネサンスから新古典へといたる400年間に制作された肖像画を紹介した。また、モデルにはエカテリーナ2世をはじめ、オーストリアの女帝マリア・テレジア、皇帝ナポレオンの妻ジョセフィーヌなど、歴史に名をとどめる女性たちの姿も。さらに、描かれた女性たちが身にまとう衣装やアクセサリー、髪型などは時代の流行、あるいは美意識を色濃く映し出しており、当館のコンセプト「ファッション」の流れを知るための手がかりともなるものであった。

主な出品作家 ルーカス・クラナッハ(父)、ティツィアーノ、コレッジオ、ソフォニスバ・アングィッソラ、ピーテル・パウウル・リュベンス、ホセ・デ・リベラ、フランシスコ・デ・スルバラン、アンソニー・ヴァン・ダイク、ニコラ・ランクレ、フランソワ・ブーシェ、ジャン＝バティスト・グルーズ、フランシスコ・ホセ・デ・ゴヤ・イ・ルシエンテス、エリザベート＝ルイズ・ヴィジェ＝ルブラン、フランソワ・ジェラルド、フランス＝クサファー・ヴィンターハルター、アレクサンドル・カバネル、カロリュス＝デュラン 他 48作家

雑誌、関連記事 山陰中央新報[展覧会紹介記事 10月14日]
中国新聞 [展覧会紹介記事 片山明子 10月18日]
朝日新聞、山陰中央新報、[入場者1万人達成記事 10月29日]
毎日新聞 [入場者1万人達成記事 11月1日]
山陰中央新報 [展覧会紹介 南目美輝 11月12日]
中国新聞、毎日新聞 [入場者2万人達成記事 11月18日]
他

関連事業 記念講演会「華やぐ女性たちとファッション」
講師：深井晃子
(京都服飾文化研究財団チーフ・キュレーター、静岡文化芸術大学大学院教授)
実施日：10月14日(金)
聴講者数 70名

美術講座 展覧会をもっと楽しむために
講師 南目美輝(当館主任学芸員)
日時 11月12日(土)14:00～15:30
参加者 18名

映画会
ロシアアニメ「チェブラーシカ」
実施日：10月23日
参加者：100名
ロシアアニメ「ミトン」
実施日：11月3日
参加者：60名



エントランスバナー

企画展

ギャラリー・トーク

講師 南目美輝(当館主任学芸員)

日時 10/8(土)、10/9(日)、10/10(月)、10/16(日)、10/23(日)、10/30(日)、
11/3(木・祝)、11/6(日)、11/13(日)、11/23(水・祝) 14:00~

参加者 合計840名

制作物 展覧会図録『華やぐ女たち エルミタージュ美術館展 ルネサンスから新古典まで』

内容 図版 絵画 55点

タチヤーナ・クストージェワ 「美の女神は永遠に美しく」

深谷克典 「女性像における肖像表現の推移」

加藤俊明 「16-17世紀の女性像—イタリアとオランダ—」

南目美輝 「描かれた母と子 ヴィジェールプランの母子像を中心に」

長谷川智恵子 「私とエルミタージュ美術館」

A4版 164頁

編集 深谷克典、加藤俊明、南目美輝

デザイン 馬面俊之

制作 日動出版

発行 (財)日動美術財団

発行日 2005年5月21日

展覧会ポスター B2 (デザイン 矢萩喜従郎)

展覧会チラシ A4 (デザイン 同上)

ポイントガイド A3三つ折り

小学校低学年用鑑賞シート A4二つ折り

小学校中学年—中学生用鑑賞シート A4二つ折り

巡回会場 名古屋市立美術館 2005年5月21日—7月18日

岩手県立美術館 2005年7月26日—9月25日

展覧会名 江戸の奇才 北斎展—葛飾北斎とその弟子たち

会期 平成17年12月23日(金・祝)~平成18年1月23日(月)

休館日 12/27(火)、12/30(金)、12/31(土)、1/1(日)、1/10(火)、1/17(火)

開館時間 10:00~18:30(展示室への入場は18:00まで)

観覧料 一般/当日券 企画展1,000(800)円、企画・常設展セット1,150(920)円
前売券 企画・常設展セット900円

大学生/当日券 企画展600(450)円、企画・常設展セット700(530)円

小中高生/当日券 企画展300(250)円、企画・常設展セット300(250)円

※()内は20名以上の団体料金。

※小中高生の学校利用は入場無料

※障害者手帳保持者および介助者は入場無料。

主催 島根県立石見美術館・山陰中央新報社

後援 朝日新聞松江総局、毎日新聞松江支局、読売新聞松江支局、産経新聞松江支局

日本経済新聞社松江支局、中国新聞社、新日本海新聞社松江支局

島根日日新聞社、共同通信社松江支局、時事通信社松江支局

NHK松江放送局、山陰中央テレビ、山陰放送、日本海テレビ

エフエム山陰、石見ケーブルビジョン株式会社、サンネットにはら

協力 葛飾北斎美術館

その他 芸術文化振興基金助成事業

内容 本展は、当館の開館記念展第二弾として企画された展覧会である。葛飾北斎(1760~1849)は、いうまでもなく雪舟同様世界的に知られた日本が誇る絵師の一人である。70年にも及ぶ長いが業の中で、肉筆画、浮世絵版画、摺物、版本と幅広い分野で活躍した。それらの作品が海外に渡り、印象派の画家たちに衝撃を与えたことはよく知られている。また、「葛飾派」と呼ばれる北斎の門人は約200人にも及び、多くの作品も残っている。この展覧会では、島根県津和野町の葛飾北斎美術館の協力を得て、館藏品と個人蔵の作品から北斎だけでなく、その門人たちの作品もあわせて150点を展示した。

展示絵師一覧

葛飾北斎、蹄斎北馬、魚屋北溪、菱川宗理、二代葛飾戴斗、柳々居辰斎、二代葛飾北斎、大山北李、三田北鷲、高井鴻山、抱亭五清、二代柳川重信、沼田月斎、森高雅、柳川重信、形工亭北一、花菱斎北雅、北泉戴岳、岳亭春信、牧墨僊、葛飾応為



ポスター

企画展



会場



回廊バナー



入館1万人目セレモニー

雑誌、
関連記事

月刊ぶらざC-able[展覧会紹介記事 12月1日]
毎日新聞[展覧会紹介記事 12月20日]
読売新聞[展覧会紹介記事 12月22日]
山陰中央新報[展覧会紹介記事 12月22日]
山陰中央新報[展覧会開幕記事 12月24日]
中国新聞[展覧会開幕記事 12月24日]
山陰中央新報[ワークショップ紹介記事 12月25日]
中国新聞[ワークショップ紹介記事 12月25日]
りびえる[展覧会紹介記事 12月25日]
山陰中央新報[展覧会紹介記事 1月8日]
山陰中央新報[作品紹介記事 1月7日]
山陰中央新報[展覧会紹介 的野克之(当館学芸グループ課長) 1月7日]
産経新聞 [美術館散歩/1月12日]
山陰中央新報[入場者1万人達成記事 1月23日]
中国新聞[入場者1万人達成記事 1月23日]
毎日新聞[入場者1万人達成記事 1月23日]

関連事業

記念講演会 「北斎 人と芸術」
講師 永田生慈(葛飾北斎美術館長、太田記念美術館副館長)
実施日 12月23日
聴講者数 90名

ギャラリー・トーク
講師 的野克之(当館学芸グループ課長)
実施日 12月25日(日)、1月2日(月)、1月8日(日)、1月15日(日)、1月22日(日)
参加者 合計約400名

印刷物

展覧会図録『特別展 江戸の奇才 北斎展 葛飾北斎とその弟子たち』
内容 図版 肉筆画(掛幅) 41点
肉筆画(画帖・扇面・画稿)・書簡 15点
浮世絵版画 46点
摺物・絵暦 31点
版本 17点
総論 北斎の生涯と門人たち 永田生慈(葛飾北斎美術館長、
太田記念美術館副館長)
葛飾派系図
作品目録・解説
絵師略歴

A4変 112頁
執筆 永田生慈(葛飾北斎美術館長、太田記念美術館副館長)
編集 的野克之(当館学芸グループ課長)
写真撮影 中村喜代治
デザイン 野村勝久、谷原玲子
制作 野村デザイン制作室
発行 島根県立石見美術館
発行日 平成17年12月23日

展覧会ポスター B2 (デザイン 野村勝久)
展覧会チラシ A4 (デザイン 同上)

巡回会場 無し



ポスター



会場



トークショー「ウィーンの街と芸術」

企画展

展覧会名 ウィーン展 華麗なる美術と音楽のしらべ

会期 平成18年3月3日(金)～6月5日(月)

休館日 火曜日[但し3月21日(火・祝)、5月2日(火)は開館、3月22日(水)は休館]

開館時間 10:00～18:30(展示室への入場は18:00まで)

観覧料 当日券: 一般/1,000(800)円、企画・コレクション展セット1,150(920)円
 大学生/600(450)円、企画・コレクション展セット700(530)円
 小中高生/300(250)円、企画・コレクション展セット300(250)円
 前売券[企画・コレクションセット]: 一般/900円、大学生/500円、小中高生/200円
 ※()内は20名以上の団体料金。
 ※小中高生の学校利用は無料。
 ※障害者手帳をお持ちの方、およびその付き添いの方は入場無料。

主催 島根県立石見美術館、NHK

後援 オーストリア大使館、オーストリア政府観光局、朝日新聞松江総局、毎日新聞松江支局、読売新聞松江支局、産経新聞松江支局、日本経済新聞社松江支局、中国新聞社、山陰中央新報社、新日本海新聞社、島根日日新聞社、共同通信社松江支局、時事通信社松江支局、山陰中央テレビ、山陰放送、日本海テレビ、エフエム山陰、石見ケーブルビジョン、サンネットにちはら、中国放送、テレビ新広島、広島テレビ放送、広島ホームテレビ、広島エフエム放送、tysテレビ山口、YAB山口朝日放送、KRY山口放送、エフエム山口、萩ケーブルネットワーク、山口新聞、西日本新聞社

内容 19世紀半ば、オーストリアの皇帝フランツ・ヨーゼフ1世は、ウィーンの街をとりまく城壁を撤去し、環状道路(リング・シュトラッセ)を建設させた。以降、リング通り沿いには、国会議事堂、市庁舎、オペラ座、楽友協会ホール、美術館、博物館などの主要な施設が次々と建設された。この時代は、リング・シュトラッセ時代といわれ、ウィーンはかつてないほどの栄華を享受し、社会が飛躍的な発展を遂げることができた幸せな時代だった。

本展では、この時代を中心に華やかな宮廷文化を物語る食器・家具、リング・シュトラッセ時代の市民文化、世紀転換期の美術を展示した。また加えてマーラーやヨハン・シュトラウスなど同時代の作曲家の直筆の楽譜や、舞台デザインなど、音楽やオペラに関連する資料により、芸術の都ウィーンの魅力を紹介した。

- 雑誌、関連記事**
- 毎日新聞[展示作業紹介記事 2月27日]
 - 産経新聞[美術館散歩 3月2日]
 - 毎日新聞[展覧会開幕記事 3月3日]
 - 読売新聞[展覧会開幕記事 3月3日]
 - 山陰中央新報[展覧会開幕記事 3月3日]
 - 朝日新聞[展覧会開幕記事 3月4日]
 - ミセス4月号[展覧会紹介記事 3月7日]
 - 産経新聞[美術館散歩 3月9日]
 - 産経新聞[美術館散歩 3月16日]
 - 産経新聞[美術館散歩 3月23日]
 - 産経新聞[美術館散歩 3月30日]
 - 山陰中央新報[トークショー紹介記事 4月2日]
 - 山陰中央新報[いつでもどこでも音楽祭紹介記事 4月9日]
 - りびえーる[展覧会紹介記事 4月9日]
 - 山陰中央新報[入場者1万人達成記事 4月15日]
 - 毎日新聞[入場者1万人達成記事 4月15日]
 - 山陰中央新報[展覧会紹介 的野克之(当館学芸グループ課長) 4月26日]
 - 山陰中央新報[展覧会紹介記事 4月29日]
 - 読売新聞[入場者2万人達成記事 5月14日]
 - 朝日新聞[入場者2万人達成記事 5月14日]
 - 毎日新聞[入場者2万人達成記事 5月14日]
 - 山陰中央新報[入場者2万人達成記事 5月14日]
 - 山陰中央新報[ワークショップ紹介記事 5月16日]
 - 中国新聞[展覧会紹介記事 5月19日]

関連事業 カフェトーク「美しいウィーンの楽しみ方」
 講師: 三木由美子(服飾研究家)
 日時: 3月18日(土) 15:00～16:00
 場所: レストラン「ポニー」
 参加者数: 40名

トークショー「ウィーンの街と芸術」
 講師: 池内紀(ドイツ文学者・エッセイスト)、山本容子(銅版画家)
 日時: 4月1日(土) 14:00～15:30
 場所: 小ホール
 聴講者数: 350名

企画展



オープニングセレモニー



オープニングレセプション



ワークショップ
「ぎってってはって絵をつくろう!!」

美術講座「ウィーン展を1.5倍楽しむ方法」

講師:河野克彦(当館主任学芸員)
日時:5月3日(水・祝)14:00~15:00
場所:講義室
聴講者数:30名

親子向けギャラリートーク

講師:河野克彦(当館主任学芸員)
日時:5月6日(土)11:00~12:00
参加者数:25名

ワークショップ「シャキーン!!チョコキチョコキ!!ベッタンコ!!」ぎってってはって絵をつくろう!!

講師:米倉大五郎(アーティスト)
日時:5月13日(土)10:00~15:00
参加者:8名

カフェトーク「今年はウィーン! アートのウィーンめぐりのススメ」

講師:的野克之(当館学芸グループ課長)、南目美輝(当館主任学芸員)、
河野克彦(当館主任学芸員)
日時:5月14日(日)15:00~16:00
聴講者数:15名

ギャラリートーク

講師:山崎篤典(いわみ芸術劇場館長)、河野克彦(当館主任学芸員)
日時:ウィーン展期間中 毎週日曜日14:00~ 15回開催
場所:展示室D
参加者:合計約400名

オープニングコンサート「今宵はウィーン 夢の街」

出演:飯田みち代(ソプラノ)、小原啓楼(テノール)、前田佳世子(ピアノ)
日時:3月3日(金) 18:00~
場所:小ホール
参加者数:200名

映画会「アマデウス」

日時:3月11日(土)18:00~20:40、3月15日(水)14:00~16:40、18:30~21:10、
3月16日(木)14:00~16:40、18:30~21:10、3月17日(金)14:00~16:40、
18:30~21:10
場所:小ホール
参加者数:合計330名

グラントワ春のコンサート

第1部 栗山文昭のいわみ合唱塾SPRINGコンサートVol.II
第2部 NHK東京児童合唱団と日本音楽集団を迎えて「日本の音楽を観る」
日時:3月21日(火・祝) 14:00~
場所:大ホール
参加者数:700名+出演400名

グラントワ・ウィーン音楽祭「シュランメル音楽会」

日時:4月2日(日) 18:30~
場所:小ホール
参加者数:120名

サイレントフィルム上映会「結婚哲学」

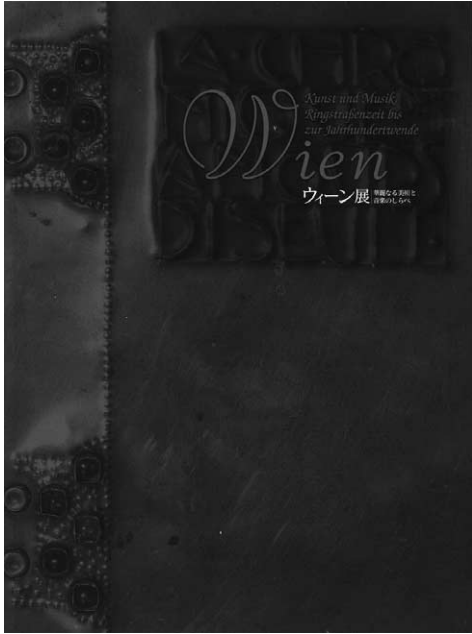
日時:5月4日(木・祝)、5日(金・祝)、各日とも13:00~、14:30~、16:00~
場所:大ホールホワイエ
参加者数:30名

ウィーン少年合唱団演奏会

日時:5月13日(土)19:00~
場所:大ホール
参加者数:1,400人

いつでもどこでも音楽祭

日時:ウィーン展期間中 毎週土曜日14:00~ 15回開催
場所:中庭、美術館ロビー、大ホールホワイエ
参加者数:合計約2,850名



展覧会図録

企画展

- 印刷物 展覧会図録『ウィーン展 華麗なる美術と音楽のしらべ』
 内容 図版168点
 リングシュトラッセ時代のウィーン
 ラインハルト・ボハンカ(ウィーン・ミュージアム学芸員)
 ウィーン近代の音楽-三月革命から第一次世界大戦にかけて(1848～1914)
 ノルベルト・ルバイ(ウィーン市・州立図書館音楽コレクション学芸員)
 ウィーン風カフェ
 アンドレアス・グーグラール(ウィーン家具保管美術館学芸員)
 世紀末の芸術
 ヨハネス・ラームホルター(美術史研究者)
 日本の近代デザインとウィーン
 河野克彦(当館主任学芸員)
 ウィーン工房の変容
 南目美輝(当館主任学芸員)
 A4変 122頁
 編集 河野克彦(島根県立石見美術館)
 柳澤澄(ササキ企画)
 翻訳・序言 ベーター・バンツァー(ボン大学教授)
 ブシナ史枝(クラウス・ドナ・コンサルタント)
 デザイン・制作 美術出版デザインセンター
 発行 島根県立石見美術館
 発行日 2006年3月3日
- 展覧会ポスターB2
 展覧会チラシA4、B4三つ折り
 巡回会場 無し



内藤廣展チラシ

その他の展覧会

内藤廣—the GENBA
 島根県芸術文化センターの開館を記念して開催。設計のために制作されたスタディ模型や図面、工事途中の映像や写真、工事に関わった人々の声なども集めて、「GENBA」の状況を伝える展示を行った。
 会期：平成17年10月8日-10月31日
 場所：多目的ギャラリー

関連イベント
■記念講演会
 実施日：10月21日
 場所：小ホール
 講師：内藤廣（当館設計者、東京大学大学院教授）
 参加者：200名

■建築ツアー
 内藤廣氏、および設計担当者による建築をめぐるツアーを実施。遠方より多数の参加者があった。
 実施日：10月21日
 参加者：40名

第38回島根県総合美術展（県展）移動展・中四国県展優秀作品展
 第38回島根県総合美術展（移動展）を開催し、優秀作品106点を展示。あわせて、中四国各県で開催されている公募による総合美術展（県展）の優秀作品33点を展示。
 会期：平成17年11月30日～12月4日
 場所：展示室D

雪舟益田没後500年記念 絵画・書道・写真・工芸展
 会期：平成17年12月9日～12月11日
 場所：展示室D

雪舟益田没後500年記念 益田市・寧波市児童生徒作品展
 会期：平成17年12月16日～12月18日
 場所：展示室D

その他の展覧会

教育普及活動

H15年度

【ワークショップ】

島根県内、とりわけ県西部の地域住民を対象に、美術に親しんでもらうことを目的にワークショップを行った。あわせて、H17年度に開館する石見美術館、島根県芸術文化センターについての告知も行った。計7回実施。

「掛軸に親しもう」

掛軸の歴史について紹介し、あわせて便利さや美しさといった表装の魅力も見直した。バラバラに解体した掛軸を手にとって確認。その後、実際に軸を巻いたり広げたりして、扱い方について説明を行った。

実施日：平成15年7月30日

場所：シルク染め織り館（日原町）

参加者：13名

「包んでみよう」

ふろしきの歴史やバリエーションなど、ふろしき豆知識を紹介した後、色々な包み方に挑戦。瓶、ボール、細長い箱など、様々な形のを美しく包む方法を実習。この日に学んだことをもとに、文化祭での発表が行われた。

実施日：平成15年8月21日

場所：津和野高等学校

参加者：高校生（家庭クラブの部員）

「サッカーユニホームと民族衣装」

総合学習で国際理解をテーマとした授業で行う。ユニホームと各国の国旗とのつながりを説明し、さらにそれぞれの国の民族衣装についてスライドで紹介。ワールドカップで使われたユニホームのレプリカを用意し、試着も行った。講師やボランティアは着物を着て参加。

実施日：平成15年9月25日

場所：益田市立吉田小学校

参加者：小学校5年生 3クラス

「掛軸・屏風に親しむ」

掛軸と屏風の両方をつかう。掛軸と屏風が日本でどのように使われてきたかをスライドで紹介し、それぞれの仕組みや、すぐれた点について説明。その後、実際に掛軸や屏風を前にして、楽しみ方や扱い方について実習した。

実施日：平成15年10月19日

場所：石川県民文化会館 和室

参加者：各20名程度

「お話を絵にしよう」

古今東西の美術品には、物語を題材にしたものが数多くある。今回は、聖書に取材した西洋の絵画作品について、パネルを使って説明した。キリストの一生を描いた一連の作品の順序をバラバラにし、どれがどの場面を描いたのかを当てるクイズも。

その後、開催地津和野にちなんで森鷗外の「山椒太夫」を題材に、鷗外が実際の伝承をどのようにアレンジしたのか、さらに子ども向けの絵本では物語がどのように改変され、どんな場面が描かれているのかを検証した。

実施日：平成15年11月9日

場所：ギャラリー与兵衛（津和野町）

参加者：10名

「掛軸・屏風に親しむ」

これまでと同様、掛軸と屏風の歴史をスライドで紹介し、特徴について紹介。今回はお寺の大広間という大空間を活かし、屏風を立てて回して部屋を作り、みんなで中に入って鑑賞するなどの実習を行った。

実施日：平成15年11月19日

場所：妙義寺（益田市）

参加者：21名

「高津小学校ワークショップ」

1組：「絵の中で遠足」というテーマで、様々な風景画を鑑賞し、グループごとにその中で仮定の遠足を行なう。最初に、スライドで色々な絵を紹介した後、グループで好きな絵を1つ選び、「お弁当を食べる場所」、「遊ぶ場所」、「写真を撮る場所」などを決め、遠足の計画を発表した。細部まで絵を詳しく見、想像力を働かせることを目的に行った。

2組：図工の時間に「友達の絵」を描いたこのクラスでは、人の顔に注目した。古今東西の人物画をスライドで映写し、色々な顔の表現を紹介。その後で、グループごとに1枚の人物画を観察し、その特徴や工夫している点について話し合った。普段目にする事のない古い絵画の表現に、子どもたちは興味津々。

3組：古今東西の、色々なデザイン画、図案をスライドで紹介。その後みんなで、自分たちの使いたいもののデザインを考えて、図案を描いた。

実施日：平成15年12月15日

場所：益田市立高津小学校

参加者：3年生3クラス



「サッカーユニフォームと民族衣装」



「掛軸・屏風に親しむ」(妙義寺)



高津小学校3年2組

教育普及活動



トークショー「祖父・劉生、母・麗子」

「掛軸に親しむ」

日頃、何げなく見ている掛軸の歴史を紹介。また、バラバラに解体した掛軸を手にとって見ながら、その構造を観察。その後、実際に軸を巻いたり広げたりして、生活の中でどのように扱えばよいのか、実習を行った。

実施日：平成16年2月24日
場所：柿木村基幹集落センター
参加者：12名

H16年度

【収蔵品展関連イベント】

■トークショー「祖父・劉生、母・麗子」

収蔵品展「ひとのかたち」にあわせ、同展で作品を展示した岸田劉生の孫で、新国立劇場オペラチーフプロデューサーの岸田郁朗氏をゲストにむかえ、美術館と劇場の複合施設ならではのトークショーを実施。

実施日：平成16年9月19日
ゲスト：岸田郁朗、ホスト：山崎篤典（石川県民文化会館館長）、ナビゲーター：川西由里
聴講者：120名

【開館イベント】

■いわみ美術回廊フェスティバル

実施日：平成16年11月13日

第1部 いわみ美術回廊、これまでの活動を紹介する

「いわみ美術回廊加盟館紹介」 浜田市立世界こども美術館 館長 寺尾堂

「アートの出前、やっています。グラントワの美術館」 芸術文化センター建設室 学芸員 川西由里

第2部 トークショー「日本美術応援団、雪舟と益田を応援する」

出演：日本美術応援団（山下裕二、赤瀬川原平）

聴講者：110名

ポスター B2

チラシ A4

【ワークショップ】

H15年度に引き続き公民館での講座、また学校での総合学習の時間等で開催。計14回実施。

石見美術館収蔵品展「アールデコ」展関連ワークショップ「アールデコと色彩」

実施日：平成16年5月9日

会場：石川県民文化会館

参加者：15名

あすてらすフェスタ参加「ファッションとジェンダー」

女性服の変遷と、女性の社会的役割の変化について考える機会となった。

実施日：平成16年6月13日（日）14時より

場所：あすてらす

参加者：5名

「雪舟と水墨画」

雪舟をはじめとする水墨画をスライドで鑑賞し、その後水墨画に挑戦した。

実施日：平成16年6月27日

参加者：益田市立安田小学校6年生

「顔・かお・カオ」

色々な国や時代の人物画を、顔に注目しながら鑑賞した。

実施日：平成16年6月27日

参加者：益田市立安田小学校2年生

「雪舟と水墨画」

第1回：平成16年6月28日、雪舟の人と作品をスライドで紹介

第2回：平成16年7月12日、掛軸について実物を見ながらその見方を学ぶ

第3回：平成16年10月15日、水墨画を描いてみる

参加者：益田市立東陽中学校 1～3年生（総合的な学習の時間）

「掛軸に親しもう」(3回連続講座)

第1回：平成16年5月26日、掛軸の歴史や鑑賞のポイントについてレクチャー

第2回：平成16年8月25日、「座敷飾り」の伝統についてスライドで紹介

第3回：平成16年10月20日、参加者が自宅で実践した「座敷飾り」を、写真で披露

場所：六日市公民館

参加者：6名



いわみ美術回廊フェスティバル チラシ



「雪舟と水墨画」(安田小学校)

教育普及活動



「身の回りのものをデザインしよう」

「身の回りのものをデザインしよう」

デザイン画を鑑賞した後、紙にハンカチなど身近な物のデザインを試みた。

実施日：平成16年7月1日、2日

参加者：吉田小学校4年生3クラス

「見る×食べる かぼちゃ大研究」

益田市内で生産された「ぼっちゃんかぼちゃ」を親子で観察した後、農家の方のレクチャー。その後、かぼちゃをモチーフとした作品についてスライドで紹介。最後にはレストランのシェフ特製、ぼっちゃんかぼちゃで作ったかぼちゃプリンを試食。

実施日：平成16年8月8日

場所：レストラン「ポニイ」

参加者：20名（親子10組）

「掛け軸に親しもう」

掛軸の歴史やしぐみについて話を聞いた後、実際に掛軸を掛けたり巻いたりすることに挑戦

実施日：平成16年9月17日

場所：益田市中央公民館

参加者：高齢者学級のみなさん

油彩画の楽しみ方

実施日：平成16年10月10日（日）

会場：浜田市世界こども美術館

油彩画の歴史とグラントワの油彩画の収蔵品について、クイズを交えながら紹介。

萬福寺 お宝探訪

実施日：平成16年10月21日（木）

場所：萬福寺（益田市）

特別講師：斎藤忠一（作庭家）

萬福の所蔵する仏画「二河白道図」と同寺の庭園についての講演会。地域の皆さんのご協力により、ライトアップやお茶席が実現。幻想的な雰囲気の中で地域の文化財を鑑賞した。

グラントワ・ワン・デイ・カフェ

実施日：平成16年11月14日（日）

会場：「趣庫」（益田市内）

益田駅前通りで開催された「アート縁日 益田の一番なが〜い日」に、ボランティア、レストラン「ポニイ」、ミュージアムショップ「コン・アモール」の協力を得て出店。男性学芸員3名がギャルソンをつとめ、美術館について地域の皆さんと語らった。

「包んでみよう」

風呂敷で色々なものを包んで、日本の伝統文化に親しむワークショップ

実施日：平成17年1月26日

参加者：益田市立吉田小学校（創作折り紙クラブ部員）

「掛け軸に親しもう」

掛軸の歴史やしぐみについて話を聞いた後、実際に掛軸を掛けたり巻いたりすることに挑戦

実施日：平成17年2月26日（土）

場所：西福寺（益田市）

参加者：25名

「芸術文化センター「グラントワ」オープンにむけて」

グラントワの美術館部分の建物をペーパークラフトで作って見て、施設への関心を高める機会とした。

実施日：平成17年2月24日（木）

場所：益田市中央公民館

参加者：高齢者学級のみなさん

「グラントワと商店街」

グラントワと益田の街、特に商店街とが、どのように協力しながら魅力あるまちづくりができるか、話し合った。

実施日：平成17年3月1日

場所：まちかどふれあいサロン

参加者：15名

「掛軸に親しもう」

掛軸の歴史やしぐみ、水墨画の楽しみ方について話を聞いた後、実際に掛軸を掛けたり巻いたりするのに挑戦

実施日：平成17年3月5日

場所：興順寺（益田市）

参加者：約30名



「見る×食べる かぼちゃ大研究」



グラントワ・ワン・デイ・カフェ

H17年度

【開館100日前イベント】

当館のコンセプトのひとつ「ファッション」は、一般的に美術館で取り上げられることが少ない。地域住民に理解しづらい「ファッション」について、専門家による講演を行い、石見美術館の収蔵品の紹介を行うことで、「ファッション」に対する理解を深め、あわせて美術館開館に対する期待を高めることを目指した。

日時：平成17年6月30日 19:00～20:30

場所：石川県民会館 小ホール

講師：能澤慧子（東京家政大学教授）

参加者：80名



「青空茶室 石見茶藝」



「青空茶室 石見茶藝」



「光と舞踊のお軸」



クリスマス子どもワークショップ

教育普及活動

【ワークショップ】

■開館記念ワークショップ「青空茶室 石見茶藝 a piece of landscape」

開館を記念し、美術家、小石原剛氏による茶会を実施した。

回廊に少しずつ形の異なる3000個の素焼きの紅茶碗、数百種の茶葉の入った2500本の試験管をつるし、参加者に自由にカップと茶葉を選んでもらう。そして、参加者は茶釜から自ら湯をカップに注ぎ、各自茶を楽しむという手順。開館したばかりの建物の中で、中庭を眺めお茶を飲みつつ、建物の中に丁寧にしつらえられた「作品」とともに建物も味わってもらうという内容。茶室の設えと茶会の実施については、ボランティアスタッフの全面的な協力を得た。

期間：平成17年11月12日～23日

場所：回廊、中庭

参加者：約3000人

「光と舞踊のお軸」

会期中に、茶会の会場にてダンスを実施した。

実施日：平成17年11月13日（日） マチネ、ソワレ

【ダンス】上村なおか

【照明】岩村原太

【音楽】古味寛康（コントラバス）、兵頭正文（チューバ）

【協力】Damda!

場所：回廊、中庭

参加者：約150名

【掲載記事】

読売新聞「アートで一服」 [企画内容紹介記事 11月18日]

チラシ 210×210mm 二つ折り

報告書 130×370mm 三つ折り

■クリスマス子どもワークショップ

「ファンタスティック・プラスチック・イルミネーション」

益田市の海岸に流れ着いたプラスチックの廃材をつかって、クリスマスツリーに飾るランプシェードをつくるワークショップ。できあがった作品は、館内の庭の木に飾り、灯りを灯した。このイルミネーションは、1月末まで毎晩点灯した。

実施日：平成17年12月3日

講師：柏良治（アーティスト）

参加者：20名

【講演会・美術講座】

コレクション展に関する内容、また劇場事業と関連した内容の講演会を実施した。

■坂東玉三郎舞踊公演開催記念講演会「趣向の美学 美術と芸能をむすぶもの」

実施日：平成17年11月19日

場所：講義室

講師：鈴木幸人（北海道大学大学院文学研究科助教授）

参加者：20名

■「水絵の福音使者 大下藤次郎」

実施日：平成18年1月12日

場所：小ホール

講師：高階秀爾（大原美術館長）

参加者：170名

■「美術で語る森鷗外」

実施日：平成17年10月27日

場所：講義室

講師：川西由里（当館学芸員）

参加者：25名

■「ファッションの20世紀」

実施日：平成17年12月10日

場所：講義室

講師：南目美輝（当館主任学芸員）

参加者：10名

■「明治のマルチアーティスト 大下藤次郎」

実施日：平成18年2月11日

講師：川西由里（当館学芸員）

参加者：20名



ギャラリートークボランティア
(平成16年度「アールデコ展」)



「青空茶室 石見茶藝」



「青空茶室 石見茶藝」

ボランティア

当館では開館以前から、市民がボランティアとして積極的に事業に参加してきた。現在のグラントワ・ボランティア会の組織は、劇場、イベント企画、美術館、発送、クリーンアップ、生け花、情報の7つの部門から成っている。そのうちの美術館ボランティアには、「ギャラリートークグループ」と「ワークショップグループ」の2つのグループがあり、それぞれ10数名のボランティアが参加している。

ギャラリートークボランティア

現在の活動につながるボランティアによる収蔵品展のギャラリートークは、平成13年度の準備室の時期から継続して行われてきた。

平成13年度 島根県新収蔵品展 5/29～6/7 益田市歴史民俗資料館 参加ボランティア8名
 平成14年度 島根県新収蔵品展 4/26～5/8 益田市歴史民俗資料館 参加ボランティア8名
 平成15年度 島根県収蔵品展 4/25～5/5 益田市歴史民俗資料館 参加ボランティア8名
 平成16年度 島根県芸術文化センター収蔵品展 アールデコ 4/28～5/9 参加ボランティア8名
 平成16年度 島根県芸術文化センター収蔵品展 ひとのかたち 9/18～9/23 参加ボランティア7名
 平成17年度も開館に先立ち、島根県浜田市での収蔵品展で、事前に養成講座を受講したボランティアによるギャラリートークが行われた。

【展覧会】

島根県立石見美術館収蔵品展「えがかれたファッション」

平成17年6月25日(土)～7月18日(月・祝) 浜田市世界子ども美術館

【ボランティア養成講座】

6月5日(日) 島根県立石見美術館

【ボランティアによるギャラリートーク】

6月25日(土)、7月2日(土)、9日(土)、10日(日)、16日(土)、17日(日)、18日(月) 計7日間

浜田市世界子ども美術館

参加ボランティア 3名

ワークショップボランティア

また平成15年度からは、出前ワークショップとして、近隣の施設等で講座・ワークショップを開催してきた。ここでもボランティアはアシスタントとして事業に関わっている。平成17年度は下記のワークショップ・講演会にボランティアが参加した。

【ワークショップ】

平成17年11月12日(土)～23日(水・祝)「青空茶室 石見茶藝」お茶会

平成17年11月13日(日)「青空茶室 石見茶藝」光と舞踊のお軸

平成17年12月3日(土)ファンタスティック プラスチック・イルミネーション

【講演会】

平成17年 6月30日(木) 「20世紀ファッションとアートの出会いー石見美術館コレクションをめぐってー」東京家政大学教授 能澤慧子

平成17年10月14日(金) 「華やぐ女性たちとファッション」京都服飾文化研究財団チーフ・キュレーター、静岡文化芸術大学大学院教授 深井晃子

平成17年10月21日(金) 内藤廣展記念講演会 建築家 内藤廣

平成18年 1月12日(木) 「大下藤次郎 水絵の福音使者」大原美術館館長 高階秀爾

連携事業

1. いわみ美術回廊

平成14年度より実施

参加館：津和野町立安野光雅美術館、三隅町立石正美術館、浜田市世界こども美術館、葛飾北斎美術館、杜塾美術館、益田市立雪舟の郷記念館、今井美術館（以上7館）

活動内容：①情報コーナーの各館設置②ポスター製作③チラシ製作④加盟館各館の諸催し物の情報をPR誌等へ掲載⑤サービスカードの発行と加盟館全館観覧終了者に記念品（7館グッズ詰め合わせ）贈呈⑥情報交換会の開催

平成17年10月 島根県立石見美術館が加盟し、8館体制となる。

2. 萩・益田・津和野美術回廊

平成17年度より実施

参加館：山口県立萩美術館・浦上記念館、萩博物館、益田市立雪舟の郷記念館、津和野町立安野光雅美術館、森鷗外記念館、島根県立石見美術館（以上6館）

活動内容：半券等の提示による相互割引制度

3. 「雪舟さん」および「雪舟小僧さん」

年間パスポート「雪舟さん」 2,000円

○加入施設（4施設）

医光寺雪舟庭園、萬福寺雪舟庭園、益田市立雪舟の郷記念館、益田市立歴史民俗資料館

○発行の日から1年間、上記4施設に何回でも入館・入園可能

購入者に同行する4名までは、団体料金扱いで入館・入園可能

○下記施設には割引料金で入館

・島根県立石見美術館（コレクション展・企画展）、浜田市立石正美術館

・浜田市世界こども美術館（館主催の展示のみ）

益田散策チケット「雪舟小僧さん」 1,000円

○加入施設（5施設）

島根県立石見美術館（コレクション展のみ）、医光寺雪舟庭園、萬福寺雪舟庭園、益田市立雪舟の郷記念館、益田市立歴史民俗資料館

○発売（使用開始）の日から3日間、お一人様1施設1回に限り有効。

4. 割引制度

下記に掲げる乗車券等、観覧券を提示した場合、割引制度が利用可能。

①石見交通株式会社、中国JRバスが運行する東京からの高速バス往復乗車券

②石見交通株式会社、阪神電気鉄道が運行する大阪からの高速バス往復乗車券

③石見交通株式会社、広島電鉄が運行する広島からの高速バス往復乗車券

④大田市以東島根県東部の各JR駅からJR益田駅までの往復乗車券

⑤萩・石見空港発着の航空券

⑥島根県立石見美術館を除くいわみ美術回廊加盟館の観覧券（半券）

⑦山口県立美術館、山口県立萩美術館・浦上記念館の観覧券（半券）

⑧島根県立美術館の観覧券（半券）

⑨島根県立いわみ芸術劇場で開催される催し物（当日のみ有効）の有料入場券（半券）

⑩島根県立美術館が発行する年間パスポート（期限内）

所蔵作品一覧

水彩画

作家名	作品名	制作年(和暦)	制作年(西暦)	技法、材質	サイズ(cm)
五百城 文哉	富士図	明治26~39頃	1893~1906頃	水彩、紙	62.0×94.0
大下 藤次郎	下駄屋の店先	明治25	1892	水彩、紙	18.8×23.8
大下 藤次郎	貸家の裏口	明治25	1892	水彩、紙	27.0×15.4
大下 藤次郎	風景習作1	明治25	1892	水彩、紙	14.5×20.0
大下 藤次郎	人物習作1	明治25	1892	水彩、紙	21.8×14.0
大下 藤次郎	呉服屋	明治25	1892	水彩、紙	18.4×25.8
大下 藤次郎	風景習作2	明治25	1892	水彩、紙	23.4×32.4
大下 藤次郎	門と人物1	明治25	1892	水彩、紙	28.2×21.6
大下 藤次郎	西総田舎の景	明治26	1893	水彩、紙	29.6×38.0
大下 藤次郎	風景習作3	明治26	1893	水彩、紙	22.0×14.3
大下 藤次郎	風景習作4	明治26	1893	水彩、紙	16.6×24.4
大下 藤次郎	風景習作5	明治26	1893	水彩、紙	14.0×21.0
大下 藤次郎	門と人物2	明治26	1893	水彩、紙	22.6×14.9
大下 藤次郎	門と人物3・小石川	明治26	1893	水彩、紙	22.6×15.1
大下 藤次郎	橋のある風景	明治26	1893	水彩、紙	13.7×20.9
大下 藤次郎	つり	明治28	1895	水彩、紙	15.5×24.2
大下 藤次郎	京都近郊	明治28	1895	水彩、紙	11.3×17.8
大下 藤次郎	川口	明治28	1895	水彩、紙	12.3×17.4
大下 藤次郎	風景習作6・28年10月13日	明治28	1895	水彩、紙	23.8×15.2
大下 藤次郎	風景習作7・28年10月17日	明治28	1895	水彩、紙	15.2×22.2
大下 藤次郎	風景習作8・28年10月20日	明治28	1895	水彩、紙	13.8×23.6
大下 藤次郎	穴森神社	明治28	1895	水彩、紙	14.2×18.7
大下 藤次郎	武州七国峠	明治28	1895	水彩、紙	13.9×24.1
大下 藤次郎	相州塩川瀑	明治28	1895	水彩、紙	24.4×15.5
大下 藤次郎	八王子河原	明治28	1895	水彩、紙	13.3×18.6
大下 藤次郎	荒川	明治28	1895	水彩、紙	13.2×23.7
大下 藤次郎	富山	明治28	1895	水彩、紙	14.9×24.2
大下 藤次郎	塔のある風景(三重の塔)	明治29	1896	水彩、紙	32.5×21.4
大下 藤次郎	日暮里	明治29	1896	水彩、紙	18.3×29.8
大下 藤次郎	修善寺	明治29	1896	水彩、紙	20.4×32.8
大下 藤次郎	多摩川上流	明治29	1896	水彩、紙	21.0×32.4
大下 藤次郎	小石川	明治29	1896	水彩、紙	21.7×30.0
大下 藤次郎	館山	明治29	1896	水彩、紙	21.2×32.6
大下 藤次郎	小丹波	明治29	1896	水彩、紙	31.5×21.1
大下 藤次郎	五重塔	明治29	1896	水彩、紙	31.7×20.8
大下 藤次郎	天真院	明治29	1896	水彩、紙	25.4×17.8
大下 藤次郎	三門	明治29	1896	水彩、紙	19.2×27.1
大下 藤次郎	賀茂	明治29	1896	水彩、紙	32.3×20.3
大下 藤次郎	桜	明治29	1896	水彩、紙	21.7×13.9
大下 藤次郎	境内	明治29	1896	水彩、紙	15.3×21.6
大下 藤次郎	修善寺	明治29	1896	水彩、紙	20.8×32.2
大下 藤次郎	白丸	明治29~30頃	1896~1897頃	水彩、紙	20.6×32.2
大下 藤次郎	裸婦	明治30	1897	水彩、紙	44.0×34.6
大下 藤次郎	裸婦	明治30	1897	水彩、紙	43.9×29.3
大下 藤次郎	裸婦	明治30	1897	水彩、紙	29.4×22.4
大下 藤次郎	富士を望む	明治30	1897	水彩、紙	19.2×32.4
大下 藤次郎	日光	明治30	1897	水彩、紙	25.6×39.2
大下 藤次郎	巢鴨の牛小屋	明治30	1897	水彩、紙	20.6×32.6
大下 藤次郎	越ヶ谷	明治30	1897	水彩、紙	19.8×32.0
大下 藤次郎	綾瀬	明治30	1897	水彩、紙	18.2×31.4
大下 藤次郎	興津	明治30	1897	水彩、紙	15.7×32.6
大下 藤次郎	相模(AKIYA SAGAMI)	明治30	1897	水彩、紙	21.4×33.0
大下 藤次郎	ニューヘヴン	明治30	1897	水彩、紙	30.6×20.4
大下 藤次郎	興津	明治30	1897	水彩、紙	15.4×32.5
大下 藤次郎	巢鴨	明治30	1897	水彩、紙	18.2×30.0
大下 藤次郎	風景習作9	明治30	1897	水彩、紙	20.4×31.0
大下 藤次郎	粟田	明治30	1897	水彩、紙	15.7×31.4
大下 藤次郎	武蔵	明治30	1897	水彩、紙	31.2×21.7
大下 藤次郎	浜辺の船	明治31	1898	水彩、紙	19.2×33.0

所蔵作品一覧

水彩画

作家名	作品名	制作年(和暦)	制作年(西暦)	技法、材質	サイズ(cm)
大下 藤次郎	坂本	明治31	1898	水彩、紙	24.9×38.1
大下 藤次郎	宮の下	明治31	1898	水彩、紙	25.4×39.4
大下 藤次郎	シドニー南端	明治31	1898	水彩、紙	22.2×34.5
大下 藤次郎	シドニー、ニュー・サウス・ウェールズ	明治31	1898	水彩、紙	23.3×34.4
大下 藤次郎	シドニー	明治31	1898	水彩、紙	22.6×33.2
大下 藤次郎	メルボルン港	明治31	1898	水彩、紙	23.0×33.5
大下 藤次郎	モートン岬、クイーンズランド	明治31	1898	水彩、紙	23.2×34.5
大下 藤次郎	サンドゲート、クイーンズランド	明治31	1898	水彩、紙	23.0×34.8
大下 藤次郎	ロイヤルパーク、メルボルン	明治31	1898	水彩、紙	20.7×31.4
大下 藤次郎	ブリスバーン河	明治31	1898	水彩、紙	23.0×34.8
大下 藤次郎	ブリスバーン河	明治31	1898	水彩、紙	22.5×34.5
大下 藤次郎	金剛甲板にて	明治31	1898	水彩、紙	40.2×26.9
大下 藤次郎	シドニー湾	明治31	1898	水彩、紙	22.4×34.4
大下 藤次郎	赤道直下にて	明治31	1898	水彩、紙	21.9×34.4
大下 藤次郎	アトリエの画家	明治31	1898	水彩、紙	33.4×22.3
大下 藤次郎	信州の夏	明治32	1899	水彩、紙	50.0×71.5
大下 藤次郎	つつじ	明治32	1899	水彩、紙	32.5×47.4
大下 藤次郎	峠の木	明治32	1899	水彩、紙	30.8×20.6
大下 藤次郎	雲の観察・明治32年9月13日・正午・南	明治32	1899	水彩、紙	15.8×26.0
大下 藤次郎	雲の観察・9月下旬・西方午後5時	明治32	1899	水彩、紙	17.3×25.7
大下 藤次郎	雲の観察(明治33年11月21日朝 東)	明治33	1900	水彩、紙	18.0×27.4
大下 藤次郎	雲の観察(明治33年12月5日 西南方)	明治33	1900	水彩、紙	18.2×27.2
大下 藤次郎	城跡	明治36	1903	水彩、紙	27.7×38.8
大下 藤次郎	仁王門(山門)	明治36~44頃	1903~1911頃	水彩、紙	22.1×33.6
大下 藤次郎	ポピー	明治36~44頃	1903~1911頃	水彩、紙	31.2×45.8
大下 藤次郎	野の花	明治36~44頃	1903~1911頃	水彩、紙	22.0×33.3
大下 藤次郎	せせらぎ	明治36~44頃	1903~1911頃	水彩、紙	25.8×36.5
大下 藤次郎	暮景	明治36~44頃	1903~1911頃	水彩、紙	18.0×34.3
大下 藤次郎	河原	明治36~44頃	1903~1911頃	水彩、紙	22.2×32.8
大下 藤次郎	桜	明治36~44頃	1903~1911頃	水彩、紙	19.0×29.5
大下 藤次郎	夕日	明治36~44頃	1903~1911頃	水彩、紙	13.1×19.3
大下 藤次郎	湖上の雲	明治36~44頃	1903~1911頃	水彩、紙	22.8×34.2
大下 藤次郎	入江	明治36~44頃	1903~1911頃	水彩、紙	23.0×34.0
大下 藤次郎	山の眺め	明治36~44頃	1903~1911頃	水彩、紙	33.6×23.1
大下 藤次郎	浜辺の松	明治36~44頃	1903~1911頃	水彩、紙	36.4×25.2
大下 藤次郎	青梅	明治37	1904	水彩、紙	33.4×22.4
大下 藤次郎	青梅	明治37	1904	水彩、紙	33.9×22.2
大下 藤次郎	河原	明治37	1904	水彩、紙	52.0×74.5
大下 藤次郎	寄居	明治37	1904	水彩、紙	22.4×34.1
大下 藤次郎	秋の雲	明治37	1904	水彩、紙	32.9×49.7
大下 藤次郎	林間	明治37	1904	水彩、紙	22.3×33.8
大下 藤次郎	木立	明治37	1904	水彩、紙	34.0×22.4
大下 藤次郎	村の寺	明治37	1904	水彩、紙	29.8×19.9
大下 藤次郎	天ヶ瀬	明治37	1904	水彩、紙	17.6×26.5
大下 藤次郎	早春	明治37	1904	水彩、紙	22.9×33.7
大下 藤次郎	風景	明治37	1904	水彩、紙	22.0×34.0
大下 藤次郎	秋谷の漁村	明治38	1905	水彩、紙	48.8×69.7
大下 藤次郎	浪	明治38	1905	水彩、紙	22.3×33.2
大下 藤次郎	磐梯山噴火口	明治39	1906	水彩、紙	22.9×34.1
大下 藤次郎	風景	明治39	1906	水彩、紙	10.3×20.8
大下 藤次郎	船のある風景	明治39	1906	水彩、紙	10.4×20.8
大下 藤次郎	水辺風景5	明治39	1906	水彩、紙	22.8×33.9
大下 藤次郎	多摩川	明治39頃	1906頃	水彩、紙	22.6×32.7
大下 藤次郎	磐梯山噴火口	明治40	1907	水彩、紙	34.2×51.9
大下 藤次郎	多摩川畔	明治40	1907	水彩、紙	48.8×69.7
大下 藤次郎	波	明治40	1907	水彩、紙	26.1×46.4
大下 藤次郎	甲州駒ヶ岳	明治40	1907	水彩、紙	22.1×33.0
大下 藤次郎	猪苗代	明治40	1907	水彩、紙	66.7×48.2

所蔵作品一覧

水彩画

作家名	作品名	制作年(和暦)	制作年(西暦)	技法、材質	サイズ(cm)
大下 藤次郎	穂高山の残雪	明治40	1907	水彩、紙	22.2×33.2
大下 藤次郎	檜原湖の秋	明治40	1907	水彩、紙	61.2×97.2
大下 藤次郎	猪苗代	明治40頃	1907頃	水彩、紙	23.5×33.9
大下 藤次郎	飯坂	明治40頃	1907頃	水彩、紙	30.8×45.6
大下 藤次郎	湖水を望む	明治40頃	1907頃	水彩、紙	22.9×34.8
大下 藤次郎	徳本小屋のほとり	明治40頃	1907頃	水彩、紙	21.9×33.2
大下 藤次郎	興津	明治40頃	1907頃	水彩、紙	22.5×33.2
大下 藤次郎	浮き雲	明治40年代	1907～1911頃	水彩、紙	31.3×45.6
大下 藤次郎	生け花	明治40年代	1907～1911頃	水彩、紙	33.7×22.8
大下 藤次郎	秋海棠	明治40年代	1907～1911頃	水彩、紙	34.8×22.4
大下 藤次郎	森	明治40年代	1907～1911頃	水彩、紙	25.7×36.5
大下 藤次郎	山あいの道	明治40年代	1907～1911頃	水彩、紙	25.6×36.5
大下 藤次郎	高原	明治40年代	1907～1911頃	水彩、紙	27.6×39.8
大下 藤次郎	秋の夕	明治40年代	1907～1911頃	水彩、紙	30.8×45.6
大下 藤次郎	山上の眺め	明治41	1908	水彩、紙	22.3×32.6
大下 藤次郎	残雪	明治41	1908	水彩、紙	22.3×33.2
大下 藤次郎	水芭蕉	明治41	1908	水彩、紙	33.2×22.5
大下 藤次郎	松	明治41	1908	水彩、紙	31.2×46.2
大下 藤次郎	波の音	明治41	1908	水彩、紙	22.0×33.1
大下 藤次郎	富士を望む	明治42	1909	水彩、紙	30.5×45.4
大下 藤次郎	静物 林檎	明治42	1909	水彩、紙	33.6×50.3
大下 藤次郎	庭の一隅(コスモス)	明治42	1909	水彩、紙	26.4×37.0
大下 藤次郎	西山峠	明治42	1909	水彩、紙	32.9×22.2
大下 藤次郎	浜辺の家	明治43	1910	水彩、紙	25.7×36.6
大下 藤次郎	小豆島	明治43	1910	水彩、紙	25.4×36.5
大下 藤次郎	初夏	明治43頃	1910頃	水彩、紙	25.9×36.6
大下 藤次郎	宍道湖の黄昏	明治44	1911	水彩、紙	25.6×36.8
大下 藤次郎	美寿賀城跡	明治44	1911	水彩、紙	25.8×36.5
大下 藤次郎	秩父琴平山	不詳	不詳	水彩、紙	17.5×11.4
大下 藤次郎	宿場	不詳	不詳	水彩、紙	21.9×33.1
大下 藤次郎	船のある風景	不詳	不詳	水彩、紙	22.6×33.0
大下 藤次郎	波	不詳	不詳	水彩、紙	22.2×32.9
大下 藤次郎	富士山	不詳	不詳	水彩、紙	27.9×35.5
大下 藤次郎	帆船	不詳	不詳	水彩、紙	34.3×22.9
大下 藤次郎	入江	不詳	不詳	水彩、紙	11.0×17.9
大下 藤次郎	風景	不詳	不詳	水彩、紙	13.4×18.5
大下 藤次郎	舟のある風景	不詳	不詳	水彩、紙	13.8×20.2
大下 藤次郎	池	不詳	不詳	水彩、紙	15.0×23.2
大下 藤次郎	川	不詳	不詳	水彩、紙	22.8×34.4
大下 藤次郎	紫陽花	不詳	不詳	水彩、紙	32.2×22.2
大下 藤次郎	海	不詳	不詳	水彩、紙	23.0×33.7
大下 藤次郎	樹林	不詳	不詳	水彩、紙	20.7×31.1
大下 藤次郎	風景	不詳	不詳	水彩、紙	14.2×20.4
大下 藤次郎	木立	不詳	不詳	水彩、紙	22.0×33.0
大下 藤次郎	朝	不詳	不詳	水彩、紙	23.0×33.9
大下 藤次郎	緑陰	不詳	不詳	水彩、紙	25.4×36.9
大下 藤次郎	波	不詳	不詳	水彩、紙	16.2×24.4
大下 藤次郎	風景	不詳	不詳	水彩、紙	15.3×38.4
大下 藤次郎	風景習作10	不詳	不詳	水彩、紙	15.4×23.4
大下 藤次郎	風景習作11	不詳	不詳	水彩、紙	14.8×22.1
大下 藤次郎	菊花	不詳	不詳	水彩、紙	34.0×23.0
大下 藤次郎	水辺風景1	不詳	不詳	水彩、紙	22.4×32.8
大下 藤次郎	水辺風景2	不詳	不詳	水彩、紙	22.0×33.2
大下 藤次郎	水辺風景3	不詳	不詳	水彩、紙	22.3×33.0
大下 藤次郎	雪の山1	不詳	不詳	水彩、紙	25.4×36.6
大下 藤次郎	水辺風景4	不詳	不詳	水彩、紙	21.9×32.2
大下 藤次郎	庭園	不詳	不詳	水彩、紙	22.1×33.0
大下 藤次郎	水辺風景6	不詳	不詳	水彩、紙	33.2×22.1
大下 藤次郎	坂道の家並み	不詳	不詳	水彩、紙	37.0×25.4

所蔵作品一覧

水彩画

作家名	作品名	制作年(和暦)	制作年(西暦)	技法、材質	サイズ(cm)
大下 藤次郎	釣鐘	不詳	不詳	水彩、紙	26.2×17.7
大下 藤次郎	崖	不詳	不詳	水彩、紙	33.0×22.3
大下 藤次郎	水辺の小屋	不詳	不詳	水彩、紙	33.7×23.4
大下 藤次郎	雪の山2	不詳	不詳	水彩、紙	22.2×33.0
大下 藤次郎	水辺の山	不詳	不詳	水彩、紙	30.7×46.2
大下 藤次郎	雪の山3	不詳	不詳	水彩、紙	25.8×36.5
大下 藤次郎	水辺の木立	不詳	不詳	水彩、紙	30.6×46.4
大下 藤次郎	雪の山4	不詳	不詳	水彩、紙	31.4×46.2
大下 藤次郎	富士山	不詳	不詳	水彩、紙	25.4×36.6
大下 藤次郎	樹木	不詳	不詳	水彩、紙	32.7×22.6
大下 藤次郎	樹木習作	不詳	不詳	水彩、紙	33.5×22.1
大下 藤次郎	船着き場	不詳	不詳	水彩、紙	23.6×15.8
大下 藤次郎	寺の境内	不詳	不詳	水彩、紙	14.0×17.6
大下 藤次郎	秋の川辺	不詳	不詳	水彩、紙	15.2×23.4
大下 藤次郎	海洋	不詳	不詳	水彩、紙	29.8×50.4
大下 藤次郎	溪流	不詳	不詳	水彩、紙	22.4×32.9
大下 藤次郎	金色夜叉絵葉書下絵 5点	不詳	不詳	水彩、紙	22.3×33.2
大橋 正堯	農家	明治29	1896	水彩、紙	9.1×14.4
草間 彌生	(18C)	昭和33	1958	グアッシュ・パステル、紙	67.5×53.7
草間 彌生	(18D)	昭和31	1956	グアッシュ・パステル、紙	58.4×43.3
草間 彌生	(18J)	昭和29	1954	グアッシュ・パステル、紙	61.0×45.7
草間 彌生	(18L)	昭和32	1957	グアッシュ・パステル、紙	67.5×53.6
草間 彌生	(18M)	昭和32	1957	グアッシュ・パステル、紙	67.8×53.8
草間 彌生	(18Q)	昭和31	1956	グアッシュ・パステル、紙	61.0×45.7
草間 彌生	FLOWER Q.S.A	昭和29	1954	グアッシュ・パステル、紙	32.5×33.4
草間 彌生	HORIZONTAL-B	昭和28	1953	グアッシュ・パステル、紙	28.0×28.0
草間 彌生	No.235.Q.2	昭和28	1953	グアッシュ・パステル、紙	32.5×30.7
草間 彌生	The Heat	昭和27	1952	グアッシュ・パステル、紙	29.8×24.8
草間 彌生	帽子	昭和50	1975	フォトコラージュ・水彩・パステル、紙	39.5×54.5
後藤 工志	風景	大正～昭和初期	1912～29頃	水彩、紙	15.7×21.7
三宅 克己	農村風景	明治29	1896	水彩、紙	28.5×48.5
三宅 克己	伊豆風景	昭和初期	1926～1945	水彩、紙	49.0×65.8
マリア・リカルツ	無題(青いドレスに青い帽子、赤い星印の上に立つ女性)		1916	水彩、紙	26.4×25.6
マリア・リカルツ	無題(扇を持つピンクのドレスを着た女性)		1916	水彩、紙	26.4×25.6

素描

作家名	作品名	制作年(和暦)	制作年(西暦)	技法、材質	サイズ(cm)
大下 藤次郎	馬	明治25	1892	鉛筆、紙	17.6×14.0
大下 藤次郎	高田千歳町	明治25	1892	鉛筆、紙	28.5×38.3
大下 藤次郎	十二社裏	明治26	1893	鉛筆、紙	24.8×18.7
大下 藤次郎	越前堀	明治26	1893	鉛筆、紙	19.4×25.4
大下 藤次郎	四ッ谷 谷町	明治26	1893	鉛筆、紙	29.2×37.8
大下 藤次郎	小石川白山御殿側	明治26	1893	鉛筆、紙	29.4×38.1
大下 藤次郎	護国寺内	明治26	1893	鉛筆・水彩、紙	25.0×18.9
大下 藤次郎	椿	明治27	1894	鉛筆、紙	19.5×16.9
大下 藤次郎	京都途上所見	明治28	1895	鉛筆、紙	11.2×17.6
大下 藤次郎	国内風景スケッチ 98年10月20日	明治28	1895	鉛筆・水彩、紙	11.3×17.6
大下 藤次郎	室内スケッチ	明治29	1896	鉛筆・水彩、紙	11.2×16.6
大下 藤次郎	民家の庭先	明治30	1897	鉛筆・水彩、紙	11.3×17.6
大下 藤次郎	軍艦金剛にて①(3枚組)	明治31	1898	鉛筆・水彩、紙	9.3×16.6, 9.6×16.8, 9.6×17.0
大下 藤次郎	軍艦金剛にて②(3枚組)	明治31	1898	鉛筆・水彩、紙	9.2×17.3, 9.3×15.2, 9.4×17.1
大下 藤次郎	軍艦金剛にて③(3枚組)	明治31	1898	鉛筆・水彩、紙	9.4×16.8, 9.4×17.2, 9.5×16.8
大下 藤次郎	金剛スケッチ(甲板)	明治31	1898	鉛筆・水彩、紙	9.5×16.6
大下 藤次郎	金剛スケッチ(雨浴)	明治31	1898	鉛筆・水彩、紙	9.5×16.9

所蔵作品一覧

所蔵作品一覧

素描

作家名	作品名	制作年(和暦)	制作年(西暦)	技法、材質	サイズ(cm)
大下 藤次郎	金剛スケッチ(芝居のお稽古安達ヶ原)	明治31	1898	鉛筆・水彩、紙	9.5×17.0
大下 藤次郎	金剛スケッチ(芝居のお稽古太閤記)	明治31	1898	鉛筆・水彩、紙	9.5×16.8
大下 藤次郎	金剛スケッチ(掃除)	明治31	1898	鉛筆・水彩、紙	9.5×14.8
大下 藤次郎	金剛スケッチ(お茶番)	明治31	1898	鉛筆・水彩、紙	9.5×16.8
大下 藤次郎	人物スケッチ(シドニー)	明治31	1898	鉛筆・水彩、紙	
大下 藤次郎	碓永川	明治31	1898	鉛筆・水彩、紙	11.2×17.8
大下 藤次郎	フィジー人物スケッチ	明治31	1898	鉛筆、紙	
大下 藤次郎	渋谷	不詳	不詳	鉛筆、紙	19.7×23.8
大下 藤次郎	南品川	不詳	不詳	鉛筆、紙	29.3×38.0
大下 藤次郎	麻布二之橋	不詳	不詳	鉛筆、紙	28.7×38.4
大下 藤次郎	牛込	不詳	不詳	鉛筆、紙	29.0×38.1
大下 藤次郎	富士山スケッチ	不詳	不詳	鉛筆、紙	24.0×35.8
大下 藤次郎	二十八番観音	不詳	不詳	鉛筆・水彩、紙	17.8×11.2
大下 藤次郎	風景スケッチ 鳥居	不詳	不詳	鉛筆・水彩、紙	19.8×15.6
大下 藤次郎	室内	不詳	不詳	鉛筆・水彩、紙	8.6×13.7
大下 藤次郎	kitami	不詳	不詳	鉛筆、紙	14.0×8.6
大下 藤次郎	鎌倉	不詳	不詳	鉛筆、紙	
大下 藤次郎	二日市	不詳	不詳	鉛筆、紙	
大下 藤次郎	人物スケッチ 26点	明治25~30頃	1892~97頃	鉛筆・水彩、紙	
岸田 劉生	内藤夫人の像	大正8	1919	木炭・パステル、紙	37.8×30.5
宮 芳平	樹木	昭和29	1896	コンテ、紙	18.5×28.4
宮 芳平	村里	昭和8	1933	コンテ、紙	18.5×28.2
宮 芳平	はぜのある風景	昭和3	1928	鉛筆、紙	25.2×19.0
宮 芳平	冬の木	昭和7	1932	鉛筆、紙	25.2×18.4

彫刻

作家名	作品名	制作年(和暦)	制作年(西暦)	技法、材質	サイズ(cm)
草間 彌生	ドレス	昭和51	1976	ドレス、詰め物をした縫製布、ハンガー、彩色	102.0×52.0×20.0
草間 彌生	「銀色の希死」より シルバーシューズ	昭和51	1976	靴、詰め物をした縫製布、彩色	23.0×8.6×19.0
草間 彌生	ジェネシス・創世記	平成5~6	1993~94	詰め物をした縫製布、木、彩色	299.7×480.1×30.0
草間 彌生	南瓜(かぼちゃ)	平成10	1998	F. R. P(強化プラスチック)、塩ビ系塗装	200.0×250.0×250.0
米原 雲海	仙丹	明治43年	1910	木彫	高34.0

日本画

作家名	作品名	制作年(和暦)	制作年(西暦)	技法、材質	形状	サイズ(cm)
不詳	舞踊図屏風	江戸初期	17世紀	紙本金地着色	二曲一隻	149.6×170.0
不詳	人麿図屏風	江戸時代	17~18世紀頃	紙本金地着色	六曲一隻	145.0×355.3
不詳	遊女柳橋扇面流図屏風	江戸前期	17世紀	紙本着色	六曲一隻	108.6×343.0
池田 蕉園	小松引	大正前期		絹本着色	軸	139.4×51.2
池田 輝方	絵師多賀朝潮流さる	大正8	1919	絹本着色	六曲一双	右193.7×394.4 左193.9×396.0
今尾 景年	花鳥図屏風	明治~大正		絹本着色	六曲一双	各156.0×349.5
今尾 景年	柳塘群馬・桃林牧牛図	明治33	1900	絹本着色	六曲一双	各154.9×355.4
伊藤 小坡	舟中納涼之図	昭和前期		絹本着色	軸	143.8×50.8
雲谷派	耕作図屏風	桃山~江戸初期		紙本墨画	六曲一隻	152.2×346.2
雲谷 等益	四季山水図屏風	元和年間	1615~1624	紙本墨画淡彩	八曲一双	各85.1×354.0
雲谷 等益	山水図屏風	寛永中期	1630年代	紙本墨画淡彩	六曲一双	各156.5×359.4
雲谷 等顔	山水人物花鳥図押絵貼屏風	江戸初期	1600~1618頃	紙本墨画淡彩	六曲一双、押絵貼	各紙121.8×53.3
雲谷 等的	山水図	江戸前期		紙本墨画	軸	30.9×57.9
雲谷 等的	観音山水図	江戸前期		絹本墨画淡彩	軸、三幅対	各103.3×34.5
榎本 千花俊	揚揚戯	昭和8	1933	絹本着色	額	221.2×173.6
榎本 千花俊	池畔春興	昭和7	1932	絹本着色	額	261.0×207.3
榎本 千花俊	口紅を描く	昭和10	1935	絹本着色	軸	139.0×57.0
榎本 千花俊	春雪	昭和前期		絹本着色	軸	131.0×42.0
岡野 洞山	竹林七賢、商山四皓	嘉永元年	1848	紙本墨画淡彩	六曲一双	各159.4×363.0

所蔵作品一覧

日本画

作家名	作品名	制作年(和暦)	制作年(西暦)	技法、材質	形状	サイズ(cm)
海北 友松	祖師図(達磨・巖頭)	桃山時代		紙本墨画	軸、双幅	各106.5×50.6
柿内 青葉	池	昭和8	1933	絹本着色	軸	128.0×42.0
狩野 伊川院 栄信	富士三保清見寺図	江戸後期	19世紀初	絹本墨画	軸	34.2×64.7
狩野 松栄	益田元祥像	天正10~20頃	1582~1592頃	絹本着色	軸	108.4×51.7
鐙木 清方	花見幕	昭和初期		絹本着色	軸	141.2×50.6
川村 曼舟	牧牛図屏風	大正時代		絹本着色	六曲一隻屏風	152.0×356.0
菊池 華秋	雪晴	昭和13	1938	絹本着色	額	189.8×202.2
菊池 隆志	室内	昭和9	1934	紙本着色	額	146.4×164.4
菊池 隆志	初夏遊園	昭和3	1928	絹本着色	額	206.0×112.8
北野 以悦	春	昭和6	1931	絹本着色	額	191.0×142.0
北野 恒富	むすめ	大正14年	1925	紙本着色	額	190.5×89.0
北野 恒富	狂女	大正~昭和初期		絹本着色	軸	130.0×50.0
啓孫	騎驢人物図	室町後期		紙本墨画	軸	91.0×31.0
近衛 信尹	渡唐天神図	桃山時代		紙本墨画	軸	95.0×39.2
小早川 清	旗亭涼宵	昭和8	1933	絹本着色	額	197.0×113.0
小早川 清	宵	昭和11	1936	絹本着色	額	216.8×111.7
小堀 鞆音	舞楽図屏風	明治末~昭和初期		紙本金地着色	六曲一双	各162.3×358.2
斎藤 等室	山水図	江戸時代前期		紙本墨画	軸	31.0×50.6
島崎 柳塙	汐風	明治後期		絹本着色	軸	109.0×48.6
周憲	達磨図	室町後期		紙本墨画	軸	51.7×28.0
曾我 蕭白	楼閣山水図	江戸中期		紙本墨画	軸	134.8×52.2
曾我 宗文	面壁達磨図	室町後期		紙本墨画	軸	51.0×33.0
曾我 二直菴	鷲鷹図	江戸前期		紙本墨画	軸、双幅	各118.0×51.8
曾田 友栢	達磨図	桃山~江戸初期		紙本墨画	軸	27.1×23.6
尊俊	竜虎図	室町時代後期		紙本墨画	軸、双幅	各86.9×43.0
竹内 栖鳳	藤花薺花群犬図	明治22	1889	紙本着色	六曲一双	各155.0×360.0
田中 頼章	白雲紅樹	昭和9	1934	絹本着色	額	226.0×174.5
谷 文晁	滝図	文政11	1828	絹本着色	軸、双幅	各96.7×35.4
寺崎 広業	竹裡館観月	明治後期~大正初期		絹本着色	軸	139.6×70.8
等碩	牧童図	室町後期		紙本墨画淡彩	軸	26.3×33.7
富岡 鉄斎	江山招隠図	明治40	1907	絹本着色	軸	111.0×42.6
中林 竹溪	秋草群雀図	江戸後期	19世紀後半	絹本着色	軸	112.8×52.6
中林 竹洞	湖山清遠図	天保5~8頃	1834~1837	絹本墨画	軸	144.2×53.5
中林 竹洞	秋卉鴛鴦図	天保2	1831	絹本着色	軸	128.7×42.4
西 晴雲	湖南漁舟・緑陰仙居図	昭和3	1928	紙本着色	六曲一双	各154.4×381.0
西 晴雲	四季花木図	大正末期	1920~1925頃	紙本着色	軸、四幅対	各167.8×47.3
橋本 明治	莊園	昭和9	1934	絹本着色	額	233.6×142.2
橋本 明治	蓮を聴く	昭和11	1936	絹本着色	額	156.8×221.8
長谷川派	武蔵野図屏風	桃山~江戸初期		紙本金地着色	六曲一双	各165.8×367.2
平福 百穂	七面鳥・鴨	大正3	1914	紙本着色	軸、双幅	各124.8×59.1
広田 多津	ふたり	昭和13	1938	紙本着色	額	204.6×135.3
不二木 阿古	爽朝	昭和16	1941	絹本着色	軸	129.0×41.0
松本 楓湖	和装西洋婦人像	明治前期		絹本着色	額	102.0×45.2
松本 楓湖	後醍醐帝観桜樹図	明治末~大正時代		絹本着色	軸	125.0×71.0
松本 楓湖	八岐大蛇図	明治42		絹本着色	軸	150.0×70.0
円山 応挙	柿本人麿像	明和2頃	1765頃	紙本墨画	軸	93.8×28.0
武藤 嘉門	ショーウインドウ	昭和12	1937	紙本着色	額	242.7×546.0
山田 喜作	真夏の港	昭和7	1932	絹本着色	額	212.3×197.8
山田 喜作	湘南初夏	昭和6	1931	絹本着色	額	245.0×174.5
山田 道安	芦雁図	室町末~桃山初期		紙本墨画	軸、双幅	各86.6×40.4
山本 琴谷	年中行事図屏風	江戸末期		紙本着色	六曲一双、押絵貼	各139.0×304.2
山本 琴谷	瀧見観音図	江戸末期		紙本墨画淡彩	軸	106.0×29.6
山本 琴谷	月下横臥図	万延元	1860	絹本淡彩	軸	159.0×50.7
山本 梅逸	山水図	天保4	1833	紙本墨画	軸	127.6×57.0
横山 大観	水温む	昭和29	1954	紙本墨画	額	70.0×92.2

所蔵作品一覧

所蔵作品一覧

版画

作家名	作品名	制作年(和暦)	制作年(西暦)	技法、材質	サイズ(cm)
石井 柏亭	木場	大正3	1914	木版、紙	24.0×18.0
織田 一磨	石見有福温泉	大正14	1925	木版、紙	39.0×27.0
岸田 劉生	岸田劉生個展ポスター		1919	木版、紙	70.0×25.5
永瀬 義郎	祈り	昭和31	1956	木版、紙(紺紙金刷)	51.0×38.0
永瀬 義郎	画家	昭和38	1963	木版、紙	61.0×43.5
永瀬 義郎	祭壇の処女	昭和50	1975	リトグラフ、紙	80.3×65.0
宮 芳平	自画像	昭和9	1934	エッチング、紙	9.0×6.0
宮 芳平	黒百合	昭和9	1934	エッチング、紙	12.2×9.0
宮 芳平	門	昭和9	1934	エッチング、紙	9.1×2.0
宮 芳平	八ヶ嶽	昭和9	1934	エッチング、紙	8.7×18.2
宮 芳平	ブラジルへ行った人の家	昭和10頃	1935頃	エッチング、紙	9.0×12.0
宮 芳平	御神木	昭和9	1934	エッチング、紙	9.0×11.8
宮 芳平	水	昭和10頃	1935頃	エッチング、紙	9.0×11.8
宮 芳平	雨 その1	昭和10頃	1935頃	エッチング、紙	9.0×9.4
宮 芳平	雨 その2	昭和10頃	1935頃	エッチング、紙	9.0×10.8
宮 芳平	コスモス	昭和10頃	1935頃	エッチング、紙	9.0×12.0
宮 芳平	雲	昭和8	1933	エッチング、紙	10.0×12.0
宮 芳平	田舎(三日月)	昭和10頃	1935頃	エッチング、紙	6.0×9.0
宮 芳平	茄子	昭和10頃	1935頃	エッチング、紙	6.0×9.0
宮 芳平	おぼろの太陽	昭和10頃	1935頃	エッチング、紙	18.0×9.0
宮 芳平	松	昭和10	1935	エッチング、紙	9.0×6.0
宮 芳平	昭子像	昭和10	1935	エッチング、紙	9.0×6.0
宮 芳平	自画像(眼を病める)	昭和10	1935	エッチング、紙	11.8×9.0
宮 芳平	旧校舎(雪)	昭和10	1935	エッチング、紙	9.0×12.0
宮 芳平	室内	昭和10	1935	エッチング、紙	6.0×9.0
宮 芳平	月(望月)	昭和10頃	1935頃	エッチング、紙	9.0×12.0
宮 芳平	コーヒーわかし	昭和10	1935	エッチング、紙	12.0×9.0
宮 芳平	山(年賀状)	昭和10頃	1935頃	エッチング、紙	9.0×12.0
宮 芳平	ポプラと湖	昭和10頃	1935頃	エッチング、紙	6.0×9.0
宮 芳平	枯野	昭和10頃	1935頃	エッチング、紙	6.0×6.3
宮 芳平	水辺	昭和10	1935頃	エッチング、紙	9.0×12.0
宮 芳平	山湖	昭和10頃	1935頃	エッチング、紙	9.0×12.0
宮 芳平	郊外	昭和10頃	1935頃	エッチング、紙	9.0×12.0
宮 芳平	叢	昭和10頃	1935頃	エッチング、紙	9.0×12.0
宮 芳平	山(冬の裏山)	昭和10頃	1935頃	エッチング、紙	10.0×8.0
宮 芳平	もろこしとトマト	昭和10		エッチング、紙	9.0×12.0
宮 芳平	山と月	昭和10頃	1935頃	エッチング、紙	12.0×9.0
宮 芳平	庭の花(すみれ)	昭和10頃	1935頃	エッチング、紙	9.0×6.0
宮 芳平	庭の花(桜草)	昭和10頃	1935頃	エッチング、紙	9.0×6.0
宮 芳平	庭の花(くりん草)	昭和10頃	1935頃	エッチング、紙	6.2×6.0
宮 芳平	茄子の木	昭和10頃	1935頃	エッチング、紙	9.0×6.0
宮 芳平	裏山	昭和10頃	1935頃	エッチング、紙	12.0×18.0
宮 芳平	湖と乙女	昭和10頃	1935頃	エッチング、紙	9.0×9.0
宮 芳平	湖と乙女(月)	昭和10頃	1935頃	エッチング、紙	9.0×9.0
宮 芳平	実のなる木	昭和10	1935	エッチング、紙	8.8×12.0
	『ガゼット・デュ・ボン・トン』		1912～25	冊子69冊、ファッションプレート721枚	
	『モード・エ・マニエル・ドール・ドゥイ』		1912～22	冊子7冊、ファッションプレート84枚	
	『ジュルナル・ダム・エ・デ・モード』		1912～14	冊子80冊、ファッションプレート188枚	
ポール・イリーブ	『ポール・ボワレのドレス』		1908	ファッションプレート10枚	
ジョルジュ・ルバープ	『ポール・ボワレの作品』		1911	ファッションプレート12枚、エキストラプレート3枚	
ウイーン工房(フレグル、リックス他)	『女性の生活』(20点組)		1916	木版・一部水彩加筆、紙	39.5×29.5
ラウル・デュフィ	狩獵		1910頃	木版、紙	21.0×64.0
ラウル・デュフィ	ダンス		1910頃	木版、紙	31.2×31.3
ヒルダ・イエッサー	『モード・ウィーン 1914/15』(20点組のうち)		1914～15	木版・一部水彩加筆、紙	29.5×21.0
ヒルダ・イエッサー	『モード・ウィーン 1914/15』(20点組のうち)		1914～15	木版・一部水彩加筆、紙	29.5×21.0
ゲルトルト・ヴァインベルガー	『モード・ウィーン 1914/15』(20点組のうち)		1914～15	木版・一部水彩加筆、紙	29.5×21.0
ロッテ・カルム	『モード・ウィーン 1914/15』(20点組のうち)		1914～15	木版・一部水彩加筆、紙	29.5×21.0
イレネ・シャシュル	『モード・ウィーン 1914/15』(20点組のうち)		1914～15	木版・一部水彩加筆、紙	29.5×21.0
イレネ・シャシュル	『モード・ウィーン 1914/15』(20点組のうち)		1914～15	木版・一部水彩加筆、紙	29.5×21.0

所蔵作品一覧

版 画

作家名	作品名	制作年(和暦)	制作年(西暦)	技法、材質	サイズ(cm)
アニー・シュレーダー	「モード・ウィーン 1914/15」(20点組のうち)		1914~15	木版・一部水彩加筆、紙	29.5×21.0
アニー・シュレーダー	「モード・ウィーン 1914/15」(20点組のうち)		1914~15	木版・一部水彩加筆、紙	29.5×21.0
マックス・スニシェク	「モード・ウィーン 1914/15」(20点組のうち)		1914~15	木版・一部水彩加筆、紙	29.5×21.0
ダゴベルト・ベッヒェ	「モード・ウィーン 1914/15」(20点組のうち)		1914~15	木版・一部水彩加筆、紙	29.5×21.0
ガビ・メーシュル	「モード・ウィーン 1914/15」(20点組のうち)		1914~15	木版・一部水彩加筆、紙	29.5×21.0
フリッツィ・レーヴ	「モード・ウィーン 1914/15」(20点組のうち)		1914~15	木版・一部水彩加筆、紙	29.5×21.0
ジャンーエミール・ラブレル	マリー・ローランサン肖像		1914	木版、紙	25.0×22.0
ジャンーエミール・ラブレル	ビュット・ショーモン公園風景		1921	エッチング、紙	20.0×23.0

服 飾

作家名	作品名	制作年(西暦)	材質、技法	サイズ(cm)
森 英恵	カフタン、ドレス	1960年代後半～ 1970年代前半	蝶をプリントした絹シフォンと綾絹。 同柄の絹シフォンのストール。	
森 英恵	イヴニング・ドレス	1960年代後半～ 1970年代前半	蝶をプリントした絹シフォンと綾絹。 ネックにビーズ刺繍。	
森 英恵	イヴニング・コート、ショートドレス	1964	純金帯地(西陣織)のコート。ドレスは、 帯地と絹サテン。	
森 英恵	ジャンプスーツ、カフタン	1966	菊を同柄でプリントした綾絹と絹シフォンの ジャンプスーツとカフタン。絹サテンのベルト。	
森 英恵	イヴニング・コート、ドレス	1968	帯地風に仕立てた西陣織のイヴニング・コート。 赤と白の絹サテンのロングドレス。赤い絹 サテンのベルト付。	
森 英恵	イヴニング・ドレス「花の白いドレス」	1981	白い絹クレープのワンピース・ドレス、絹サテ ンとビーズのアププリケ。	
森 英恵	イヴニング・ドレス	1981	黒い絹クレープのワンピース・ドレス、絹サテ ンとビーズのアププリケ。	
森 英恵	イヴニング・ドレス「赤い蝶のドレス」	1990	赤い絹クレープのワンピース・ドレス。	
森 英恵	イヴニング・ドレス 「蝶を染めたベルベットのドレス」	1996	ピンク色の絹ベルベットのワンピース・ドレス。	
森 英恵	イヴニング・ドレス「北斎の版画のよ うに、山の風景を染めた絹のドレス」	1996	墨絵風の柄をプリントした絹シフォン、絹サテ ンのワンピース・ドレス。	
マドレーヌ・ヴィオネ	ディ・ドレス	1920頃	黒の絹クレープのワンピース・ドレス。ポート ネック、ラグランスリーブ、プリーツスカート。	
マドレーヌ・ヴィオネ	ディ・ドレス	1934頃	赤緋色のクレープ。ワンピース・ドレス。 バイアス・カット。	
マドレーヌ・ヴィオネ	イヴニング・ドレス、 スリッパ、ストール	1938	黒いチュール地に金色のぶどうのモチーフ のワンピース・ドレス。サーキュラー・スカ ート。ホルター・ネック。黒い絹サテンのアンダー ・ドレス付。黒いチュールのストール。	
マドレーヌ・ヴィオネ	イヴニング・ドレス	1938	ドレスとアンダードレスの2ピース。ピンクの シルク・シフォン地のオーバードレス、シフォ ンと絹地のアンダードレス。	
ヴィヴィアン・ウエストウッド	「サロン」ショール付イヴニング・ドレス	1992	透けた黒のストレッチ素材。 共布のショール付き。	
ヴィヴィアン・ウエストウッド	「18世紀スタイル」 イヴニング・ドレス	1992	金色の革。ボーンの入ったボティス。皮のス カート。スカーフは白の絹ゴーズ。太陽のモ チーフを金でプリント。プラット・フォーム・シュ ーズは、金色の皮、ヒールには赤のエナメル。	
ヴィヴィアン・ウエストウッド	「リバティコレクション」 ジャケット、スーツ、パンツ、シャツ	1994	グレー、白、赤のタータンのウール。ロング丈 のジャケット、ベスト、折り返しのついたパンツ。 チェックの綿のシャツ。	
ヴィヴィアン・ウエストウッド	ドレス 靴	1990	黒色絹ベルベットのストレッチ素材のコルセッ ト、パッドのはいたバスル付きガーター風 のボトム、17cmヒールのプラット・フォーム・ シューズ。	
シャルル＝フレデリック・ウォルト	ポールガウン	1897	アイボリーの絹サテン、ジゴ袖のツーピース・ ドレス。金糸で刺繍の施されたページュのラ メ、ボティスとスカートに稲妻と雲のデザイン。 雲のデザインの薄い青色のトレーン。	
ジャン＝フィリップ・ウォルト	ウエディング・ドレス	1916	さまざまな種類のブリュッセルレースを組み 合わせたドレス。	
ジルベルト・エイドリアン	ディ・ドレス	1940年代	赤茶と緑の玉虫色のウール。肩パッド付きの ジャケット。スリットのあるタイト・スカート。	
エルメス	水着	1940～50年代	幾何学的な魚の模様のスパンデックス。 ボーン入り。	
ジェームス・ガラノス	パンツ・スーツ	1970	アイボリーのケミカル・レース。ジャケット、ベ スト、ファスナー付きフレア・ボトムのパンツ。	

所蔵作品一覧

所蔵作品一覧

服飾

作家名	作品名	制作年(西暦)	材質、技法	サイズ(cm)
マリア・モチナ・ガレンガ	ティーガウン	1910年代	赤茶色の絹ベルベット地、直線断ちのドレス、ロング・スリーブス、肩にヴェネツィアンビーズ。ドレスに鳥と植物模様、袖に幾何学模様が金でステンシルワークされている。	
マリア・モナチ・ガレンガ	テキスタイル	1913頃	深緑色のシルクベルベットに黒色のステンシルワーク。	290.0×307.0
マリア・モナチ・ガレンガ	テキスタイル	1920頃	黒色のシルクベルベットに金色のステンシルワーク。	356.0×356.0
ルディ・ガーンライヒ	ミニ・ドレス、ビキニス、ブーツ	1967	ピンクのウール・ニット。ビニールのインサージョン。ブーツにも同様のビニールのインサージョン。	
ルディ・ガーンライヒ	ミニ・ドレス、ビキニス、ブーツ	1967	ライム・グリーンとブルーのウール・ニット。ビニールのインサージョン。ブーツにも同様のビニールのインサージョン。	
ルディ・ガーンライヒ	パンツ・スーツ	1960年代後半	ライム・グリーンとブルーのジグザグパターンのウール。ボタン付きベルト。	
ルディ・ガーンライヒ	水着「モノキニ」	1964	ヘリングボーンパターンのウール、綿、ラバーの混紡。	
アリックス・グレ	イヴニング・ドレス	1958	黒い絹ジャージーのワンピース・ドレス。細かくたたまれたプリーツ。	
アンドレ・クレージュ	ブーツ	1960年代後半	白い革、VELCROのファスナー付き。	
アンドレ・クレージュ	ジャンプスーツ	1970	青と白のウール。マンダリン・カラー。茶革のトリミング、折り返しのあるカフス。	
アンドレ・クレージュ	イヴニング・ドレス	1970頃	白いウール地のワンピース・ドレス。裏地は白い絹。	
アンドレ・クレージュ	ディ・アンサンブル	1965~67	ライムと緑色のチェック地の白いウール地のツーピース・ドレス。裏地はクリーム色の絹。	
アンドレ・クレージュ	ドレス ブーツ カメラ	1960年代後半~1970	オレンジ色のビニール。スタンドカラー。丈の短いジャケット、ボディス中央とカフスに白いボタン、白いエナメルロゴ・マーク、ヒップ・ボーンのミニ・スカート。銀色の革製のブーツ。アクセサリーとして日本製カメラ(ミノルタ製)	
イブ・サンローラン	カクテル・ドレス、ケープ	1967~68	カクテルドレスとケープのアンサンブル。ボティスは黄色の絹オーガンザ、ピンク、黄色のバイエット飾り等で刺繍。スカート、ケープには黄色のオストリッチ・フェザー。	
イブ・サンローラン	ディナー・ドレス 「Musique de Nuit」	1956	ダーク・グレーのシルク・グログラン地。Vネックライン、七分丈のラグランスリーブス、トラペーズラインのスカート、4重に重ねたベチコートには、ホース・ヘアー・バンド。	
イブ・サンローラン	イヴニング・スーツ	1967頃	黒のサテンによりトリミングされた黒いウールのイヴニング・スーツ。	
クリスチャン・ディオール/ イブ・サンローラン	ディナー・ドレス	1958	銀の絹サテン。裏地は絹ゴーズ。七分丈のラグランスリーブ。幅広の帯風のベルト。ボティスの内側にはチュール地のボーン入りコルセットとガーター。スカートにはチュール地の3段のベチコート。	
チャールズ・ジェームス	ディナー・ドレス 「スパイラルドレス」	1951	ルビー・レッドの絹ファイユ。スカートにくるみ釦、ファスナー。	
ガブリエル・シャネル	イヴニング・ドレス	1927頃	黒の絹シフォンのワンピース・ドレス。バイアスカット。黒の絹のスリッパ。	
ガブリエル・シャネル	イヴニング・ドレス	1920年代後半	黒い絹クレープ・デ・シンにシャンティイレース地を重ねたワンピース・ドレス。サテン地のリボン。	
エルザ・スカパレリ	イヴニング・ドレス	1938	ショッキングピンク地にプリントを施した絹シフォンのワンピース・ドレス。ショッキングピンクのアンダードレス。	
エルザ・スカパレリ	水着	1930年代後半	綿とレーヨンの混紡。幾何学模様。ホルターネックブラ。	
エルザ・スカパレリ	イヴニング・ドレス	1939	クリーム色のサテン・シルク。衿はフェイク(衿の形をしたアップリケ・ワーク)。肩にプラスチック・ジップ。	
マックス・スニェク	ドレス、テキスタイル「バイエル」	1928頃	絹にプリント。ウエストに二つのポケット。黒の絹の縁。	
マックス・スニェク	ドレス、テキスタイル「エロス」	1926頃	絹にプリント。襟元にヒダ飾りのついたスクエアのネックライン。伸縮性のある袖口。2つのポケット。	
マックス・スニェク	ドレス、テキスタイル「ゼレニカ」	1929	絹にプリント。濃い青の絹で縁取られたウエストまで届くV字の襟。袖も青の絹で縁取り。	
クリスチャン・ディオール	ボールガウン	1954	アイボリーの絹ファイユのストラップレスドレス。植物のモチーフをビーズ刺繍。	

所蔵作品一覧

服飾

作家名	作品名	制作年(西暦)	材質、技法	サイズ(cm)
クリスチャン・ディオール	ボールガウン、ストール、靴	1954	淡い青地に濃い水玉模様のプリント、絹シフォンのストラップレスドレス。襟元にボー飾り。背面にバツル風形状の飾り。共布のストールと靴。	
クリスチャン・ディオール	ディ・ドレス	1949	黒のウール。厚みのある開襟カラー。ジャケットに飾りポケット。巻きスカート。	
クリスチャン・ディオール	ディナー・ドレス「カラカス」	1953	バラのプリント地の絹シフォンのツーピース・ドレス。裏地はピンクの絹オガンザ。内側にはボーンの入ったチュール地とシフォンのコルセット。巻きスカート、シース型のアンダースカート付。	
クリスチャン・ディオール	コート	1955頃	グレーの絹ファイユ地。大きな襟と七分丈のラグランスリーブ。後ろは大きくVの字に開きボウ飾り有り。両脇にポケット。背中中央にボックスプリーツ。裏地はグレーの絹。	
クリスチャン・ディオール	カクテル・ドレス	1956	茶の絹タフタ。ウエストにベルト。	
ピエール・バルマン	イヴニング・ドレス	1955頃	黒の絹ベルベットと絹ファイユ地。後ろ身頃にファスナー、その上にくるみ釦飾り付き。チュール地とホースヘアーを6段に重ねたオリジナルのベチコート付き。	
クリストバル・バレンシアガ	カクテル・ドレス	1950~51	濃い青の絹タフタのカクテル・ドレスとジャケット。ドレスはホルター・ネック。前面にボタン、バルーンスカート。ジャケットは肩幅の狭いシルエット。ベルト付き。ビーズ付き濃紺の靴。	
クリストバル・バレンシアガ	カクテル・ドレス	1961	クリーム色のシフォン。トラベーズラインのドレス。	
クリストバル・バレンシアガ	ケープ	1946	黒の絹ファイユ地にホースヘアー、銀のスパンコール、人造宝石の刺繍。	
クリストバル・バレンシアガ	ドレス	1949	黒のウールに緑の絹タフタのワンピース・ドレス。	
クリストバル・バレンシアガ	コート・ドレス	1958	淡いグレーのモフレのコートドレス。マンダリンカラー。袖には金色に着色した木製釦。アンダースカート付。	
クリストバル・バレンシアガ	カクテル・ドレス	1957	黒のシャンティイレースの「ベビードールドレス」。黒の絹のスリッパドレス。	
クリストバル・バレンシアガ	カクテル・ドレス	1957	黒いバラのモチーフのある白いレース地のワンピース・ドレス「ベビードールドレス」。絹シフォンのアンダードレス付。	
バーバラ・フラニッキー／ビバ	パンツ・スーツ	1970	「サンダーソン」社製テキスタイルのテーラードジャケット、ヒップ・ボーンのフレアーパンツ。	
バーバラ・フラニッキー／ビバ	パンツ・スーツ	1970頃	ト音記号をプリントしたウールと綿のニット。	
クリスチャン・ディオール／マルク・ボアン	ディナー・ドレス	1961	ピーコック・ブルーの絹。裏地は青の絹オガンザ。七分丈スリーブ。左右が不均等なボレロ風ジャケット。	
クレア・マッカーディル	水着	1945頃	黒色と白色のストライプのジャージー。	
ザンドラ・ローズ	フード付きカフタン	1969	黒、黄、緑で円状の模様がスクリーンプリントされたフード付きカフタン。	
スザンヌ・タルボット	イヴニングコート	1925頃	黒い絹の罽型コート。椰子の葉と花々を刺繍したテキスタイル。黒の毛皮のトリミング。裏地は黒のベルベット。	
マリアノ・フォルチュニ	コート	1912以降	深緑と錆赤のベルベットにピンクと金色でプリント。金でルネサンス風文様がプリントされた錆赤のベルベットでトリミング。錆赤のロングタイ。絹のライニング。	
マリアノ・フォルチュニ	タバード	1910年代	透けた黒の絹ゴーズ。金色のステンシル・ワーク。脇、裾にトンボ玉付き。	
マリアノ・フォルチュニ	プリーツ・ドレス「デルフォス」	1910年代	白の絹サテンのワンピース・ドレス。不規則な細かいプリーツ。アーム・ホール、脇にトンボ玉付き。ベージュと赤銅色の飾りヒモ付き。	
マリアノ・フォルチュニ	プリーツ・ドレス「デルフォス」	1910年代	赤の絹サテンのワンピース・ドレス。不規則な細かいプリーツ。アーム・ホール、脇にトンボ玉付き。	
ステーン・ブラザーズ	レセプション・ドレス	1900~05頃	黒いネット・レース、アイボリーの絹サテン、絹シフォン、絹タフタを重ねている。S字ライン。	
ダゴベルト・ベッヒエ	カフタン	1919頃	絹に色を濃淡にぼかした縞模様プリント「レインボー」。	
ダゴベルト・ベッヒエ	ネック・バンド	1919頃	ビーズ。	172.0X1.6
ダゴベルト・ベッヒエ	テキスタイル	1911~16	絹にプリント。	90.0X70.0
ダゴベルト・ベッヒエ	テーブルセンター	1919/20	絹。チュールにアップリケ。	155.0X90.0

所蔵作品一覧

所蔵作品一覧

服飾

作家名	作品名	制作年(西暦)	材質、技法	サイズ(cm)
ポール・ボワレ	イヴニング・ドレス	1913	黄色の絹ゴーズとブリーツのあるグリーンのシフォン地。銀ブレードの縁飾り、バンド部分にペイズリー模様を銀糸やスパンゲルで刺繍。裏地はライム・グリーン地のシフォン。	
ポール・ボワレ	ドレス	1920年代後半	シュミーズ風赤紫色の絹クレープ・デ・シンのワンピース・ドレスに、藤色と紫色のブリーツのあるオーバードレス。前身頃とウエストに、オリエンタル風モチーフを刺繍。	
ポール・ボワレ	ガーデン・パーティ・ドレス		アイボリーの絹サテン、ジゴ袖のツーピース・ドレス。金糸で刺繍の施されたベージュのラメ、ボディとスカートに稲妻と雲のデザイン。雲のデザインの薄い青色のトレーン。	
ポール・ボワレ	ドライブ用コート	1910頃	アイボリー色のシャンタン絹地。Aライン、ラグランスリーブ、丸襟、骨のボタン。	
ポール・ボワレ	ディ・ドレス	1925	グログラン・シルク地に海辺のシーンをプリント。Vネックの襟元、ロウ・ウエスト。	
ポール・ボワレ	ディ・ドレス「ブリトヌ」	1921	紺色のウール、青緑色のベルベット地、中国風の刺繍が施された長い袖、ボディの中央にフックファスナー、ウエスト前部にゴム。	
ポール・ボワレ	カフタン・コート「イスファハン」	1908	緑色の絹サテン、裏地には茶色の絹サテン、中東風の模様をゴールド・ギルド糸刺繍。袖の縁取りに使われた紐にはタッスル飾り付き。	
メンバーシェ	イヴニング・ドレス	1940	黒の絹クレープ。背中に深いVカット。ラグランスリーブ。	
パコ・ラバンス	イヴニング・ドレス	1966	銀色のアルミニウム板を真鍮の金具でつなぎ合わせたミニ・ドレス。	
ジャンヌ・ランヴァン	イヴニング・ドレス	1928	黒の絹チュールのワンピース・ドレス。ボディとスカート上部に金銀のスパンコールなどによる刺繍。	
ジャンヌ・ランバン	ドレス	1936	黒の絹クレープのワンピース・ドレス。袖に白いフェルト地のアップリケワーク。パイアスカット。	
マリア・リカルツ	バッグ	1919	ビーズ・ワーク	20
ニナ・リッチ	イヴニング・ドレス	1948	紺と白の絹。開襟カラー。両肩下にポケットのある短いマント風ジャケット。前面にくるみ釦。クリノリン型のスカート。チュールネットの下着付き。	
リバティ	コート		青色の絹ベルベット。ライニングは絹のシルバー・ラメ。フロントにくるみボタン、襟に絹製の紐、裾に長いタッスル飾り。	
リバティ商会	ティー・ガウン	1908	ブルーグレーのクレープ。茶がかかったグレーの絹シフォンでトリミング。襟に中国風刺繍。	
リバティ商会	バッグ	1910年代	異国風のモチーフのコードル・ワーク、緑色の絹地のライニング。	
ハーバート・レヴィン	靴「カブキ・シューズ」	1964	青色ベルベット。木製ソールは金色にペイント。	
ベス・レヴィン	サンダル「ネイキッド・シューズ」	1960年代	革製サンダル。プラスチック製のシダのモチーフのデコレーション。	
レドファン	コート	1920年代	金糸を織り込んだ黒い絹。シダ植物と花の模様が交差するパターン。襟元と袖に毛皮。袖はカフタン風。裏地はベージュの絹ベルベット。	
作者不詳	ペーパー・ドレス「スーパードレス」	1966頃	「キャンベル・スーパ・カン」のプリントを施したセルロースと綿の不織布。	
作者不詳	ビーチ・ウェア	1910~20年代	白色のシルクボンジー。 ・袖無しのボディ、パンツ。	
作者不詳	アフタヌーン・ドレス	1900頃	ホワイト・コットン・オーガージー、全体に水玉の織りがある薄手の綿と花柄刺繍、大きくふくらんだ袖、トレーンを引くスカート。	
作者不詳	女性用乗馬服	1888頃	ダーク・グリーン地のウール。ジャケット、パンツ、サイド・サドル・スカート。	
作者不詳	女性用乗馬服	1890頃	グレーのツイード。ジャケット、パンツ、サイド・サドル・スカート。	
作者不詳	女性用サイクリング・ウェア	1910年代	茶色のウール。ジャケット、パンツ。	
作者不詳	女性用乗馬服	1920年代	茶色のウール。ジャケット、パンツ。	
作者不詳	女性用乗馬服	1930年代後半	青色のウール。ジャケット、ジョッパーズのパンツ。	
作者不詳	女性用サイクリング・ウェア	1900頃	紺色のウール。ジャケット、ブルーマー、カラー。ルーズなブラウス風のボディ、セーラー・カラー、カフス付の長い袖、隠れた釦ファスナー。	
作者不詳	水浴着	1905~10頃	濃紺のウール。上着、ブルーマー、スカート。	
作者不詳	水着	1920頃	青色と赤色のストライプのウールニット。右肩に釦ファスナー。	
作者不詳	プレイスーツ	1920年代初頭	綿にプリント。ジャケット、パンツ。	

所蔵作品一覧

服飾

作家名	作品名	制作年(西暦)	材質、技法	サイズ(cm)
作者不詳	水着	1920年代	青、黒、白のストライプのウールのニット。	
作者不詳	テニス・ウェア	1926頃	白色綿。Vネック、ノースリーブ、肩2本ダーツ。	
作者不詳	スキー・スーツ	1940年代	ウールとナイロンの混紡のジャンプスーツ。	
作者不詳	ネックレス	1920頃	ピンク、緑、銀色のストライプと小花模様のビーズ・ワーク。両端にタッスルの飾り。	
作者不詳	イヴニング用シューズ	1920頃	花のモチーフを銀糸をつかいプロケード織り。	
作者不詳	海水浴用シューズ	1920頃	セージ・グリーンのコルク製。銀色にペイントされた羽根模様。	
作者不詳	ブレスレット	1930頃	銀	

油彩画

作家名	作品名	制作年(和暦)	制作年(西暦)	技法・材質	サイズ(cm)
石井 柏亭	芙蓉湖	昭和25	1950	油彩、カンヴァス	72.5×91.0
岩本 拓郎	無題	昭和53	1978	アクリル、シナベニヤ・角材	145.0×382.0
岩本 拓郎	無題	昭和54	1979	アクリル、シナベニヤ・角材	182.0×358.0
大下 藤次郎	野の道	明治27～30頃	1894～97頃	油彩、カンヴァス	23.5×17.5
岡田 三郎助	黒き帯	大正4	1915	油彩、カンヴァス	62.0×45.3
香月 泰男	ヴァンドーム広場	昭和53	1973	油彩、カンヴァス	91.0×48.0
香月 泰男	鯉と犬	昭和25	1950	油彩、カンヴァス	60.1×40.7
鹿子木 孟郎	加茂ノ森	大正12	1923	油彩、カンヴァス	100.0×100.0
鹿子木 孟郎	舞子の浜	大正2	1914	油彩、カンヴァス	76.0×40.0
川村 清雄	緑蔭牧牛図	大正～昭和初期		油彩、絹本	23.0×74.0
岸田 劉生	静物	大正9	1920	油彩、カンヴァス	39.6×52.0
黒田 清輝	ポプラの黄葉	明治24	1891	油彩、カンヴァス	65.4×80.8
黒田 清輝	裸体	明治22	1889	油彩、カンヴァス	80.0×43.8
児島 善三郎	椅子による	大正14～昭和3頃	1925～28頃	油彩、カンヴァス	130.3×97.0
小堀 四郎	ブルターニュの男	昭和5	1930	油彩、紙	41.0×32.8
椿 貞雄	冬瓜南瓜図	昭和22	1947	油彩、カンヴァス	37.7×90.9
東郷 青児	婦人像	昭和5～10頃	1930～35頃	油彩、カンヴァス	65.0×53.0
中川 八郎	初秋の夕	大正8	1919	油彩、カンヴァス	94.5×121.6
長原 孝太郎	風景	大正10	1921	油彩、板	32.7×24.0
中村 不折	裸体	明治36～38頃	1903～05頃	油彩、カンヴァス	99.8×79.7
中村 不折	裸婦	明治末～大正初期	1900～20頃	油彩、カンヴァス	80.0×60.7
原田 直次郎	男児肖像	明治20～31頃	1887～98頃	油彩、カンヴァス	30.3×21.9
藤島 武二	西洋婦人像	明治41～42頃	1908～09頃	油彩、カンヴァス	58.3×39.1
藤田 嗣治	アントワープ港の眺め	大正12	1923	油彩、カンヴァス	170.0×224.0
藤田 嗣治	婦人像	昭和14	1939	油彩、カンヴァス	57.6×71.2
満谷 国四郎	風景	大正時代	1913～25頃	油彩、カンヴァス	53.0×45.5
満谷 国四郎	雑木林	大正11	1922	油彩、カンヴァス	45.5×53.3
宮 芳平	風景	大正時代	1912～25頃	油彩、カンヴァス	32.0×41.0
宮 芳平	自画像	大正8	1920	油彩、カンヴァス	53.3×45.7
安井 曾太郎	水浴図	大正時代	1912～25頃	油彩、カンヴァス	91.0×72.0
山崎 修二	二人の少女	昭和6	1931	油彩、カンヴァス	130.0×96.5
山崎 修二	少女像	昭和6	1931	油彩、カンヴァス	100.0×81.0
山崎 修二	初冬	昭和11	1936	油彩、カンヴァス	130.0×161.0
山崎 修二	夏	昭和11	1936	油彩、カンヴァス	73.0×91.0
山崎 修二	残雪のある庭	昭和13	1938	油彩、カンヴァス	111.0×144.0
山崎 修二	髪	昭和14	1939	油彩、カンヴァス	131.0×97.0
山崎 修二	風景(仮題)	昭和16	1941	油彩、カンヴァス	73.0×91.0
山崎 修二	窓辺の静物	昭和25	1950	油彩、カンヴァス	91.0×116.5
山崎 修二	山懐の早春	昭和28	1953	油彩、カンヴァス	91.0×73.0
山崎 修二	緑の静物	昭和30	1955	油彩、カンヴァス	130.0×80.0
山崎 修二	港通りの家	平成10	1998	油彩、カンヴァス	53.0×66.0
山本 鼎	筍	昭和13	1938	油彩、カンヴァス	41.2×53.3
吉田 博	風景	大正前期	1911～20頃	油彩、カンヴァス	60.6×50.0
和田 英作	風景	大正3	1914	油彩、カンヴァス	52.2×71.6
和田 英作	海神	大正7	1918	油彩、カンヴァス	53.0×41.0
アレクサンドル・カバネル	若い男性の肖像		1872	油彩、カンヴァス	97.0×62.0
アレクサンドル・カバネル	若い女性の肖像		1886	油彩、カンヴァス	60.8×50.0

所蔵作品一覧

所蔵作品一覧

油彩画

作家名	作品名	制作年(和暦)	制作年(西暦)	技法・材質	サイズ(cm)
ラファエル・コラン	エリーズ嬢の肖像		1885	油彩、カンヴァス	130.0×90.5
ラファエル・コラン	若い女性の肖像		1889	油彩、カンヴァス	65.0×54.0
ラウル・デュフィ	水上の祭		1920～22頃	油彩、カンヴァス	81.8×100.2
ガブリエル・フォン・マックス	聖女テレゼ・メルル		1868	油彩、カンヴァス	67.8×55.8
ガブリエル・フォン・マックス	煙を出す壺を抱く女性		19世末～20世紀初期	油彩、カンヴァス	85.4×65.2

工芸

作家名	作品名	制作年(和暦)	制作年(西暦)	技法・材質	サイズ(cm)
巖水	石見根付 扇面草図	江戸時代		象牙	長9.9
富永	石見根付 蜘蛛	江戸時代後期	19世紀	猪の牙	8.5×2.4×1.2
富春	石見根付 蓮葉に菘亀	寛政4	1792年	鯨の歯	4.1×2.5
富春	石見根付 亀	江戸時代後期		木刻	長6.1
永原 雲永	色絵桐紋秋草図蓋茶碗	江戸時代末期	19世紀	陶器	高7.9、口径11.0、高台径4.2
永原 英造	色絵金銀彩唐草文鉢	明治時代	19世紀後半	陶器	高10.0、口径19.5、底径10.3
龍水	石見根付 牛	江戸時代		木	長5.6
不詳	石見根付 蜘蛛	江戸時代後期		猪牙刻	長8.3
中村 松間齋	猛禽図高蒔絵印籠	江戸時代末期		高蒔絵	高7.2、幅6.7、奥行2.8
ダゴベルト・ベッヒエ	蓋付きの物入れ		1912デザイン	陶製、釉薬	高15.0
ダゴベルト・ベッヒエ	ペンダント		1919頃	象牙(刻彫)	長4.6
ダゴベルト・ベッヒエ	ブローチ		1916	銀、象牙	3.4×3.4
ダゴベルト・ベッヒエ	蓋付きの箱		1920-21	鍛金・銀	高5.0、径4.2

ファッション雑誌、書籍

書名	出版年	サイズ(cm)	備考
『20世紀現代産業装飾芸術百科事典』	1925	各28.3×23.2	全12冊
『フェミナ』	1904～34	各35.0×28.2	88冊、欠号あり
『レ・モード』	1901～13	各35.5×27.0	1～156号合本
『アール・グー・ボーテ』	1922～33	各31.4×24.0	40冊、欠号あり
『婦人グラフ』	1924～28	各32.8×24.4	25冊、欠号あり

写真

作家名	作品名	制作年(西暦)	技法	サイズ(cm)
森村 泰昌	美に至る病 女優になった私(48点組)	1996	イルフォクローム、アクリル加工	120.0×95.0
リチャード・アヴェドン	ドヴィマと象	1955	ゼラチン・シルヴァー・プリント	58.5×47.3
ダイアン・アーバス	サウス・カロライナ	1968	ゼラチン・シルヴァー・プリント	39.5×38.2
ダイアン・アーバス	舞踏場ダンス ジュニア州チャンピオン、ニューヨーク州ユンカーズ	1962	ゼラチン・シルヴァー・プリント	37.2×37.2
ダイアン・アーバス	楽屋の風刺劇喜劇女優 アトランティックシティ、ニュージャージー	1963	ゼラチン・シルヴァー・プリント	37.6×37.5
ダイアン・アーバス	無題14	1970～71	ゼラチン・シルヴァー・プリント	37.3×37.7
ダイアン・アーバス	無題18	1970～71	ゼラチン・シルヴァー・プリント	36.8×37.4
ダイアン・アーバス	バラのドレスを着た仮面舞踏会の婦人	1967	ゼラチン・シルヴァー・プリント	36.9×37.2
ダイアン・アーバス	五番街のパレードの男、ニューヨーク	1969	ゼラチン・シルヴァー・プリント	36.8×36.8
ダイアン・アーバス	恐怖の家、コニー・アイランド、ニューヨーク	1962	ゼラチン・シルヴァー・プリント	36.4×37.3
ウィリアム・クライン	オペラ劇場十顔のない人々、パリ	1963	ゼラチン・シルヴァー・プリント	40.0×50.0
ウィリアム・クライン	煙十ペール	1958	ゼラチン・シルヴァー・プリント	60.0×50.0
ウィリアム・クライン	楽屋のモデルたち、パリ	1965	ゼラチン・シルヴァー・プリント	50.0×40.0
エドワード・スタイケン	ナティカ・ナスト	不詳	ゼラチン・シルヴァー・プリント	25.4×20.3
エドワード・スタイケン	F. A. ワイマン夫人	1931	ゼラチン・シルヴァー・プリント	25.0×20.0
エドワード・スタイケン	無題	不詳	ゼラチン・シルヴァー・プリント	25.4×20.3
メルヴィン・ソコルスキー	デルボーに捧ぐ	1963	ゼラチン・シルヴァー・プリント	50.8×40.6
メルヴィン・ソコルスキー	木立のなかで	1963	ゼラチン・シルヴァー・プリント	50.8×40.6
セシル・ビートン	エドワード朝様式の室内にいるメアリー・テイラー、「ヴォーグ」より	1935	ゼラチン・シルヴァー・プリント	25.4×20.2
セシル・ビートン	題不詳(1947 Nov.28)	1947	ゼラチン・シルヴァー・プリント	25.4×20.6
セシル・ビートン	題不詳(1947 Nov.10)	1947	ゼラチン・シルヴァー・プリント	25.4×20.6
セシル・ビートン	題不詳	不詳	ゼラチン・シルヴァー・プリント	25.4×20.6
セシル・ビートン	題不詳	不詳	ゼラチン・シルヴァー・プリント	25.8×20.6
セシル・ビートン	題不詳	不詳	ゼラチン・シルヴァー・プリント	25.8×20.7
ジョージ・ホイニンゲン=ヒューネ	ロレッタ・ヤング	不詳	ゼラチン・シルヴァー・プリント	25.3×20.3
ジョージ・ホイニンゲン=ヒューネ	イリナ・バラノヴァとニニ・テイラー	1940	ゼラチン・シルヴァー・プリント	26.1×32.8

所蔵作品一覧

写真

作家名	作品名	制作年(西暦)	技法	サイズ(cm)
ゲオルグ・ホイニンゲン=ヒューネ	ドラマティック・イヴニング・ケープ	1938	ゼラチン・シルヴァー・プリント	22.0×28.4
ベルナール・フォコン	到着 〈夏休み〉より	1978	フレッソソ・プリント	60.0×60.0
ベルナール・フォコン	悪魔のミントシロップ 〈夏休み〉より	1980	フレッソソ・プリント	60.0×60.0
ベルナール・フォコン	島の祭り 〈時の不確かな進化〉より	1983	フレッソソ・プリント	60.0×60.0
ベルナール・フォコン	アントワヌ 〈偶像と生贄〉より	1991	フレッソソ・プリント	60.0×60.0
ベルナール・フォコン	小さな木 〈偶像と生贄〉より	1991	フレッソソ・プリント	60.0×60.0
ベルナール・フォコン	ミュケナイの門 〈偶像と生贄〉より	1991	フレッソソ・プリント	60.0×60.0
ベルナール・フォコン	デIMITRI 〈偶像と生贄〉より	1991	フレッソソ・プリント	60.0×60.0
アーヴィン・プリューメンフェルド	「エイジ・オブ・エレガンス」(10点組)	1984	ダイ・トランスファー・プリント	各50.8×40.1
ホルスト P. ホルスト	白い袖、パリ	1936	ゼラチン・シルヴァー・プリント	27.9×35.6
サラ・ムーン	『ヴォーグ』より	1973	ダイ・トランスファー・プリント	19.7×30.0
マーティン・ムンカッチ	ニューヨーク万国博覧会 『ハーバース・バザー』1938年9月号	1938	ゼラチン・シルヴァー・プリント	30.5×24.0
マーティン・ムンカッチ	ルシール・ブロコウ 『ハーバース・バザー』1933年12月号	1933	ゼラチン・シルヴァー・プリント	35.6×27.9
マーティン・ムンカッチ	『ハーバース・バザー』1936年6月号	1936	ゼラチン・シルヴァー・プリント	27.9×35.6
バロン・ド・メイヤー	ミスタンゲット	1920	ゼラチン・シルヴァー・プリント	24.1×18.4
バロン・ド・メイヤー	コンデ・ナスト夫人	1925	ゼラチン・シルヴァー・プリント	24.1×18.7
ピーター・リンドバーグ	ジゼル、ドーヴィルにて、フランス『ヴォーグ』より	1990	ゼラチン・シルヴァー・プリント	30.6×20.5
ピーター・リンドバーグ	ジゼル、ドーヴィルにて、フランス『ヴォーグ』より	1990	ゼラチン・シルヴァー・プリント	20.4×30.6
ピーター・リンドバーグ	ジゼル、ドーヴィルにて、フランス『ヴォーグ』より	1990	ゼラチン・シルヴァー・プリント	30.5×20.4
ルトランジェ	題不詳	1900頃	ゼラチン・シルヴァー・プリント	27.0×17.9
ルトランジェ	題不詳	1900頃	ゼラチン・シルヴァー・プリント	16.2×12.5
ルトランジェ	題不詳	1900頃	ゼラチン・シルヴァー・プリント	18.4×12.6
ルトランジェ	題不詳	1900頃	ゼラチン・シルヴァー・プリント	27.1×18.0
ルトランジェ	題不詳	1900頃	ゼラチン・シルヴァー・プリント	19.2×12.9

受贈作品一覧

島根県立石見美術館 受贈作品一覧（平成11～17年度）

受贈年度	作家名	作品名	制作年	技法、材質
平成11年度	岡野 洞山	竹林七賢、商山四皓	1848	紙本墨画淡彩
平成12年度	大下藤次郎	資料、遺品20件		
平成13年度	山崎 修二	初冬	1936	油彩・カンヴァス
平成13年度	山崎 修二	緑の静物	1955	油彩・カンヴァス
平成13年度	山崎 修二	二人の少女	1931	油彩・カンヴァス
平成13年度	山崎 修二	窓辺の静物	1950	油彩・カンヴァス
平成13年度	山崎 修二	風景(仮題)	1941	油彩・カンヴァス
平成13年度	山崎 修二	山懐の早春	1953	油彩・カンヴァス
平成13年度	山崎 修二	髪	1939	油彩・カンヴァス
平成13年度	山崎 修二	少女像	1931	油彩・カンヴァス
平成13年度	山崎 修二	夏	1936	油彩・カンヴァス
平成13年度	山崎 修二	残雪のある庭	1938	油彩・カンヴァス
平成13年度	山崎 修二	港通りの家	1998	油彩・カンヴァス
平成13年度	山本 琴谷	瀧見観音図	江戸時代末期	紙本墨画淡彩
平成13年度		大下藤次郎資料144件		
平成13年度		宮芳平資料 (拓本2点、写真1点)		
平成14年度	雲谷 等的	山水図	江戸時代前期	紙本墨画
平成14年度	斎藤 等室	山水図	江戸時代前期	紙本墨画
平成15年度	大下藤次郎	アルバム、資料19件		
平成17年度	山本 琴谷	月下横臥図	1860	絹本淡彩
平成17年度	ジャンーエミール・ラブレール	マリー・ローランサンの肖像	1914	木版、紙
平成17年度	ジャンーエミール・ラブレール	ビュット・ショーモン公園風景	1921	エッチング、紙
平成17年度	森 英恵	イブニング・ドレス 「花の白いドレス」	1981	白い絹クレープのワンピースドレス、 絹サテンとビーズのアップリケ
平成17年度	森 英恵	イブニング・ドレス	1981	黒い絹クレープのワンピースドレス、 絹サテンとビーズのアップリケ
平成17年度	森 英恵	イブニング・ドレス 「赤い蝶のドレス」	1990	赤い絹クレープのワンピースドレス
平成17年度	森 英恵	イブニング・ドレス 「蝶を染めたベルベットのドレス」	1996	ピンク色絹ベルベットのワンピースドレス
平成17年度	森 英恵	イブニング・ドレス 「北斎の版画のように、 山の風景を染めた絹のドレス」	1996	墨絵風の柄をプリントした絹シフォン、 絹サテンのワンピースドレス

所蔵作品貸出実績

島根県立石見美術館(島根県芸術文化センター建設室) 所蔵作品貸出実績
平成13年度～17年度

作家名	作品名	展覧会名、会期、会場
大下藤次郎	《溪流》、《白丸》、《秋》、《朝》、《西山峠》	「憧れの山々一山を愛し、山を描くー」展 平成13年8月4日～9月24日 町田市立国際版画美術館
藤島武二	《西洋婦人像》	「藤島武二展」 平成14年4月6日～6月2日 石橋財団プリズトン美術館 平成14年6月11日～8月4日 石橋財団石橋美術館
大下藤次郎	《波》、《多摩川畔》、《穂高山の残雪》 《舞踊図屏風》	「きらめく光ー日本とヨーロッパの点描表現ー」 平成15年2月4日～4月14日 静岡県立美術館 「特別展 阿国とその時代」 平成15年4月3日～6月18日 出雲市立出雲文化伝承館
大下藤次郎	《下駄屋の店先》、《多摩川上流》、《日光》、 《越ヶ谷》、《宮の下》、《シドニー》、 《プリスパーン河》、《信州の夏》、《城跡》、 《河原》、《秋の雲》、《村の寺》、《秋谷の漁村》、 《富士山》、《檜原湖の秋》、《猪苗代》	「もうひとつの明治美術ー明治美術会から太平洋画会へ」 平成15年7月19日～8月24日 静岡県立美術館 平成15年9月6日～10月19日 府中市美術館 平成15年10月25日～12月7日 長野県信濃美術館 平成15年12月16日～平成16年2月1日 岡山県立美術館
香月泰男	《鯉と犬》	「没後30年 香月泰男展」 平成16年2月7日～3月28日 東京ステーションギャラリー 平成16年4月6日～5月23日 山口県立美術館 平成16年6月2日～7月11日 北海道立近代美術館 平成16年7月31日～9月19日 茨城県近代美術館 平成16年9月24日～10月24日 石川県立美術館 平成16年11月2日～12月12日 静岡県立美術館
	《遊楽美人図》	「伝説の浮世絵開祖 岩佐又兵衛」 平成16年10月9日～11月23日 千葉市美術館
大下藤次郎	《日光》、《秋の雲》	「日本絵画・20世紀の草創」 平成16年10月28日～平成17年1月14日 下関市立美術館
岸田劉生	《静物》	「りんごの美術展」 平成17年4月23日～6月5日 ひろしま美術館
安井曾太郎	《水浴図》	「没後50年 安井曾太郎展」 平成17年4月16日～6月5日 宮城県美術館 平成17年6月11日～7月31日 茨城県近代美術館 平成17年8月6日～9月25日 三重県立美術館

入館者数一覧・ミュージアムパスポート会員数一覧

入館者数一覧・ミュージアムパスポート会員数一覧

1. 入場者数

	グラントワ 入場者数	美術館			美術館合計	ホール			ホール合計
		企画展	コレクション展	その他		大ホール	小ホール	その他	
10月	67,311	12,597	12,693	0	25,290	10,922	3,258	1,190	15,370
11月	72,837	14,632	15,313	336	30,281	11,836	3,489	125	15,450
12月	44,194	1,429	2,893	2,972	7,294	10,990	2,410	768	14,168
1月	44,911	10,319	10,256	0	20,575	3,314	4,342	507	8,163
2月	29,600	0	2,378	0	2,378	3,829	4,020	1,310	9,159
3月	47,175	6,814	6,705	0	13,519	8,215	4,423	701	13,339
合計	306,028	45,791	50,238	3,308	99,337	49,106	21,942	4,601	75,649

2. 観覧者数

	企画展							
	前売券	当日券				ミュージアム パスポート	招待券	小計
		個人	割引券	団体・割引	無料券			
10月	1,105	5,173	361	599	379	2,351	2,629	12,597
11月	1,802	4,662	460	809	1,944	2,512	2,443	14,632
12月	56	296	39	301	81	480	176	1,429
1月	561	2,438	290	899	643	3,192	2,296	10,319
2月	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	642	1,678	302	1,112	516	1,761	803	6,814
合計	4,166	14,247	1,452	3,720	3,563	10,296	8,347	45,791

	コレクション展						合計	
	前売券	当日券			ミュージアム パスポート	招待券		小計
		個人	団体・割引	無料券				
10月	1,083	5,290	907	376	2,351	2,686	12,693	23,350
11月	1,631	5,079	1,534	1,941	2,660	2,468	15,313	29,945
12月	51	827	413	593	788	221	2,893	4,322
1月	581	2,233	911	959	3,260	2,312	10,256	20,575
2月	0	709	480	576	498	115	2,378	2,378
3月	641	1,715	1,328	527	1,772	722	6,705	13,519
合計	3,987	15,853	5,573	4,972	11,329	8,524	50,238	94,089

3. 企画展観覧者数

展覧会名	会期	開催日数	入館者数
華やぐ女たち エルミタージュ美術館展 ルネサンスから新古典まで	10月8日(土)～11月23日(水)	45	27,229
江戸の奇才 北斎展—葛飾北斎とその弟子たち	12月23日(金)～1月23日(月)	26	11,748
ウィーン展 華麗なる美術と音楽のしらべ	3月3日(金)～3月31日(～6月5日)	26	6,814
合計		97	45,791

4. ミュージアム・パスポート会員数

	平成17年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
加入数	0	268	341	187	450	706	1,487	948	126	464	38	151
会員数	0	268	609	796	1,246	1,952	3,439	4,387	4,513	4,977	5,015	5,166

■島根県立石見美術館の平成17年度予算概要

(1) 支出予算

単位:千円

展覧会事業費	
企画展示費	179,000
常設展示費	12,392
教育普及費	4,195
調査研究費	7,000
情報提供事業費	5,308
美術品保存分	5,575
その他	1,054
小計	214,524
住民への情報提供事業	2,042
開設準備委員会	980
開設準備費	15,816
開館記念事業費	131,884
アドバイザー協議費	664
センター運営費	53,280
指定管理委託費	287,696
建設事業費	1,144,800
小計	1,637,162
合計	1,851,686
使用料・手数料	40,340
一般財源	796,346
県債	1,013,000
その他	2,000

(2) 収入実績

単位:千円

企画展	20,747
常設展	3,795
パスポート	14,835
その他	1,050
合計	40,427

※助成金、図録販売

島根県芸術文化センター条例

平成16年10月12日
島根県条例第51号

島根県芸術文化センター条例をここに公布する。

島根県芸術文化センター条例

(趣旨)

第1条 この条例は、島根県芸術文化センターの設置及び管理について必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 多様で質の高い美術、音楽、演劇その他の芸術文化の鑑賞及び創造の機会を提供し、もって芸術文化の振興及び県民生活の向上を図るため、島根県芸術文化センター（以下「センター」という。）を益田市に設置する。

2 センターは、次に掲げる施設をもって構成する。

- (1) 島根県立石見美術館（以下「美術館」という。）
- (2) 島根県立いわみ芸術劇場（以下「芸術劇場」という。）

(業務)

第3条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 美術品及び美術に関する資料（以下「美術品等」という。）の収集、保管及び展示に関すること。
- (2) 美術に関する教育及び普及並びに調査研究に関すること。
- (3) センターの施設及び設備（以下「施設等」という。）で別表第1に掲げるもの（以下「有料施設等」という。）を一般の利用に供すること。
- (4) 音楽、演劇その他の鑑賞を目的とした事業に関すること。
- (5) 芸術文化に関する情報の収集及び提供に関すること。
- (6) 前各号に掲げるもののほか、センターの目的を達成するために必要な業務に関すること。

(職員)

第4条 センターに、センター長その他の職員を置く。

(指定管理者による管理)

第5条 センターの管理は、法人その他の団体であって、知事及び教育委員会（以下「知事等」という。）が指定するもの（以下「指定管理者」という。）にこれを行わせるものとする。

(指定管理者が行う業務)

第6条 指定管理者は、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) 有料施設等の利用の許可に関する業務
- (2) 美術館の観覧料の徴収に関する業務
- (3) 施設等の維持管理に関する業務
- (4) センターを利用した第3条第4号及び第5号の業務
- (5) 前各号に掲げるもののほか、センターの運営に関する事務のうち、知事等が必要と認める業務

(指定管理者の指定の申請等)

第7条 知事等は、指定管理者を指定しようとするときは、特別の事情があると認める場合を除き、公募するものとする。

2 第5条の規定による指定を受けようとするものは、申請書に事業計画書その他規則及び教育委員会規則（以下「規則等」という。）で定める書類を添付して、知事等が定める期日までに知事等に提出しなければならない。

(指定管理者の指定)

第8条 知事等は、次の各号に掲げる基準をいずれも満たすもののうち、センターの管理を行わせるのに最も適した団体を候補者として選定し、議会の議決を経て指定管理者を指定するものとする。

- (1) 事業計画書の内容が、住民の平等な利用が図られるものであること及びサービスの向上が図られるものであること。
- (2) 事業計画書の内容が、複合施設としてのセンターの効用を最大限に発揮させるものであること。
- (3) 事業計画書の内容が、施設等の適切な維持管理を図ることができるものであること及び管理に係る経費の縮減が図られるものであること。
- (4) 当該団体が、事業計画書に沿った管理を安定して行う財政的基礎及び人的能力を有するものであること。

(事業報告書の作成及び提出)

第9条 指定管理者は、規則等で定める日までに、センターの管理の業務に関し、規則等で定める内容を記載した事業報告書を作成し、知事等に提出しなければならない。

(業務報告の聴取等)

第10条 知事又は教育委員会は、センターの管理の適正を期するため、指定管理者に対し、その管理の業務又は経理の状況に関し定期に又は必要に応じて臨時に報告を求め、実地に調査し、又は必要な指示をすることができる。

(指定の取消し等)

第11条 指定管理者が前条の指示に従わないとき、その他指定管理者の責めに帰すべき事由により当該指定管理者による管理を継続することができないと認めるときは、知事等はその指定を取り消し、若しくは期間を定めて管理の業務の全部の停止を命じ、又は知事若しくは教育委員会は期間を定めて管理の業務の一部の停止を命ずることができる。

2 前項の規定により指定管理者の指定が取り消され新たな指定管理者がセンターの管理を行うまでの期間又は指定管理者が管理の業務の全部若しくは一部の停止を命ぜられた期間におけるセンターの管理は、必要に応じて知事又は教育委員会が行うものとする。この場合において、次条から第18条まで、第23条及び第24条の規定中指定管理者の権限とされているものについては、知事又は教育委員会の権限とする。

島根県芸術文化センター条例

- 3 第1項の規定により指定を取り消し、又は期間を定めて管理の業務の全部若しくは一部の停止を命じた場合において指定管理者に損害が生じて、知事等はその賠償の責めを負わない。

(開館時間等)

第12条 センターの開館時間は、午前9時から午後10時までとする。

- 2 センターの利用時間は、次の各号に掲げる施設の区分に応じ、当該各号に定めるところによる。

- (1) 美術館 午前9時から午後5時30分まで
- (2) 芸術劇場 午前9時から午後10時まで

- 3 前2項の規定にかかわらず、指定管理者は、必要があると認めるときは、知事又は教育委員会の承認を受けて、開館時間又は利用時間を変更することができる。

(休館日)

第13条 センターの休館日は、次のとおりとする。ただし、指定管理者は、必要があると認めるときは、知事又は教育委員会の承認を受けて、これを変更することができる。

- (1) 毎月第2火曜日及び第4火曜日（美術館にあっては、毎週火曜日）
- (2) 12月30日から翌年の1月3日まで

- 2 前項第1号の規定にかかわらず、同号に規定する日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日当たるときは、その翌日以降の最初の休日でない日を休館日とする。

(平17条例39・一部改正)

(利用の許可等)

第14条 有料施設等を利用しようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。許可に係る事項を変更しようとするときも、同様とする。

- 2 指定管理者は、有料施設等の利用の目的、方法等が次の各号のいずれかに該当するときは、前項の許可をしないものとする。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗に反するおそれがあると認められるとき。
- (2) 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団の財産上の利益になるおそれがあると認められるとき。
- (3) 長期間にわたる継続利用により他の利用を妨げるおそれがあると認められるとき。
- (4) センターの施設又は設備を損壊するおそれがあると認められるとき。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、センターの管理に支障があると認められるとき又は規則で定める事由に該当すると認められるとき。

- 3 指定管理者は、センターの管理上必要があると認めるときは、第1項の許可に条件を付することができる。

(許可の取消し等)

第15条 指定管理者は、前条第1項の許可を受けた者（以下「利用者」という。）が、次の各号のいずれかに該当するとき、又は天災地変その他センターの管理上特に必要があるときは、許可を取り消し、同条第3項の規定により許可に付した条件を変更し、又は利用の中止を命ずることができる。

- (1) この条例又はこの条例に基づく規則等の規定に違反したとき。
- (2) 前条第3項の規定により許可に付した条件に違反したとき。
- (3) 偽りその他不正の手段により許可を受けたとき。

(利用料金)

第16条 利用者は、有料施設等の利用に係る料金（以下「利用料金」という。）を指定管理者に支払わなければならない。

- 2 利用料金は、指定管理者が認めた場合を除き、第14条第1項の許可をするときに徴収する。
- 3 利用料金は、指定管理者にその収入として収受させる。
- 4 利用料金は、別表第1に掲げる基準額に0.8を乗じて得た額から当該基準額に1.2を乗じて得た額までの範囲内の額で、指定管理者が知事の承認を受けて定める額とする。

(利用料金の減免)

第17条 指定管理者は、公益上特に必要があると認めるときは、利用料金を減免することができる。

(利用料金の不還付)

第18条 既に納入された利用料金は、還付しない。ただし、次の各号のいずれかに該当するときは、指定管理者は、利用料金の全部又は一部を還付することができる。

- (1) 利用者が、その責めに帰することができない理由により有料施設等を利用することができなくなったとき。
- (2) 指定管理者が、センターの管理上特に必要があるため第15条の規定により利用の許可を取り消したとき。
- (3) 利用者が、利用開始の前で指定管理者が定める日までに利用の中止を申し出たとき。

(利用権の譲渡等の禁止)

第19条 利用者は、有料施設等の利用の権利を他人に譲渡し、又は転貸してはならない。

(観覧料)

第20条 美術館に展示する美術品等を観覧しようとする者（次に掲げる者を除く。）は、別表第2又は別表第3に定める観覧料を納付しなければならない。

- (1) 未就学児
- (2) 常設展（常設展示室における展示をいう。以下同じ。）を観覧しようとする小学校の児童並びに中学校及び高等学校の生徒並びにこれらに準ずる者

島根県芸術文化センター条例

(観覧料の減免)

第21条 教育委員会は、公益上特に必要があると認めるときは、観覧料を減免することができる。

(観覧料の不還付)

第22条 既に納付された観覧料は、還付しない。ただし、教育委員会が特に必要と認めるときは、この限りでない。

(指定管理者の指示)

第23条 指定管理者は、センターの管理上必要があると認めるときは、センターを利用する者に対し、当該利用する者が遵守すべき事項に関し必要な指示をすることができる。

(入館の制限)

第24条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、センターへの入館を拒否し、又はセンターからの退去を命ずることができる。

- (1) センターの施設若しくは設備又は美術館に展示する美術品若しくは美術に関する資料を損壊するおそれがある者
- (2) 他人に危害を加え、又は迷惑になる行為をする者
- (3) 前2号に掲げる者のほか、センターの管理上支障があると認められる者

(損害賠償)

第25条 指定管理者又はセンターを利用する者は、故意又は過失により、センターの施設若しくは設備又は美術館に展示する美術品若しくは美術に関する資料を損壊し、又は滅失したときは、これによって生じた損害を賠償しなければならない。

(秘密保持義務)

第26条 指定管理者若しくは指定管理者であったもの又は第6条の業務に従事している者若しくは従事していた者は、その業務に関して知り得た管理上の秘密をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に利用してはならない。

(原状回復義務)

第27条 指定管理者は、その指定の期間が満了したとき、又は第11条第1項の規定により指定を取り消され、若しくは期間を定めて管理の業務の全部若しくは一部の停止を命ぜられたときは、その管理をしなくなった施設等を速やかに原状に回復しなければならない。ただし、知事又は教育委員会の承認を受けたときは、この限りでない。

2 利用者は、有料施設等の利用が終わったとき、又は第15条の規定により許可を取り消され、若しくは利用の中止を命ぜられたときは、その利用した有料施設等を原状に復し、又は搬入した物件を撤去しなければならない。

(センター協議会)

第28条 センターにセンター協議会（以下「協議会」という。）を置く。

- 2 協議会は、センターの運営に関しセンター長の諮問に応ずるとともに、センター長に対して意見を述べる機関とする。
- 3 協議会の委員（以下「委員」という。）の定数は、15人以内とする。
- 4 委員の任期は、2年とする。ただし、欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委任)

第29条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則等で定める。

(罰則)

第30条 知事は、詐欺その他不正の行為により、観覧料の徴収を免れた者については、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額（当該5倍に相当する金額が5万円を超えないときは、5万円とする。）以下の過料を科することができる。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成17年4月1日から施行する。ただし、次項及び附則第3項の規定は、公布の日から施行する。

(準備行為)

- 2 第8条に規定する指定及びこれに関し必要なその他の行為は、この条例の施行前においても第7条の規定の例により行うことができる。
- 3 センターの供用開始の日以後の利用に係る有料施設等の利用の許可に関し必要な準備行為は、この条例の施行の日（以下「施行日」という。）前においても行うことができる。

(供用開始)

4 センターは、知事が別に定める日から供用を開始する。

(知事が別に定める日＝平成17年10月8日)

(経過措置)

5 施行日から前項に規定する供用を開始する日までの間は、第12条、第13条及び第28条の規定は、適用しない。

附 則（平成17年条例第39号）

この条例は、平成18年4月1日から施行する。ただし、第2条の規定は、公布の日から施行する。

島根県芸術文化センター条例

別表第1（第3条関係）

1 施設の基準額

(1) 大ホール等

区分			基準額					
			午前9時から 正午まで	午後1時から 午後5時まで	午後6時から 午後10時まで	午前9時から 午後5時まで	午後1時から 午後10時まで	午前9時から 午後10時まで
大 ホ ー ル	1階席 及び 2階席	平日	円 30,640	円 40,860	円 51,070	円 61,290	円 81,720	円 102,150
		土、日曜日 及び休日	36,760	49,030	61,280	73,540	98,060	122,580
	1階席	平日	20,430	27,240	34,050	40,860	54,480	68,100
		土、日曜日 及び休日	24,510	32,680	40,860	49,030	65,370	81,720
	小ホール	平日	8,170	10,890	13,620	16,340	21,790	27,240
		土、日曜日 及び休日	9,800	13,060	16,340	19,600	26,140	32,680
スタジオ1			4,620	6,160	7,700	9,240	12,320	15,410
スタジオ2			950	1,270	1,590	1,900	2,540	3,180
大ホール大楽屋1			2,070	2,760	3,460	4,150	5,530	6,920
大ホール大楽屋2			2,070	2,760	3,460	4,150	5,530	6,920
大ホール中楽屋1			830	1,110	1,390	1,660	2,220	2,780
大ホール中楽屋2			830	1,110	1,390	1,660	2,220	2,780
大ホール中楽屋3			830	1,110	1,390	1,660	2,220	2,780
大ホール中楽屋4			830	1,110	1,390	1,660	2,220	2,780
大ホール小楽屋1			580	780	970	1,170	1,560	1,950
大ホール小楽屋2			580	780	970	1,170	1,560	1,950
小ホール中楽屋1			760	1,010	1,270	1,520	2,030	2,540
小ホール中楽屋2			760	1,010	1,270	1,520	2,030	2,540
小ホール小楽屋1			580	780	970	1,170	1,560	1,950
小ホール小楽屋2			580	780	970	1,170	1,560	1,950
多目的ギャラリー			3,830	5,110	6,390	7,670	10,220	12,780

備考

- 入場料その他これに類する料金（以下「入場料」という。）を徴収して大ホール又は小ホールを利用する場合の基準額は、この表に定める基準額に、次に掲げる入場料の額（入場料の額に2以上の区分があるときは、そのうちの最高額）の区分に応じた額を加算した額とする。
ア 3,000円以下のもの 10割相当額（徴収する入場料の額が1,000円以下で、かつ、営利を目的としない場合にあっては、5割相当額）
イ 3,000円を超え、5,000円以下のもの 15割相当額
ウ 5,000円を超えるもの 20割相当額
- 入場料を徴収しないが営利を目的として、大ホール又は小ホールを利用する場合の基準額は、この表に定める基準額に10割相当額を加算した額とし、入場料を徴収し、又は入場料を徴収しないが営利を目的としてスタジオ1、スタジオ2又は多目的ギャラリーを利用する場合の基準額は、この表に定める基準額に5割相当額を加算した額とする。
- 楽屋を他の用途に利用する場合の基準額は、この表に定める基準額に5割相当額を加算した額とする。
- この表に定める利用時間を超えて利用する場合の基準額は、この表に定める基準額（前3号の規定により加算した場合は、その加算した額を含む。）に、1時間までごとに、当該基準額の1時間当たりの額を加算した額とする。
- 大ホール、小ホール、スタジオ1、スタジオ2又は多目的ギャラリーを準備のために利用する場合の基準額は、この表に定める基準額（備考第1号若しくは第2号又は前号の規定により加算した場合は、その加算した額を含む。）の5割相当額とする。
- 冷暖房期間（11月1日から翌年の3月31日まで及び6月1日から9月30日までの間をいう。）において冷暖房料を徴収する場合の基準額は、この表に定める基準額（前各号の規定により加算した場合は、その加算した額を含む。）の3割相当額とする。
- 休日とは、国民の祝日に関する法律に規定する休日をいう（（2）の表において同じ。）。

島根県芸術文化センター条例

- 8 備考第1号から第6号までにおいて算出した額に10円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てる。
 (2) その他

区分	単位	基準額
屋外施設	1平方メートルにつき1日までごと	7円

備考

- 1 「屋外施設」とは、前庭広場、中庭広場及び駐車場をいう。
 - 2 屋外施設は、知事が定める用途に限り、利用することができる。
 - 3 屋外施設を日曜日、土曜日又は休日に利用する場合の基準額は、この表に定める基準額に2割相当額を加算した額とする。
 - 4 「1日」とは、午前9時から午後10時までをいう。
- 2 設備の基準額

種別	単位	基準額
舞台大道具及び小道具	1回1点につき	知事が定める額
舞台関係設備	1回1点につき	知事が定める額
音響関係設備	1回1点につき	知事が定める額
楽器	1回1点につき	知事が定める額
映写機	1回1点につき	知事が定める額
その他設備器具	1回1点につき	知事が定める額

備考 「1回」とは、午前9時から正午まで、午後1時から午後5時まで又は午後6時から午後10時までのそれぞれの時間帯における利用をいう。

別表第2（第20条関係）

区分		観覧料の額（1人1回につき）	
		個人の場合	団体（20人以上の場合をいう。）の場合その他教育委員会規則で定める割引制度に該当する場合
常設展	大学の学生又はこれに準ずる者	200円	160円
	その他の者	300円	240円
企画展		その都度教育委員会が定める額	

備考

- 1 「企画展」とは、常設展以外の展示で特別の企画に基づくものをいう。
- 2 常設展と企画展とを同日中に観覧しようとする者の常設展の観覧料の額は、この表に定める額の5割相当額とする。

別表第3（第20条関係）

区分	年間観覧料（同一人が1年間に常設展又は企画展を観覧する場合の観覧料）の額
小学校の児童、中学校若しくは高等学校の生徒又はこれらに準ずる者	1,500円以内で教育委員会が定める額
大学の学生又はこれに準ずる者	3,000円以内で教育委員会が定める額
その他の者	5,000円以内で教育委員会が定める額

島根県立石見美術館管理規則をここに公布する。

島根県立石見美術館管理規則

(趣旨)

第1条 この規則は、島根県芸術文化センター条例（平成16年島根県条例第51号。以下「条例」という。）第29条に基づき、島根県立石見美術館（以下「美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(指定管理者の申請に関する書類)

第2条 条例第7条第2項の申請書は、指定管理者指定申請書（様式第1号）によらなければならない。

2 条例第7条第2項の教育委員会規則で定める書類は、次のとおりとする。

- (1) 定款、寄附行為、規約その他これらに準ずる書類
- (2) 法人にあつては、当該法人の登記事項証明書
- (3) 前項の申請書を提出する日の属する事業年度の事業計画書及び収支予算書並びに過去2年間の事業報告書、収支計算書、貸借対照表及び財産目録又はこれらに準ずる書類
- (4) 役員の名簿及び略歴を記載した書類
- (5) 団体の概要を記載した書類
- (6) 前各号に掲げるもののほか、教育委員会（以下「委員会」という。）が必要と認める書類
(平17教委規則14・一部改正)

(事業報告書の内容等)

第3条 条例第9条の規則等で定める日は、毎会計年度終了後60日とする。ただし、条例第11条第1項の規定により指定管理者の指定を取消された場合は、その取消の日から60日とし、その報告の対象となる期間は当該取消の前日までとする。

2 条例第9条の規則等で定める内容は、次のとおりとする。

- (1) 美術館の管理の体制
- (2) 美術館の管理業務の実施状況及び使用の実績
- (3) 美術館の管理に要した経費の収支状況
- (4) 前各号に掲げるもののほか、美術館の管理に関し委員会が必要と認める事項

(観覧料の納付)

第4条 観覧料は、前納とする。ただし、委員会が特に認めた場合は、後納とすることができる。

(年間観覧券)

第5条 年間観覧料を支払った者に対しては、年間観覧券を交付するものとし、その有効期間は、年間観覧券を交付した日から起算して1年間とする。

2 年間観覧券の使用は、同一人に限るものとする。

(観覧料の減免)

第6条 次の各号に掲げる者（条例別表第2個人の場合の欄に該当する場合に限る。）が、美術館の展示する美術品及び美術に関する資料を観覧しようとするときは、条例第21条の規定により、条例別表第2個人の場合の欄に定める額（以下この項において「観覧料の額」という。）から当該各号に定める額を減免することができる。

- (1) 小学校の児童、中学校若しくは高等学校の生徒又はこれらに準ずる者で、学校が編成した教育課程に基づく活動により教職員に引率されて観覧する者 観覧料の全額
- (2) 前号に掲げる者を引率する教職員 観覧料の額の全額
- (3) 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の身体障害者手帳、療養手帳（知的障害者の福祉の充実を図るため、児童相談所又は知的障害者更生相談所において知的障害者と判定された者に対して交付される手帳で、その者の障害の程度その他の事項の記載があるものをいう。）又は精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条第2項の精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者（以下次項において「障害者」という。）観覧料の額の全額
- (4) 障害者の付添人（原則として障害者の人数と同じ人数までに限る。）観覧料の額の全額
- (5) 前各号に掲げるもののほか、委員会が特別の理由があると認める者 委員会が別に定める額

2 前項の規定により観覧料の減免を受けようとする者は、あらかじめ、観覧料減免申請書（様式第2号）を提出し、委員会の承認を受けなければならない。ただし、前項第3号及び第4号に規定する者については、この限りでない。

(観覧料の割引制度)

第7条 条例別表第2に規定する教育委員会規則で定める割引制度は、次に掲げる事項とする。

- (1) 他の観光施設等の管理者等と共同で発行する共通割引券を利用して観覧する場合
- (2) 別に定める者が運営する交通機関を利用する者が、別に定める乗車券等を提示して観覧する場合
- (3) 前2号に掲げるもののほか、美術館の利用を促進するものとして特に必要と認める場合

(センター協議会)

第8条 センター協議会に関し必要な事項は、別に定める。

(委任)

第9条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則（平成17年教委規則第14号）

この規則は、交付の日から施行する。

様式第1号（第2条関係）

指定管理者指定申請書

年 月 日

様

所在地

申請者 名称

代表者氏名

印

島根県芸術文化センターの指定管理者について指定を受けたいので、島根県芸術文化センター条例第7条第2項の規程に基づき下記のとおり申請します。

記

団体名			
代表者職・氏名			
主たる事務所の所在地			
設立年月日	年 月 日	構成員の 人数	人
資本金			円
提携団体（他団体と連携して管理を行う場合に記入すること。）			

様式第2号（第6条関係）

島根県立石見美術館観覧料減免申請書

年 月 日

様

住所〒

(団体にあっては、主たる事務所の所在地)

氏名

申請者

(団体にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号（自宅及び勤務先）

下記のとおり観覧料の減免を受けたいので申請します。

記

観覧期日	年 月 日()曜日		
展覧会名			
減免を申請する理由	<input type="checkbox"/> 小学校の児童、中学校若しくは高等学校の生徒又はこれらに準ずる者が、学校が編成した教育課程に基づく活動により教職員に引率されて観覧する場合 <input type="checkbox"/> 上記の者を教職員が引率する場合 <input type="checkbox"/> その他の場合 ()		
区分	正規の観覧料	※減免率	※減免後の観覧料
小学校の児童、中学校若しくは高等学校の生徒又はこれらに準ずる者	円× 人＝ 円	%	円
上記を引率する教職員	円× 人＝ 円	%	円
その他の者	円× 人＝ 円	%	円
合計	円		円

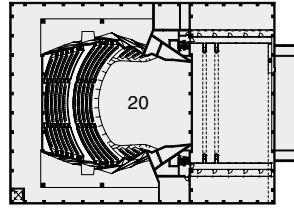
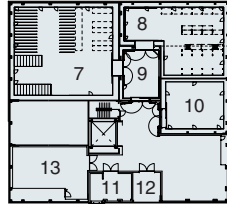
(注) ※印欄は、記載しないでください。

館の概要

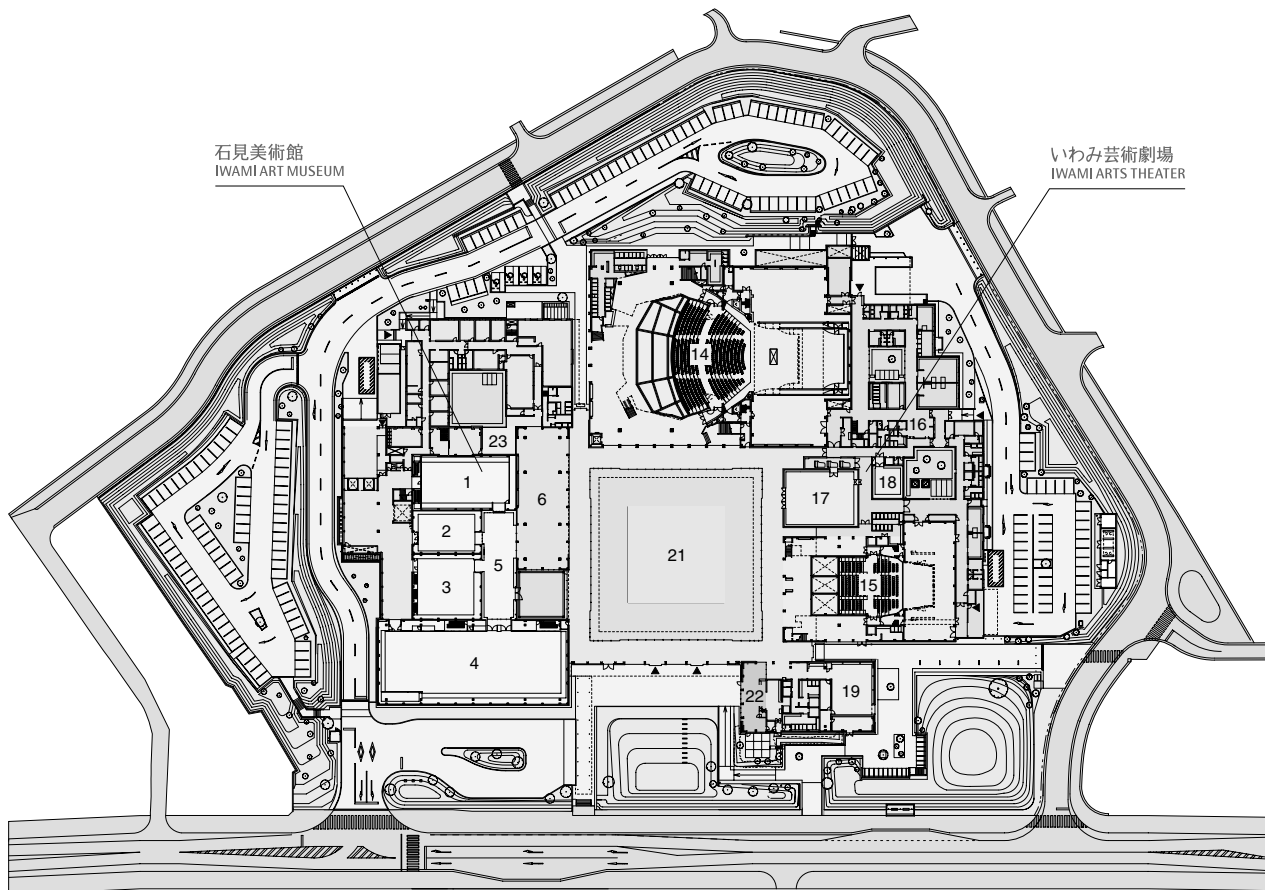
島根県芸術文化センター
SHIMANE ARTS CENTER

館の概要

2F



1F



石見美術館
IWAMI ART MUSEUM

いわみ芸術劇場
IWAMI ARTS THEATER

石見美術館

- | | |
|-----------|-----------|
| 1: 展示室A | 8: 収蔵庫2 |
| 2: 展示室B | 9: 収蔵庫前室 |
| 3: 展示室C | 10: 一時保管庫 |
| 4: 展示室D | 11: 修復室 |
| 5: 展示前室 | 12: 隔離室 |
| 6: 美術館ロビー | 13: 写真室 |
| 7: 収蔵庫1 | |

いわみ芸術劇場

- | | |
|--------------|----------------|
| 14: 大ホール | 20: 大ホール2F客席 |
| 15: 小ホール | 21: 中庭広場 |
| 16: 楽屋 | 22: レストラン |
| 17: スタジオ1 | 23: ミュージアムショップ |
| 18: スタジオ2 | |
| 19: 多目的ギャラリー | |

施設概要

■島根県芸術文化センター(島根県立石見美術館、島根県立いわみ芸術劇場)

[所在地]島根県益田市有明町5番15号
[設計期間]2001年4月~2002年7月
[工事期間]2002年11月~2005年3月

[設計]内藤廣建築設計事務所
[構造設計]空間工学研究所
[設備設計]明野設備研究所
[コンサルタント]

- 設計協力:江角彰宣・みずほ設計
- 舞台機構:シアターワークショップ
- 舞台照明:シアターワークショップ
- 舞台音響:唐澤誠建築音響設計事務所
- サイン:矢萩喜從郎
- 共同監理:島根県益田土木建築事務所

[敷地面積]36,564.16㎡
[建築面積]14,068.15㎡
[延床面積]19,252.45㎡
1階:13,313.01㎡、2階:2,893.78㎡
地下1階:3,045.66㎡
[建蔽率]38.4%(許容:60%)
[容積率]52.6%(許容:200%)
[用途]美術館・劇場
[規模]地上2階 地下1階
[最高高さ]32.24m
[構造]RC造、一部PC、S造

[設備]

- 空調設備、空調方式
ホール・美術館:単一ダクト方式
事務・ホール楽屋:ファンコイルユニット、単一ダクト方式
レストラン・ホール調整室:空冷パッケージ、全熱交換器方式
- 熱源
冷熱源:吸収式冷温水機、ブライン冷凍機(水蓄熱・追掛)、
空冷ヒートポンプチラー方式
氷製氷時は深夜電力利用(蓄熱製氷方式・ダイナミック型)
温熱源:吸収式冷温水機、空冷ヒートポンプチラー方式、
ボイラー方式
- 衛生設備
給水:受水槽、加圧給水ポンプ方式
給湯:楽屋・レストラン厨房=中央式(ガス給湯器)、
その他:局所式(電気温水器)
排水:建物内=汚・雑排水合流方式
建物外=合併浄化槽方式(放流水BOD 20mg/L以下)
- 電気設備
受電方式:高圧3相3線6.6KV 1回線
設備容量:6250kVA
契約電力:1500kVA
予備電源:高圧ガスタービン発電機 750kVA
- 防災設備
消火設備:
全館スプリンクラー設備
(ホール舞台部:開放型、その他:閉鎖型)
美術館展示室・収蔵庫=ハロゲン化物消火設備
(ハロンバンク登録)
補助散水栓
排煙:自然排煙、機械式排煙
その他:自動火災報知設備、非常放送設備、誘導灯設備、
非常用照明
昇降機:乗用エレベーター、荷物用エレベーター
特殊設備:水景設備(中庭)オーバーフロー循環方式・
砂濾過方式
- [施工]
●建築:
大成建設・大畑建設・日興建設特別共同企業体
●空調:
新菱冷熱・電設サービス・技研設備特別共同企業体
●衛生:
新日本空調・吉村設備・角田工業特別共同企業体
●強電:
中電工・北陽・山代特別共同企業体

- 弱電:
栗原工業
- 舞台機構:
森平舞台機構
- 舞台照明:
丸茂電機
- 舞台音響:
ヤマハサウンドテック
- 非常用発電:
東芝
- エレベーター:
東芝エレベータ
- 浄化槽:
アルファプランニングワーク
- 外構:
大畑建設・日興建設特別共同企業体
- 植栽:
田部、大畑建設
- アスファルト舗装:
大成建設・大畑建設・日興建設特別共同企業体
- 屋根・外壁石州瓦:
施工=益田窯業 製造=益田窯業、木村窯業、シバオ
瓦ファスニングシステム(外壁石州瓦取付):
施工=製作=シマムラ
- 外壁タイル:
施工=協和タイル 製造=株式会社 スカラ
- 特殊照明:
ヤマギワ

面積一覧

面積
一覧

石見美術館

•展示前室	255.2㎡
•展示室A	388.8㎡
•展示室B	202.5㎡
•展示室C	307.8㎡
•展示室D	1091.5㎡
•美術館ロビー	498.2㎡
•搬入荷解スペース(展示倉庫含む)	414.3㎡
•美術館搬出入口	178.6㎡
•収蔵庫1	290.3㎡
•収蔵庫2	189.0㎡
•収蔵庫前室	61.1㎡
•一時保管庫	101.2㎡
•修復室	35.6㎡
•隔離室	22.8㎡
•写真室	99.8㎡
•学芸員室	61.8㎡
•研究資料室	47.7㎡

共用・管理部門

•応接室	43.0㎡
•センター長室	22.9㎡
•副センター長室	22.6㎡
•ホール館長室	22.9㎡
•事務室	170.2㎡
•講義室	102.1㎡
•ボランティア室	43.4㎡
•アテンダント控室	20.2㎡
•救護室	7.4㎡
•授乳室	11.0㎡
•AV機械室	23.6㎡
•中央監視室	47.3㎡
•清掃員室	16.8㎡

•回廊	1358.3㎡
•中庭広場	2079.3㎡
•美術館中庭	170.5㎡
•事務中庭	220.5㎡

•多目的ギャラリー	182.4㎡
•ミュージアムショップ	89.0㎡
•レストラン	182.6㎡

いわみ芸術劇場

大ホール

•ホワイエ 1F/2F	1436.5㎡
•客席 1F/2F	1153.3㎡
•舞台	1065.3㎡
•親子室	15.1㎡
•要約筆記室	14.7㎡
•調光操作室	29.8㎡
•音響調整室	24.4㎡
•奈落	138.7㎡
•オーケストラピット	89.9㎡
•客席ワゴン収納庫	197.7㎡

•小楽屋 1	19.6㎡
•小楽屋 2	19.6㎡
•中楽屋 1	31.0㎡
•中楽屋 2	30.9㎡
•中楽屋 3	32.0㎡
•中楽屋 4	32.0㎡
•大楽屋 1	73.4㎡
•大楽屋 2	74.0㎡
•楽屋サロン	106.7㎡
•主催者控室	10.3㎡
•大ホール楽屋中庭	86.6㎡

小ホール

•ホワイエ 1F/2F	478.4㎡
•客席	394.6㎡
•舞台	416.6㎡
•調光操作室	27.3㎡
•音響調整室	26.8㎡
•投映室	12.9㎡

•小楽屋 1	16.4㎡
•小楽屋 2	16.4㎡
•中楽屋 1	27.7㎡
•中楽屋 2	27.5㎡
•楽屋サロン	74.0㎡
•主催者控室	10.9㎡
•小ホール楽屋中庭	174.2㎡

•楽屋ロビー	43.0㎡
•楽屋事務室	15.8㎡

•スタジオ 1	256.4㎡
•スタジオ 2	70.9㎡
•ピアノ庫	42.4㎡
•スタジオロッカー室 1/2	14.1㎡

運営組織体制

施設名称

島根県芸術文化センター（島根県立石見美術館、島根県立いわみ芸術劇場）

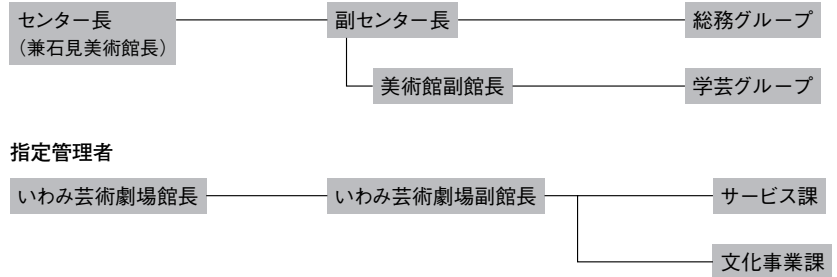
組織体制

島根県芸術文化センター顧問

- 高階秀爾（大原美術館館長、元国立西洋美術館館長）
- 遠山敦子（新国立劇場理事長、元文部科学大臣）
- 島山博治（NHK理事）
- 福原義春（資生堂名誉会長、東京都写真美術館館長）
- 森英恵（ファッションデザイナー）
- 若杉弘（びわこホール・東京室内歌劇場芸術監督、東京芸術大学名誉教授、日本芸術院会員）

島根県芸術文化センター

島根県



シンボルマーク

このシンボルマークは、島根県を示すアルファベットの「S」と石見を示すアルファベットの「I」で構成され、また日本海の遠望を連想させる奥行きも加味してデザインされたものである。アルファベットの「I」のオレンジ色のイメージは石州瓦の色を連想させるだけでなく、他の色との組み合わせで色彩豊かにすることで、美術館とホールの文化施設を晴れやかに謳い上げることをイメージさせる。

矢萩喜從郎



利用案内

開館(利用)時間

石見美術館:開館時間:10:00—18:30(展示室への入場は18:00まで)

いわみ芸術劇場:9:00—22:00

休館日

石見美術館:毎週火曜日、年末年始

いわみ芸術劇場:毎月第2火曜日及び第4火曜日、年末年始

(火曜日が祝日の場合は、その翌日以降の最初の休日でない日が休館日)

※催しにあわせて休館日を変更する場合があります。

石見美術館観覧料

◎コレクション展:一般300(240)円/大学生200(160)円/高校生以下は無料

◎企画展:一般1000(800)円/大学生600(450)円/小中高生300(250)円

()内は20名以上の団体料金

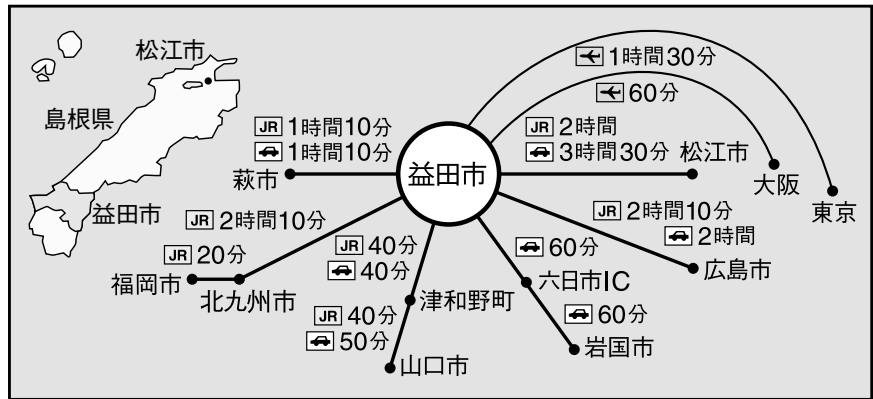
・コレクション展と企画展とを同時に観覧する場合は、コレクション展の観覧料が半額になります。

・小中高生(引率者含む)の学校教育活動による観覧は無料。(事前にセンターにご連絡下さい)

・身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保険手帳をお持ちの方及びその介助者は観覧無料。

いわみ芸術劇場利用料

センターへ直接お問い合わせ下さい。



交通案内

- ・石見交通「グラントワ前」バス停下車(徒歩1分)
- ・JR益田駅から約1km(徒歩15分)
- ・萩・石見空港から約6km(連絡バスJR益田駅まで約15分)
- ・浜田自動車道浜田ICから約40km(自動車約50分)

平成19年3月31日発行

発行 島根県立石見美術館

〒698-0022 島根県益田市有明町5-15

島根県芸術文化センター「グラントワ」内

TEL0856-31-1860(代表) FAX0856-31-1884(代表)

<http://www.grandtoit.jp> E-mail:zaidan@grandtoit.jp